

葛尾村 住民意向調査 報告書

平成26年3月

復興庁
福島県
葛尾村

葛尾村 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的.....	3
1-2 調査内容.....	3
1-3 調査設計.....	3
1-4 回収結果.....	3
1-5 報告書の見方.....	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性.....	7
III 調査結果	13
3-1 現在の状況.....	15
3-1-1 現在の避難先自治体.....	15
3-1-2 世帯構成・人数.....	17
3-1-3 職業.....	24
3-1-4 住居形態.....	34
3-1-5 自動車保有.....	39
3-1-6 ペットの有無.....	40
3-2 将来の意向.....	41
3-2-1 今後の職業についての意向.....	41
3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること.....	50
3-2-3 葛尾村への帰還意向.....	51
3-2-4 葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報.....	56
3-2-5 帰還する場合の住居形態.....	60
3-2-6 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕.....	64
3-2-7 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由.....	66
3-2-8 葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援.....	68
3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由.....	71
3-2-10 帰還しない場合に居住したい自治体.....	74
3-2-11 帰還しない場合の住居形態.....	79
3-2-12 帰還しない場合の住居の確保.....	80
3-2-13 帰還しない場合に今後の生活において求める支援.....	81

3-3	住民懇談会等への参加意向	83
3-3-1	葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況	83
3-3-2	葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況	87
3-4	意見・要望	90
IV	参考資料	107
4-1	使用調査票	109

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、葛尾村の帰還意向を把握するため、平成 25 年度に葛尾村民にアンケート調査を実施し、その調査結果を集計分析することにより、帰還に向けた方策を検討するための基礎資料とするものである。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	葛尾村
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 663 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 25 年 8 月 28 日（水）～平成 25 年 9 月 10 日（火）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、葛尾村
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 418 世帯（有効回収率 63.0%）

1-5 報告書の見方

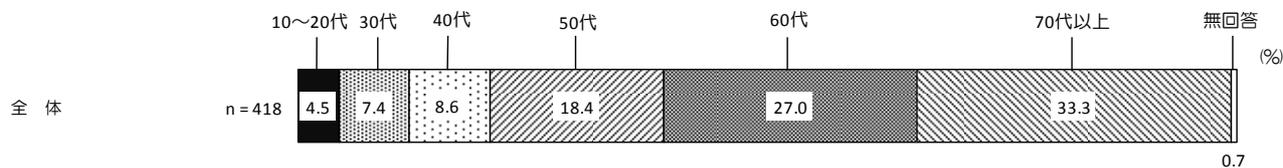
- ・調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表において、比率が少ない選択肢については、比率の表示を省略している場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

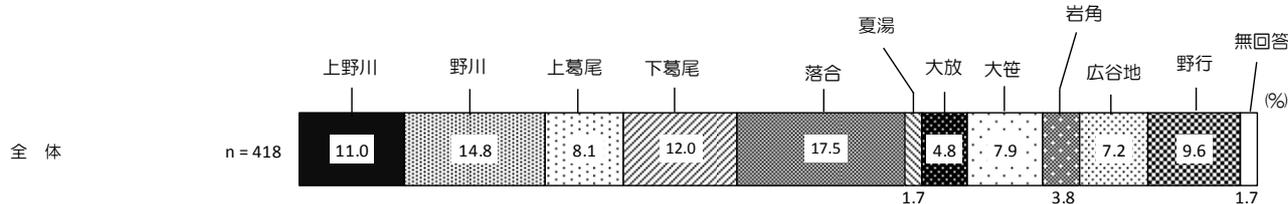
(1) 年齢

<図表2-1-1 年齢>

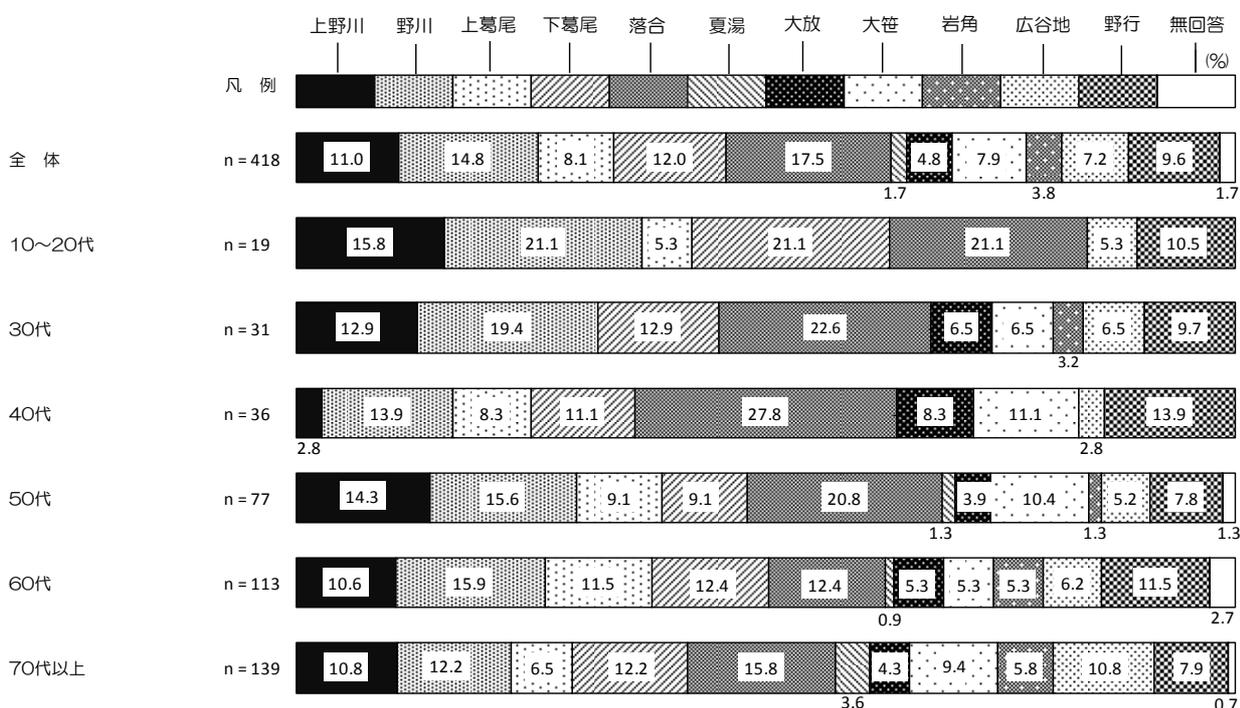


(2) 震災発生当時居住していた行政区

<図表2-1-2 居住行政区>



<図表2-1-3 居住行政区（世帯主の年齢別）>



(3) 震災発生当時の世帯での立場

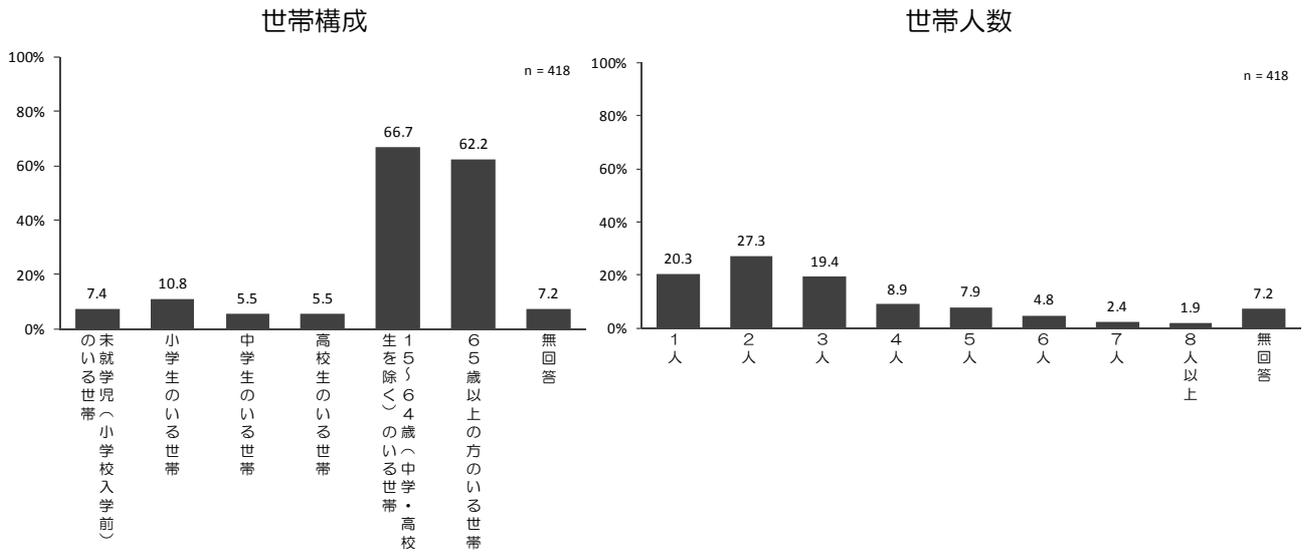
<図表2-1-4 震災発生当時の世帯での立場>



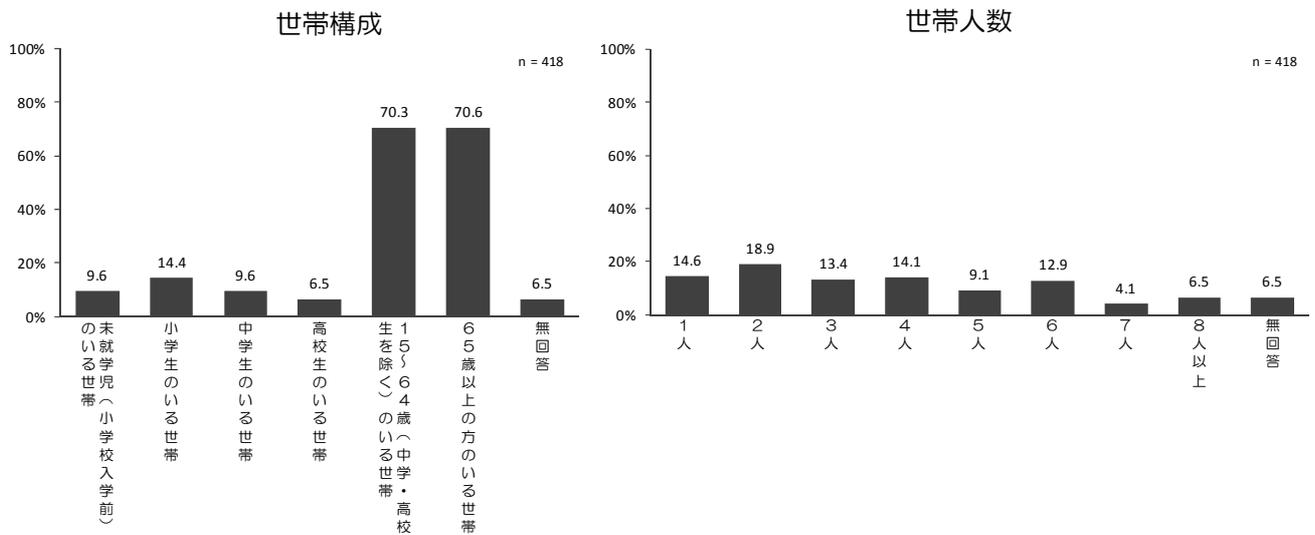
II 回答者の属性

(4) 世帯構成・人数

<図表2-1-5 現在の世帯構成・人数>

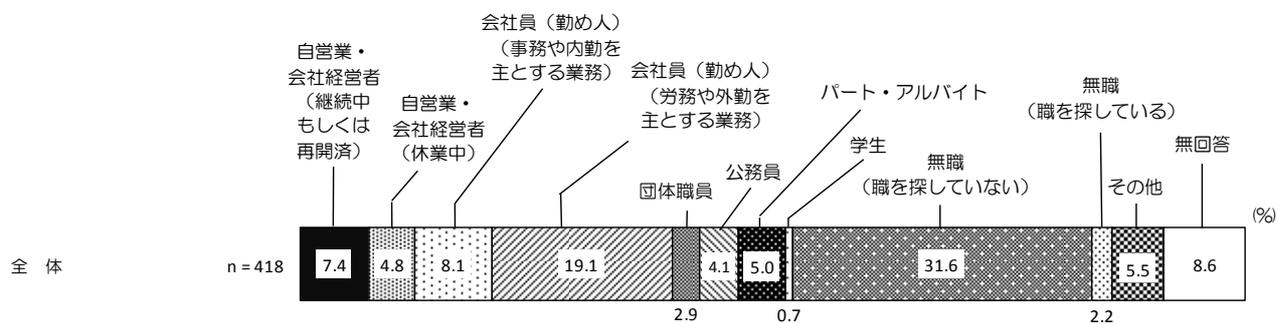


<図表2-1-6 震災発生当時の世帯構成・人数>

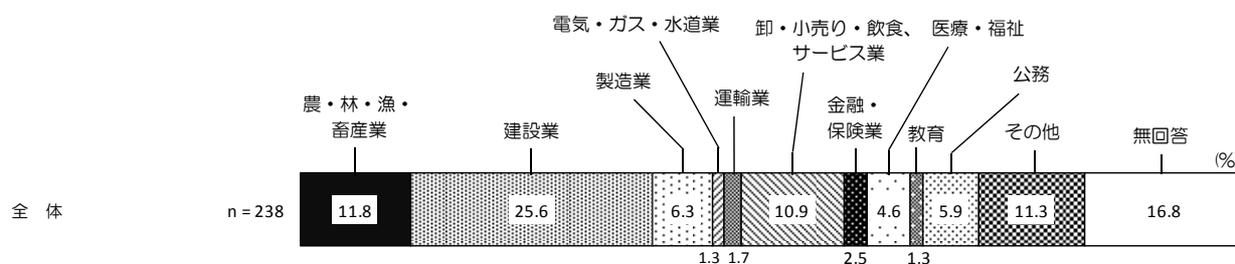


(5) 職業

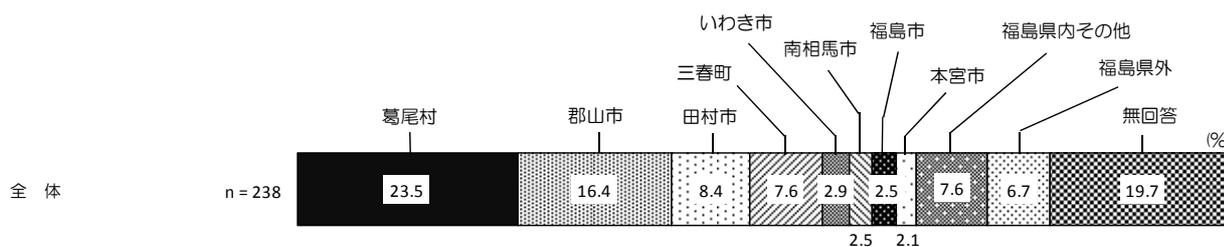
<図表2-1-7 現在の職業（就業形態）>



<図表2-1-8 現在の業種>

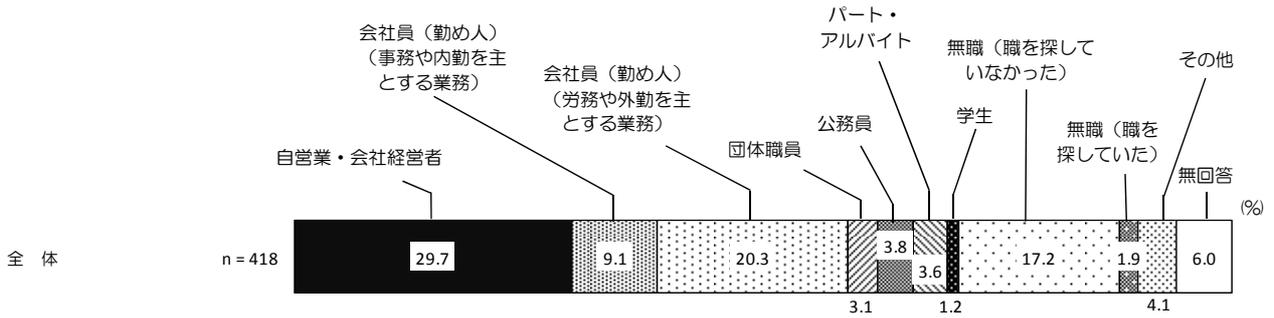


<図表2-1-9 現在の就業先>

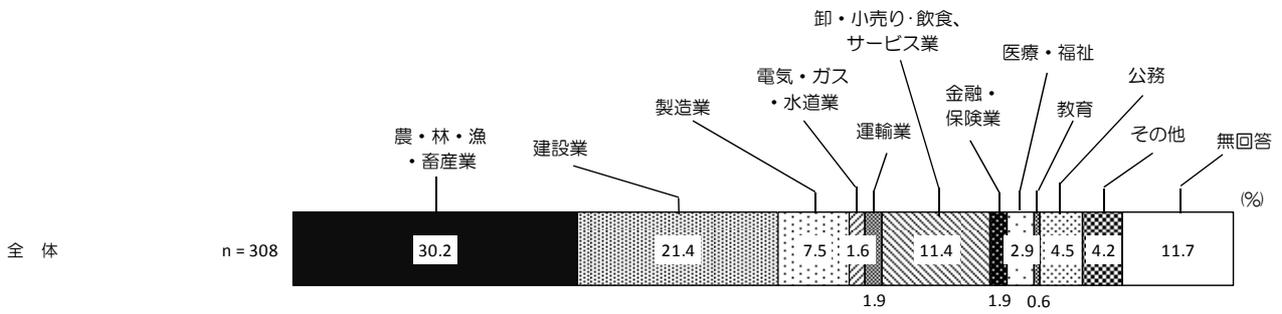


II 回答者の属性

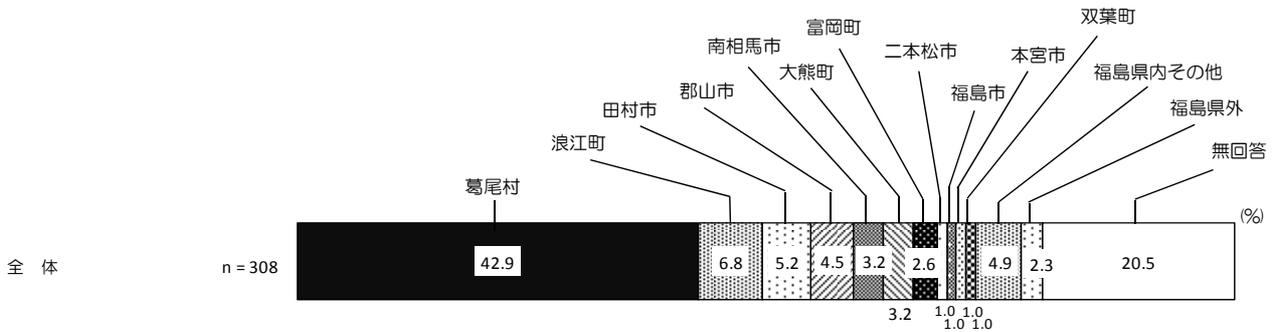
<図表2-1-10 震災発生当時の職業（就業形態）>



<図表2-1-11 震災発生当時の業種>

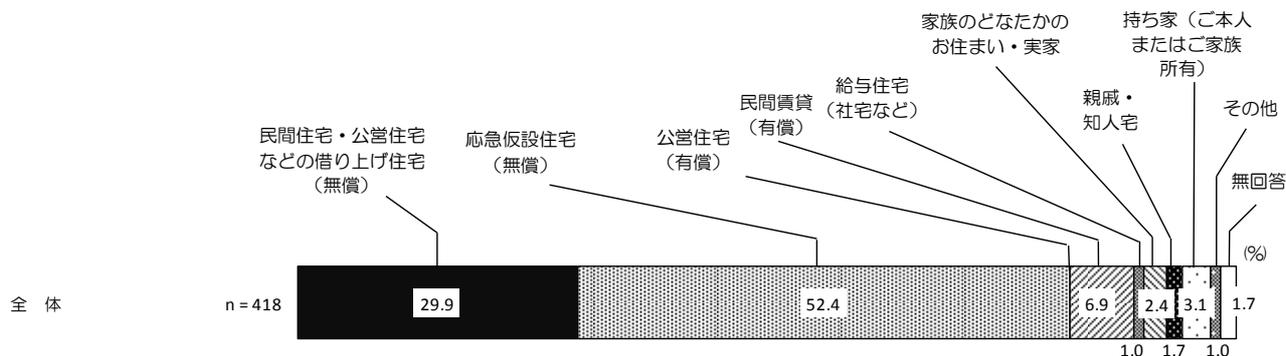


<図表2-1-12 震災発生当時の就業先>

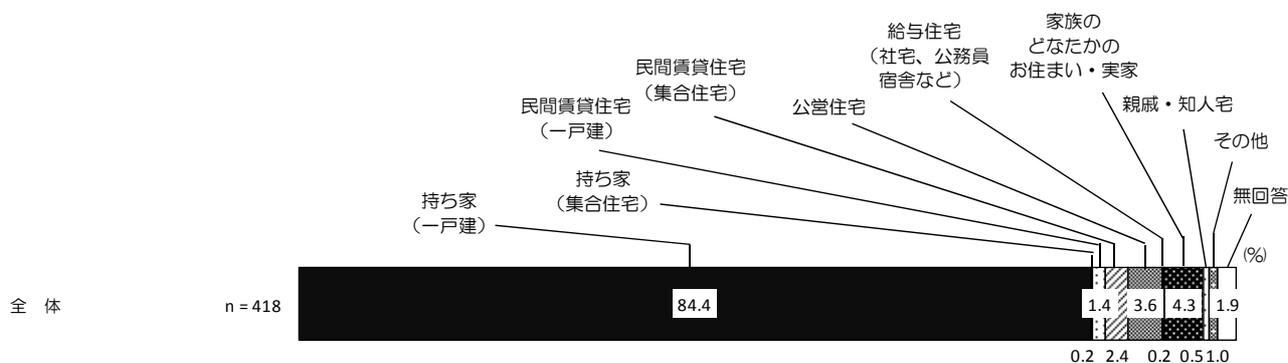


(6) 住居形態

<図表2-1-13 現在の住居形態>



<図表2-1-14 震災発生当時の住居形態>



III 調査結果

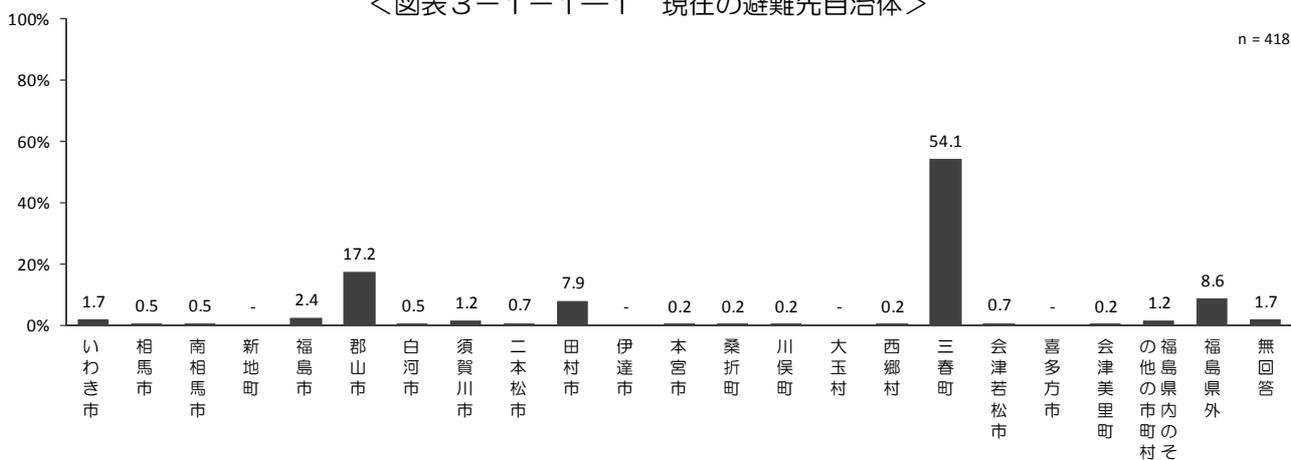
3-1 現在の状況

3-1-1 現在の避難先自治体

問7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

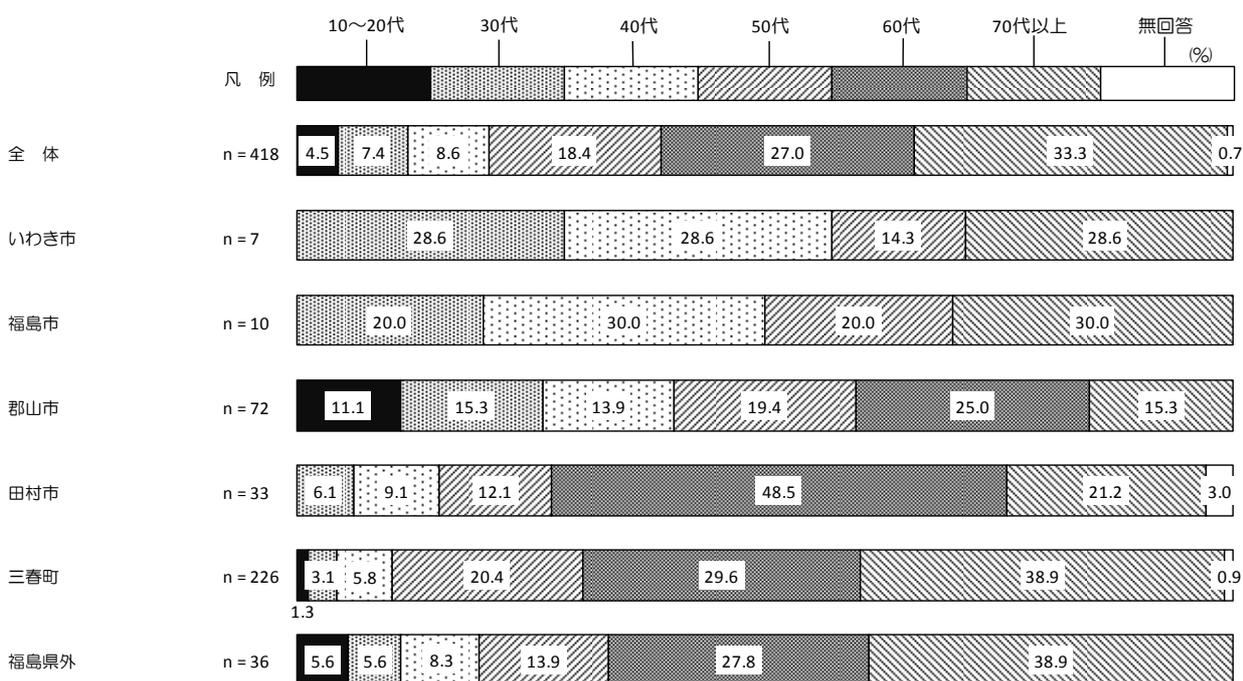
現在の避難先自治体については、「三春町」(54.1%)が最も多く、次いで「郡山市」(17.2%)、「福島県外」(8.6%)となっている。

＜図表3-1-1-1 現在の避難先自治体＞



避難先として主要な自治体について、世帯主の年齢構成をみると、いわき市、福島市では「30代」「40代」が過半数となっている一方、田村市、三春町、福島県外では「60代」「70代以上」が6割以上となっている。

＜図表3-1-1-2 主要な避難先自治体の世帯主の年齢構成＞



Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、全ての行政区域で「三春町」が4割を超え割合が高くなっている。

＜図表3-1-1-3 避難先自治体（居住行政区別）＞

		(%)					
	n	いわき市	福島市	郡山市	田村市	三春町	福島県外
全 体	418	1.7	2.4	17.2	7.9	54.1	8.6
上野川	46	-	2.2	26.1	6.5	63.0	-
野川	62	-	-	27.4	8.1	54.8	4.8
上葛尾	34	2.9	-	8.8	14.7	55.9	14.7
下葛尾	50	-	2.0	20.0	10.0	50.0	12.0
落合	73	1.4	4.1	13.7	6.8	53.4	6.8
夏湯	7	-	-	-	-	71.4	14.3
大放	20	5.0	5.0	20.0	-	60.0	-
大笹	33	3.0	6.1	3.0	12.1	54.5	9.1
岩角	16	12.5	-	6.3	12.5	43.8	18.8
広谷地	30	-	-	13.3	3.3	60.0	13.3
野行	40	2.5	5.0	22.5	5.0	40.0	12.5

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

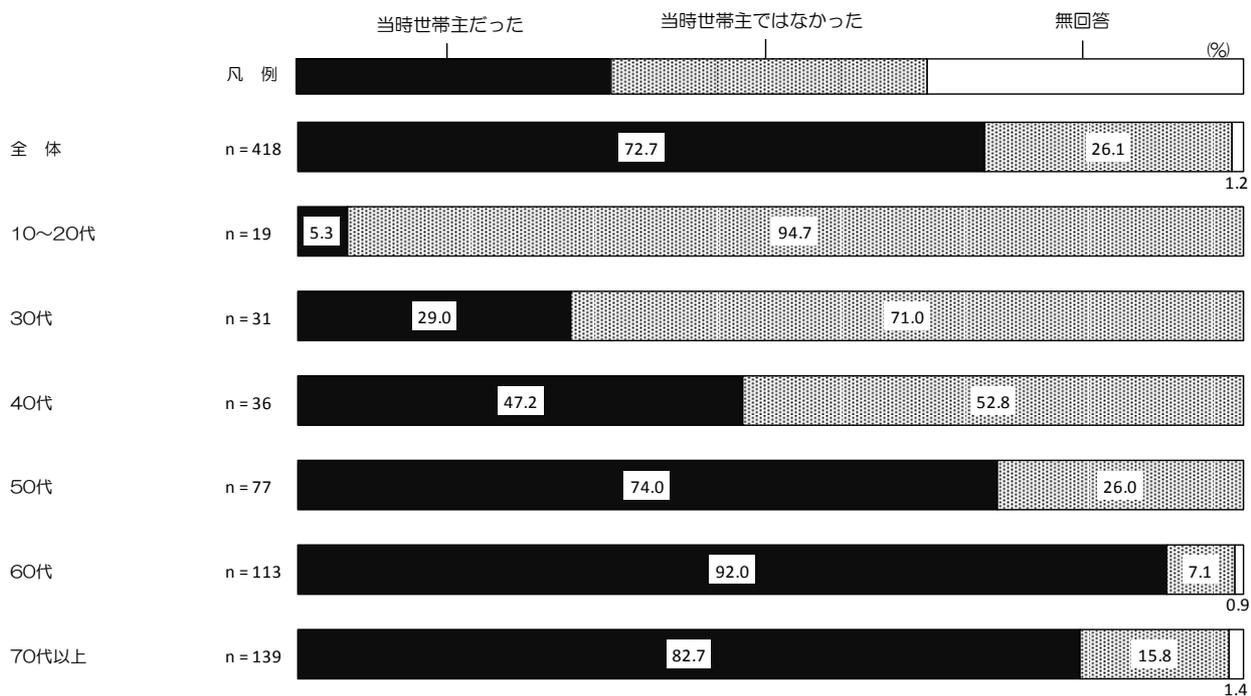
震災発生当時の世帯での立場について、「当時世帯主だった」が72.7%と7割を超えている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場>



世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従って、「当時世帯主だった」の割合が高くなっており、60代(92.0%)、70代(82.7%)で8割を超えている。

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯での立場(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(2) 現在の世帯構成・人数

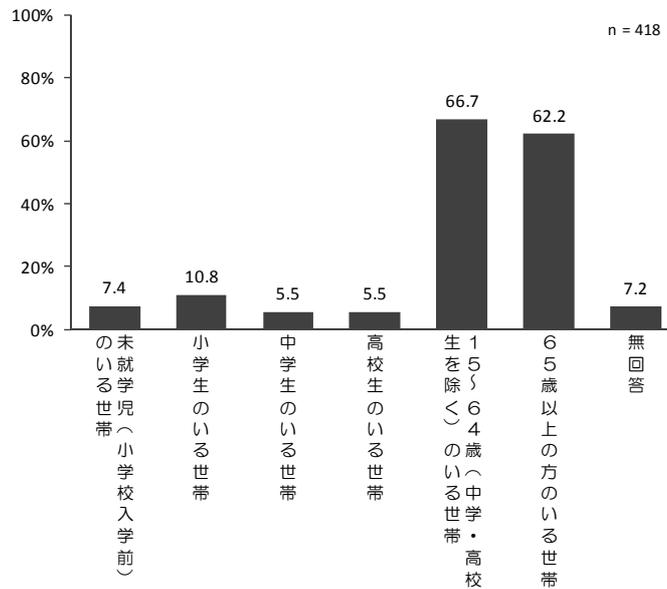
問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①現在の世帯構成

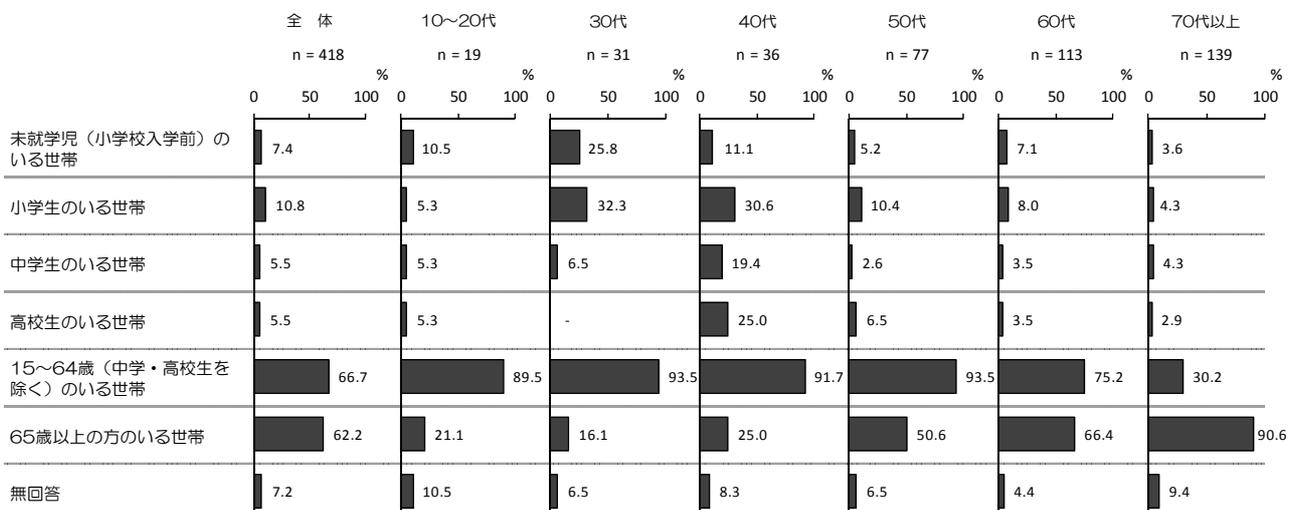
現在の世帯構成は、高校生以下(「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」)が同居する世帯は、それぞれ1割前後となっており、「65歳以上の方のいる世帯」は62.2%となっている。

<図表3-1-2-3 現在の世帯構成>



世帯主の年齢別にみると、「15~64歳(中学・高校生を除く)のいる世帯」が、概ねいずれの年齢層でも多くなっている。

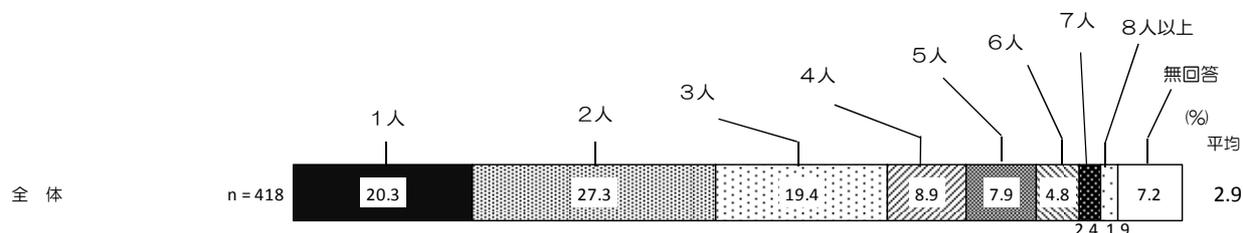
<図表3-1-2-4 現在の世帯構成(世帯主の年齢別)>



②現在の世帯人数

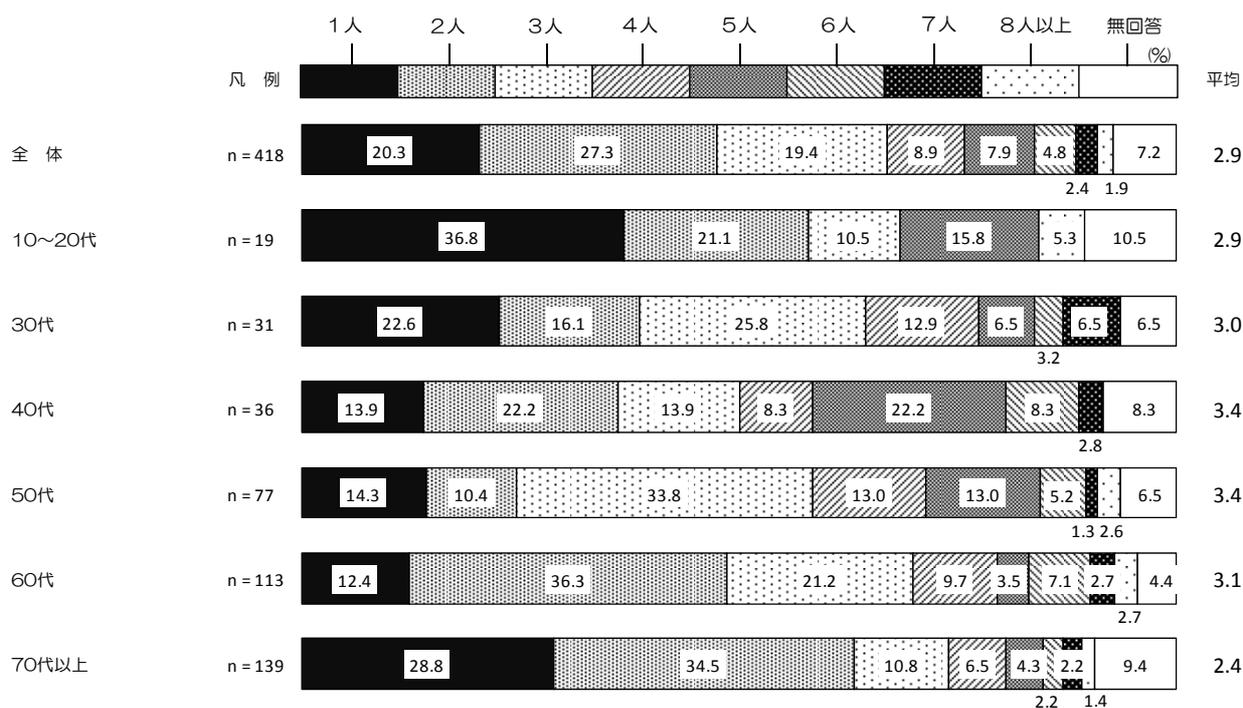
現在の世帯人数については、「2人」(27.3%)が最も多く、次いで「1人」(20.3%)、「3人」(19.4%)となり、平均人数は2.9人となっている。

<図表3-1-2-5 現在の世帯人数>



世帯主の年齢別にみると、「2人」は、60代以上で3割を超えている。また、50代では、「3人」が3割を超えており、他の年齢層に比べ割合が高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

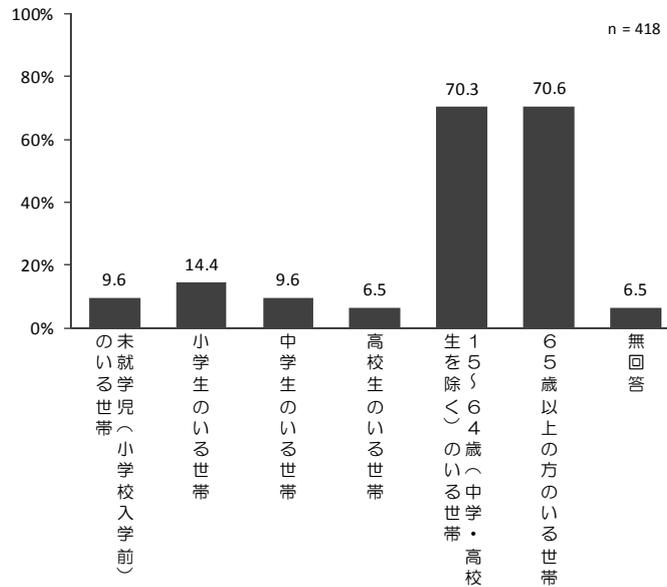
問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(2) 震災発生ときに、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①震災発生当時の世帯構成

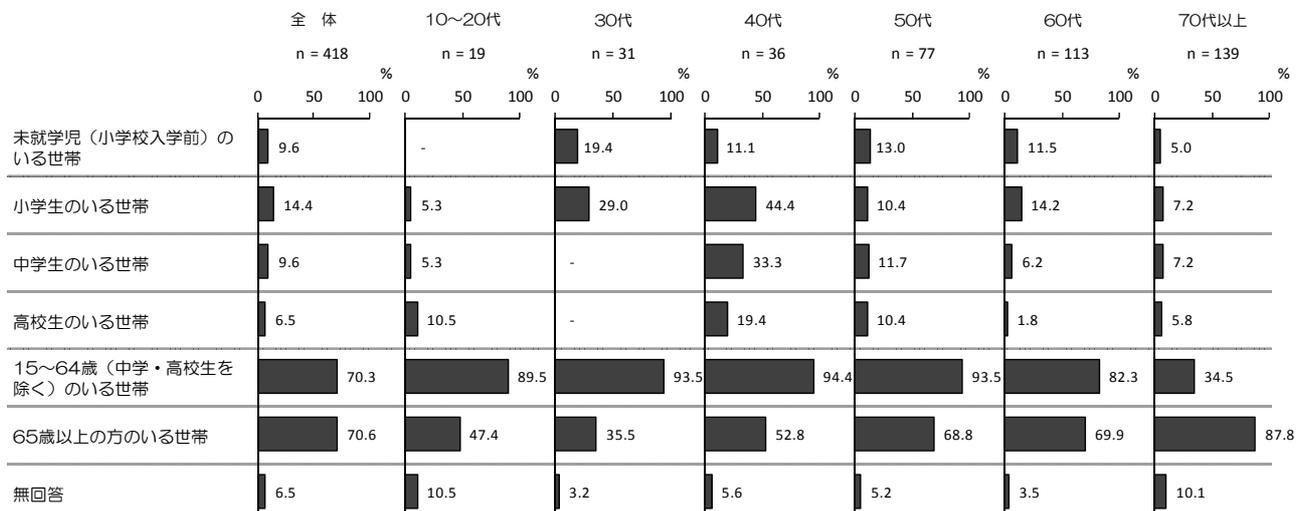
震災発生当時の世帯構成については、高校生以下(「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」)が同居する世帯は、それぞれ1割前後となっており、「65歳以上の方のいる世帯」(70.6%)は7割以上を占める。

<図表3-1-2-7 震災発生当時の世帯構成>



世帯主の年齢別にみると、現在の世帯構成と同様に「15~64歳(中学・高校生を除く)のいる世帯」が概ねいずれの年齢層でも最も多い。一方、10~30代では、現在の世帯構成に比べ「65歳以上の方のいる世帯」の割合が約2倍となっている。

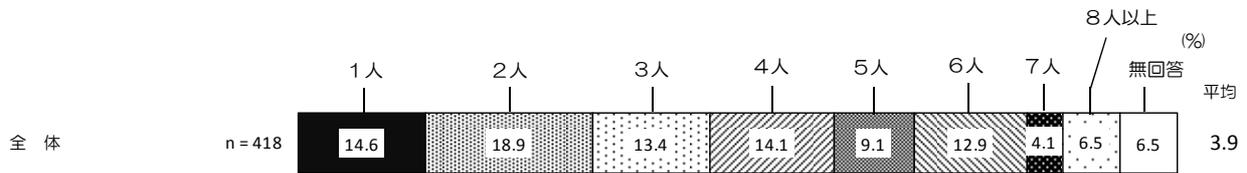
<図表3-1-2-8 震災発生当時の世帯構成(世帯主の年齢別)>



②震災発生当時の世帯人数

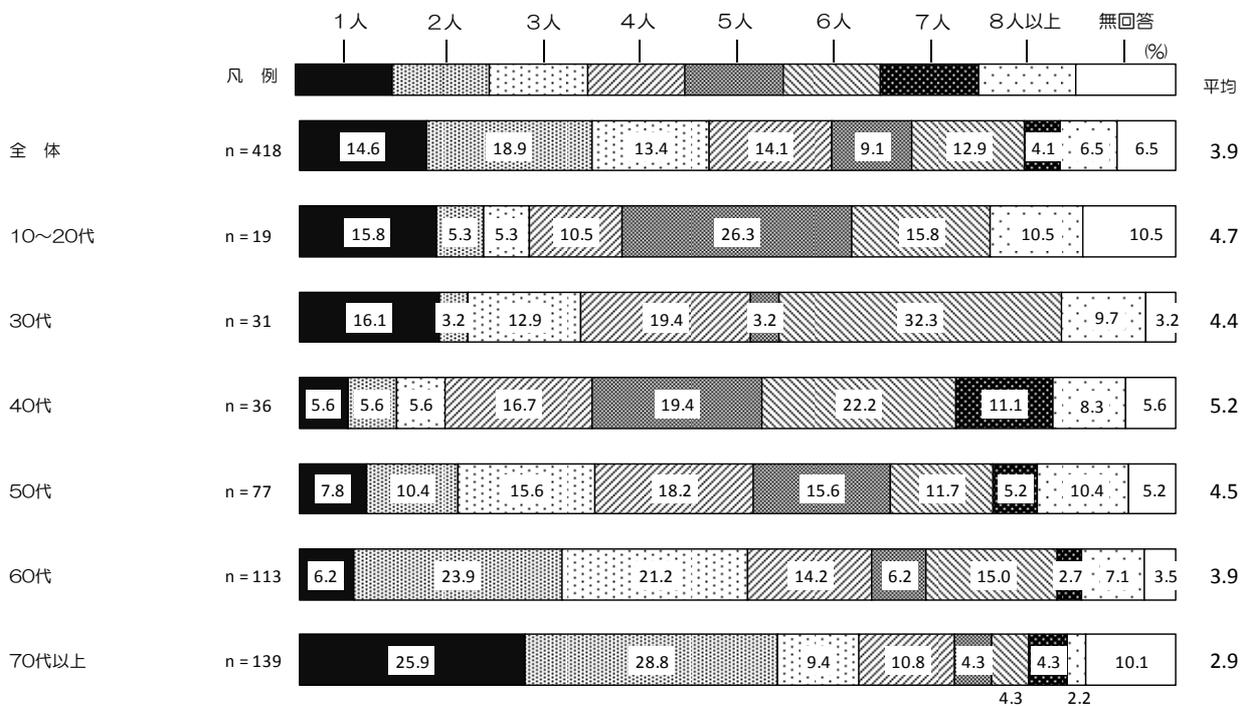
震災発生当時の世帯人数について、「2人」(18.9%)が最も多く、次いで「1人」(14.6%)、「4人」(14.1%)となっている。

<図表3-1-2-9 震災発生当時の世帯人数>



世帯主の年齢別にみると、「2人」は、概ね高齢層で割合が高く、70代以上では、「1人」が2割を超えており、他の年齢層に比べ割合が高くなっている。

<図表3-1-2-10 震災発生当時の世帯構成（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

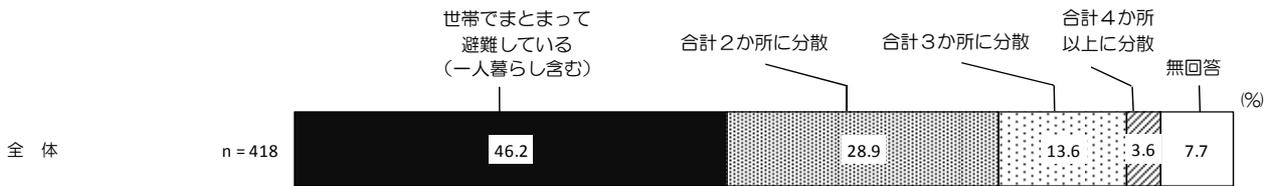
(4) 世帯の分散状況

問8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(3) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

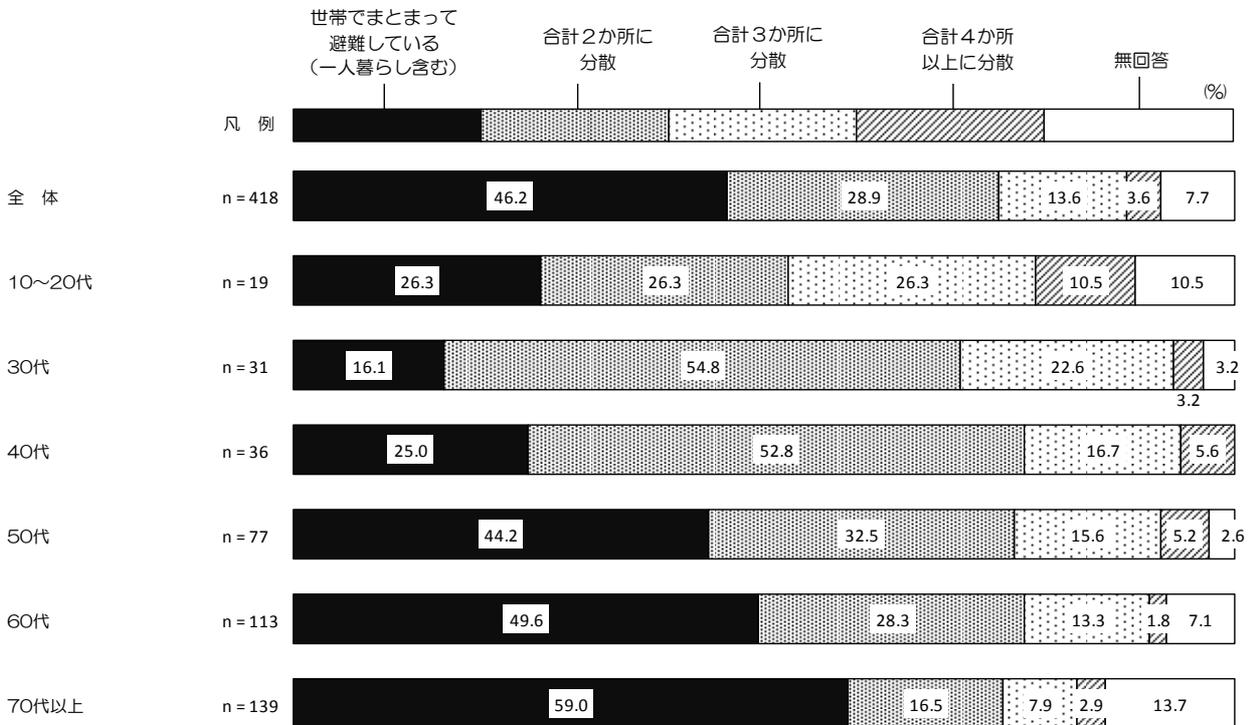
世帯の分散状況について、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」(46.2%)が最も多く、次いで「合計2か所に分散」(28.9%)、「合計3か所に分散」(13.6%)となっている。

<図表3-1-2-11 世帯の分散状況>



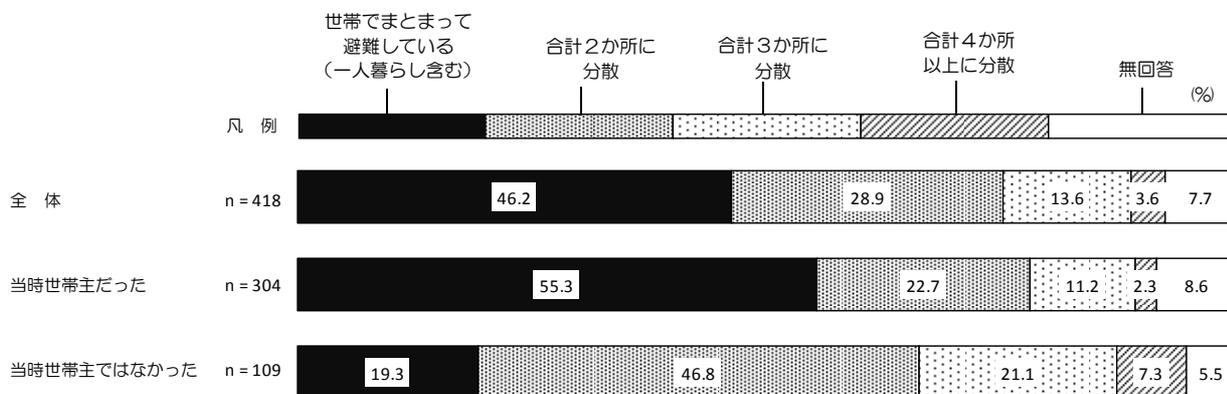
世帯主の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」は、概ね年齢層が上がるほど割合が高くなっているが、30代、40代では、「合計2か所以上に分散」が過半数となっている。

<図表3-1-2-12 世帯の分散状況(世帯主の年齢別)>



震災発生時の世帯での立場別にみると、当時「世帯でまとまって避難している（一人暮らし含む）」は、当時世帯主だったという世帯（55.3%）では過半数となる一方、当時世帯主ではなかった世帯（19.3%）では2割弱にとどまっている。当時世帯主ではなかった世帯では、「合計2か所に分散」が46.8%と半数弱、「合計3か所に分散」も21.1%となっている。

<図表3-1-2-13 世帯の分散状況（当時の世帯での立場別）>



III 調査結果

3-1-3 職業

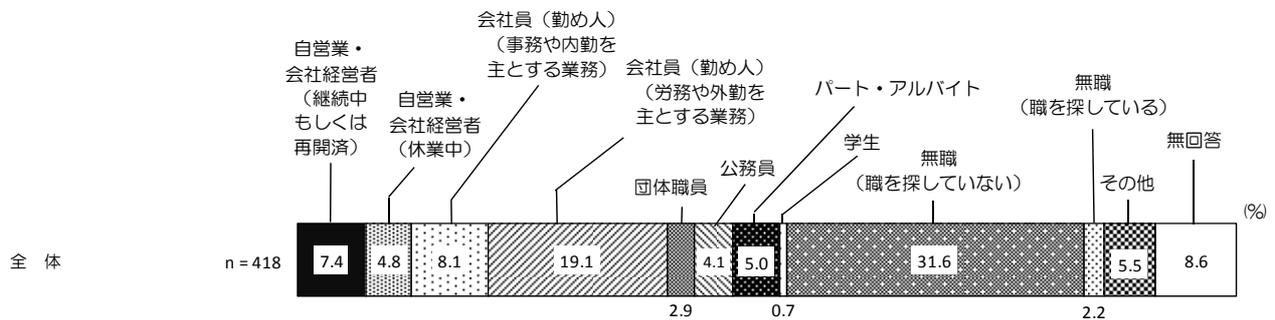
(1) 現在の職業（就業形態）

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

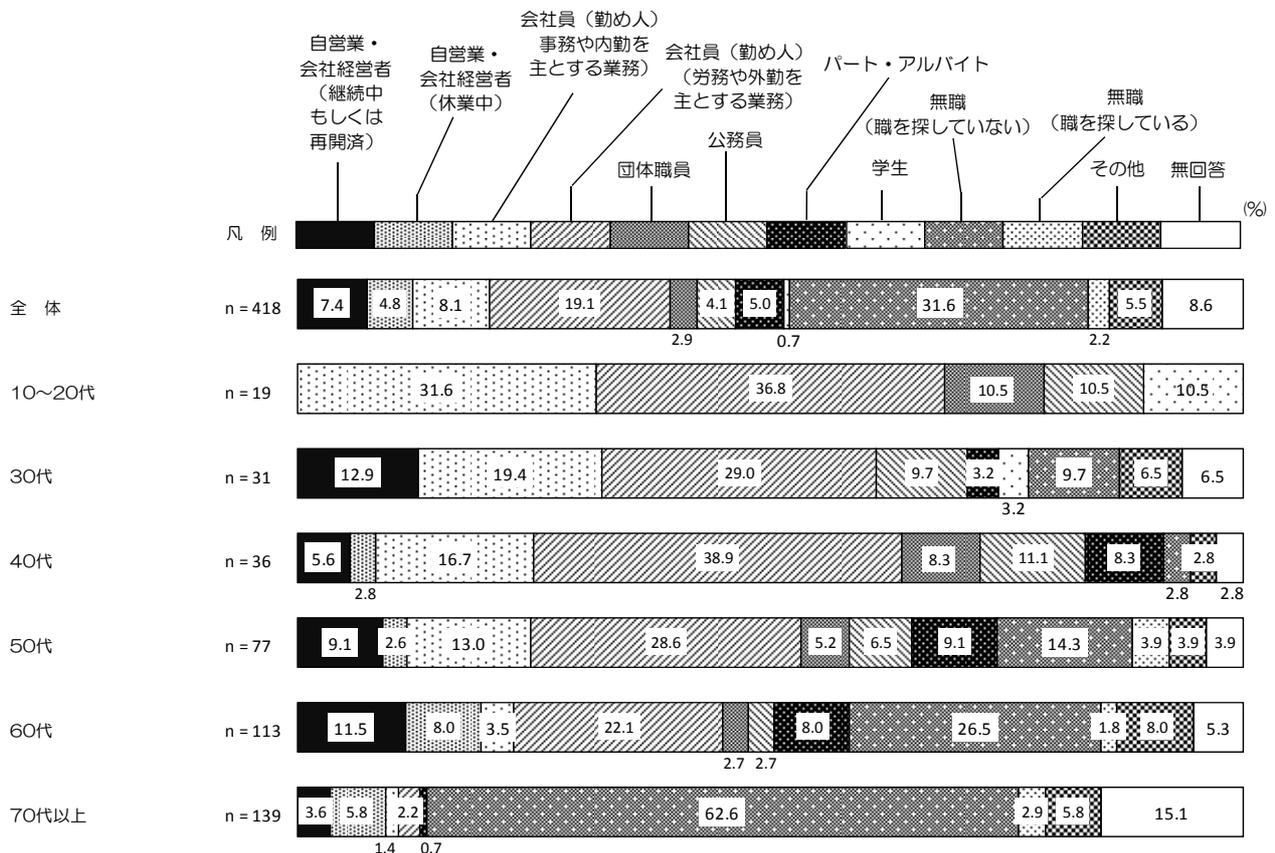
現在の職業について、「無職（職を探していない）」(31.6%) が最も多く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(19.1%)、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」(8.1%) となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業>



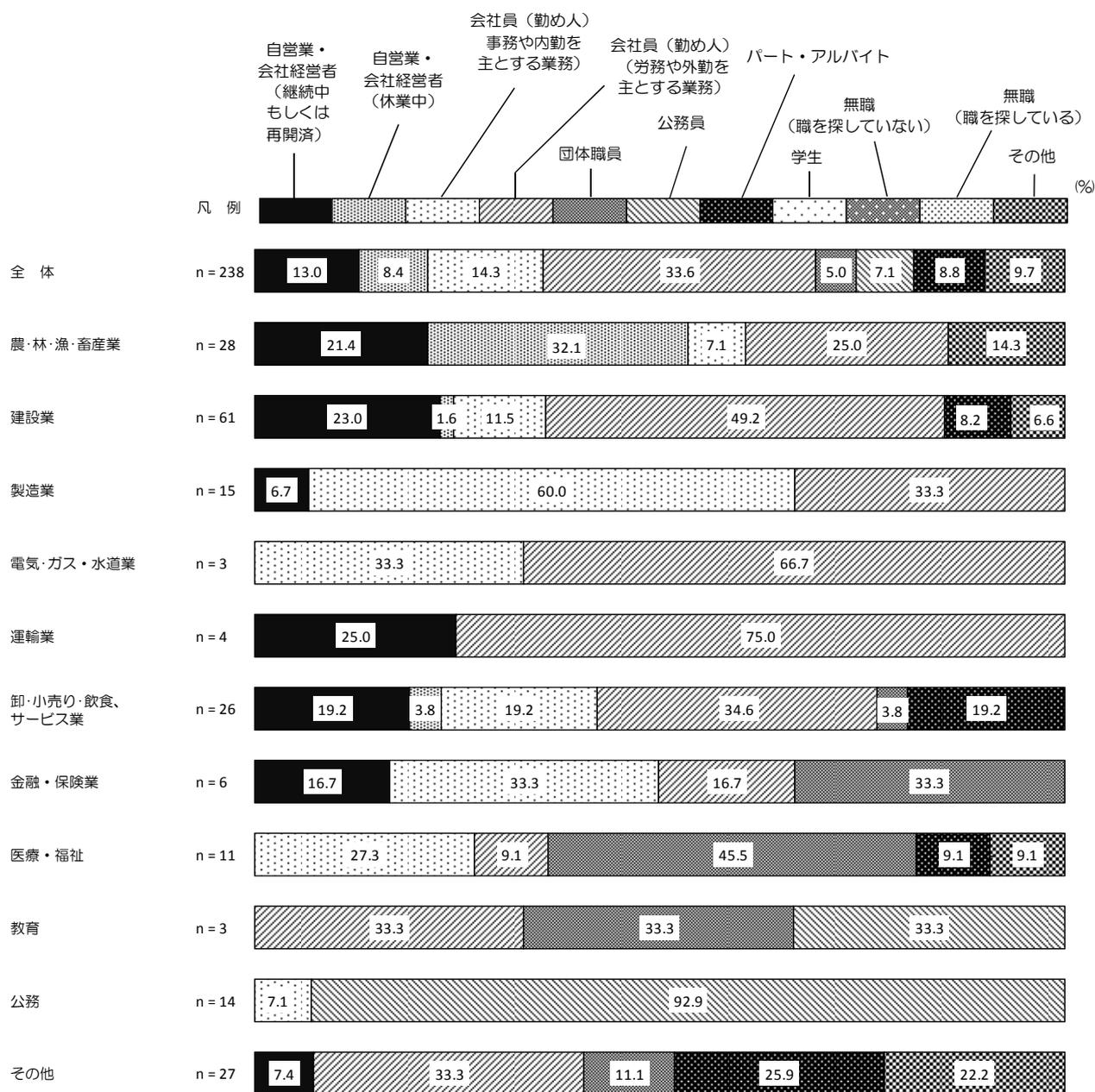
世帯主の年齢別にみると、「無職（職を探していない）」は60代以上で高く、特に70代以上（62.6%）では6割以上を占めている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（世帯主の年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業の業種別にみると、農・林・漁・畜産業で「自営業・会社経営者（休業中）」が32.1%と、他の業種に比べて高くなっている。

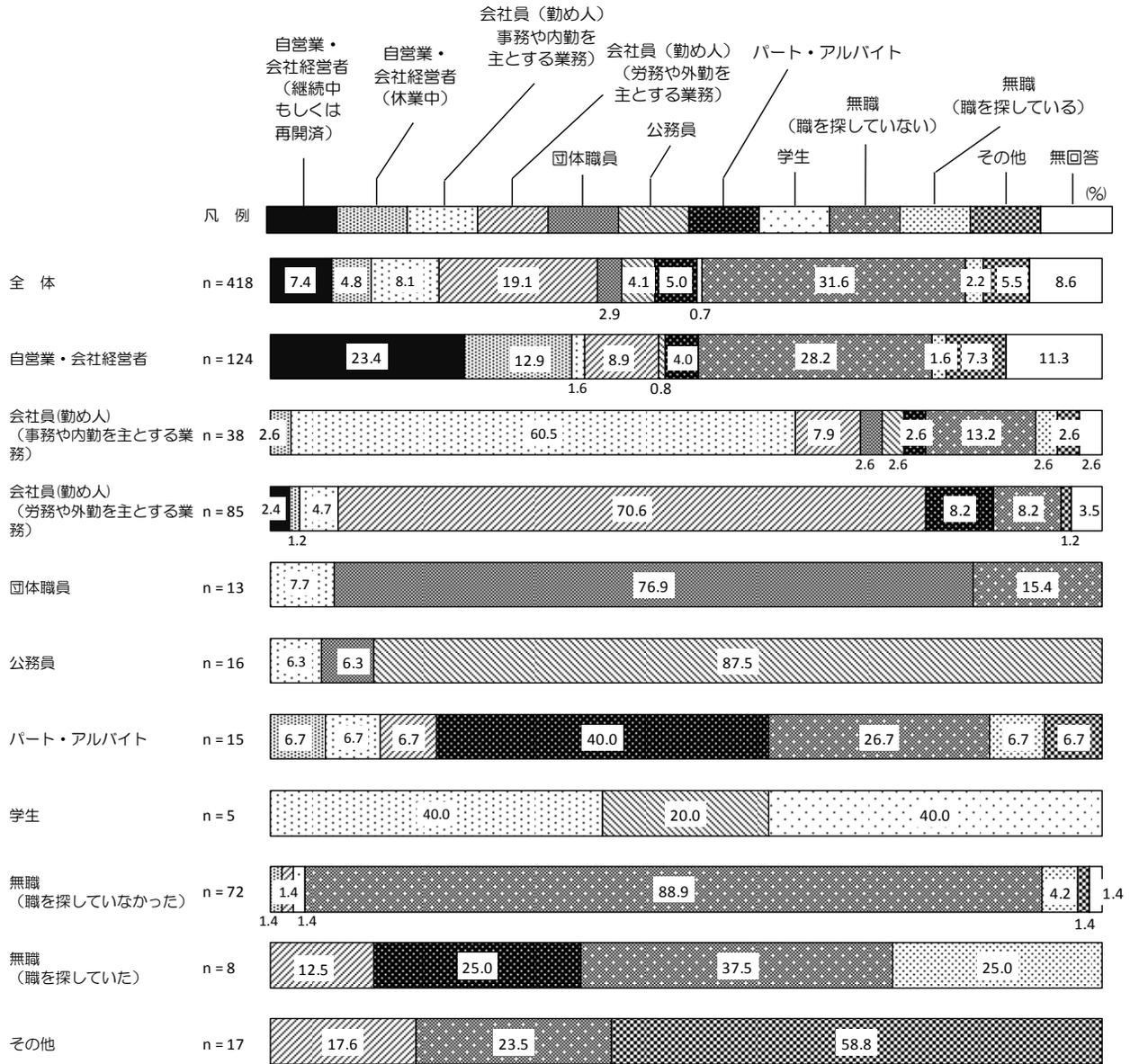
<図表3-1-3-3 現在の職業（現在の業種別）>



III 調査結果

震災発生当時の職業別にみると、概ね現在も同じ職業である割合が高いが、自営業・会社経営者、パート・アルバイトだった方の3割弱、無職（職を探していた）方の4割弱が「無職（職を探していない）」に移行していることがわかる。

<図表3-1-3-4 現在の職業（震災発生当時の職業別）>



(2) 現在の業種

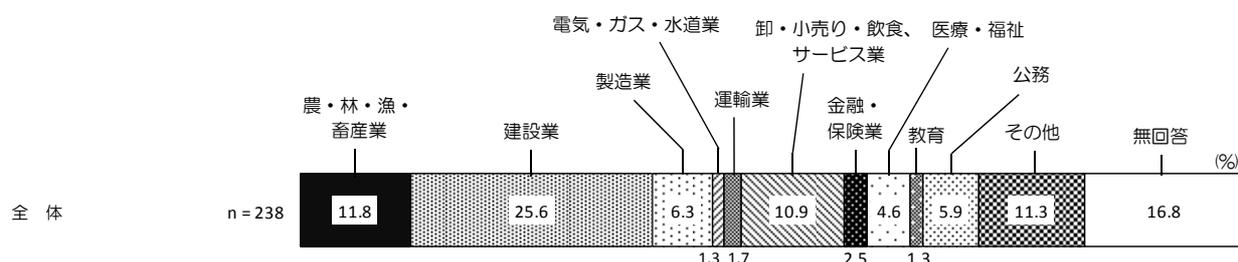
問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

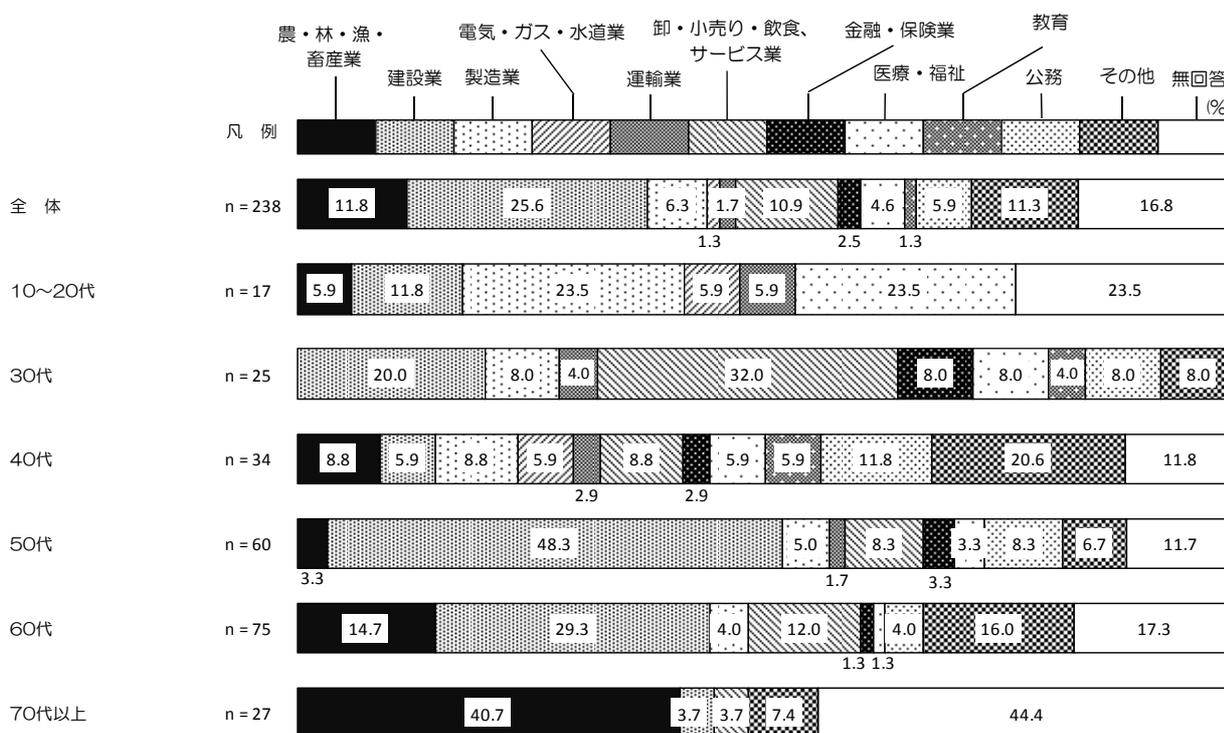
世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」(25.6%)が最も多く、次いで「農・林・漁・畜産業」(11.8%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」(10.9%)となっている。

<図表3-1-3-5 現在の業種>



世帯主の年齢別にみると、「建設業」は50代(48.3%)、60代(29.3%)の割合が高く、70代以上では「農・林・漁・畜産業」(40.7%)、10~20代では「製造業」(23.5%)、「医療・福祉」(23.5%)の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-1-3-6 現在の業種(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(3) 現在の就業先

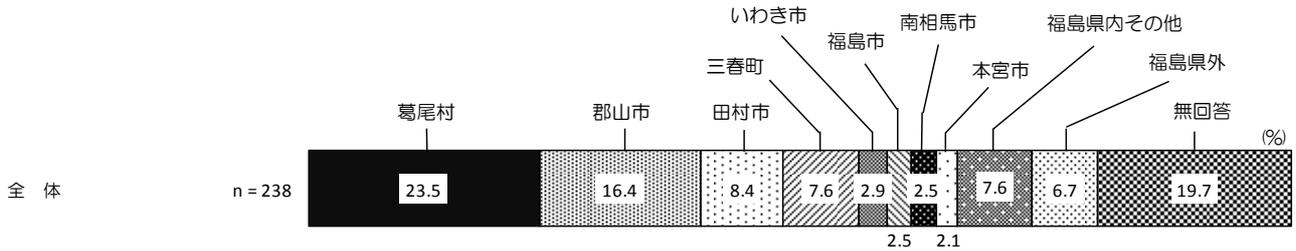
問 2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

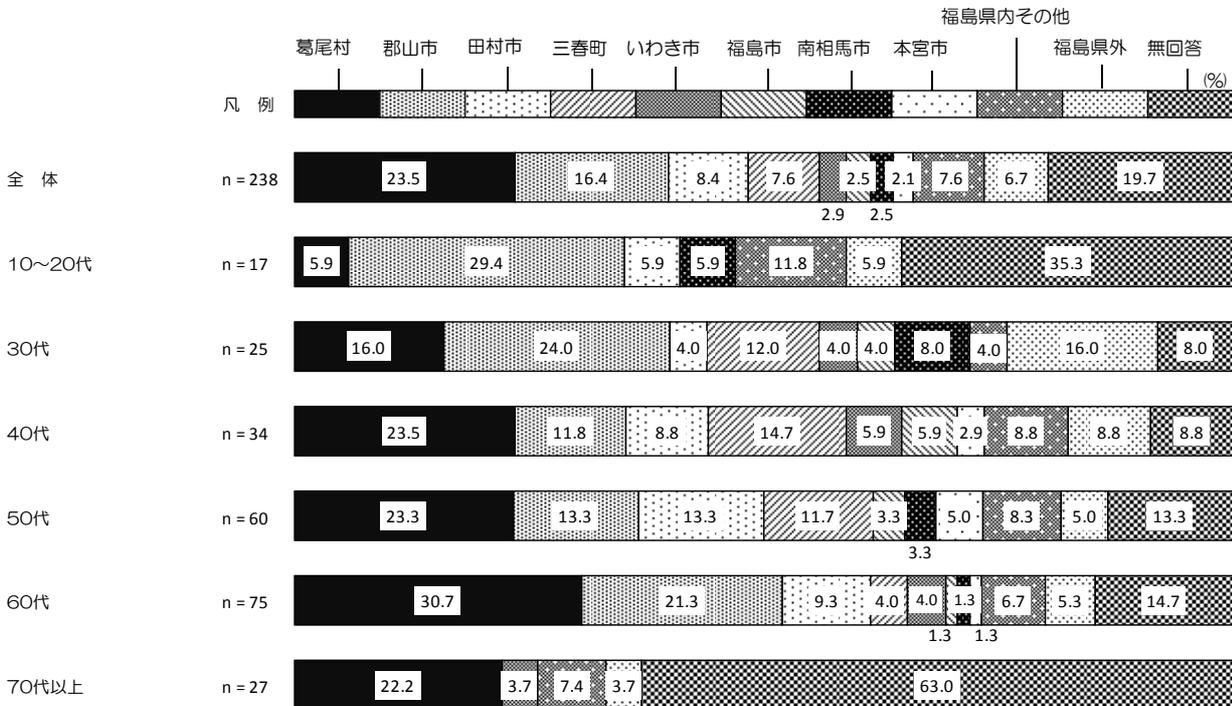
世帯主が就業しているとした世帯の就業先自治体については、「葛尾村」(23.5%)が最も多く、次いで「郡山市」(16.4%)、「田村市」(8.4%)となっている。

<図表3-1-3-7 現在の就業先>



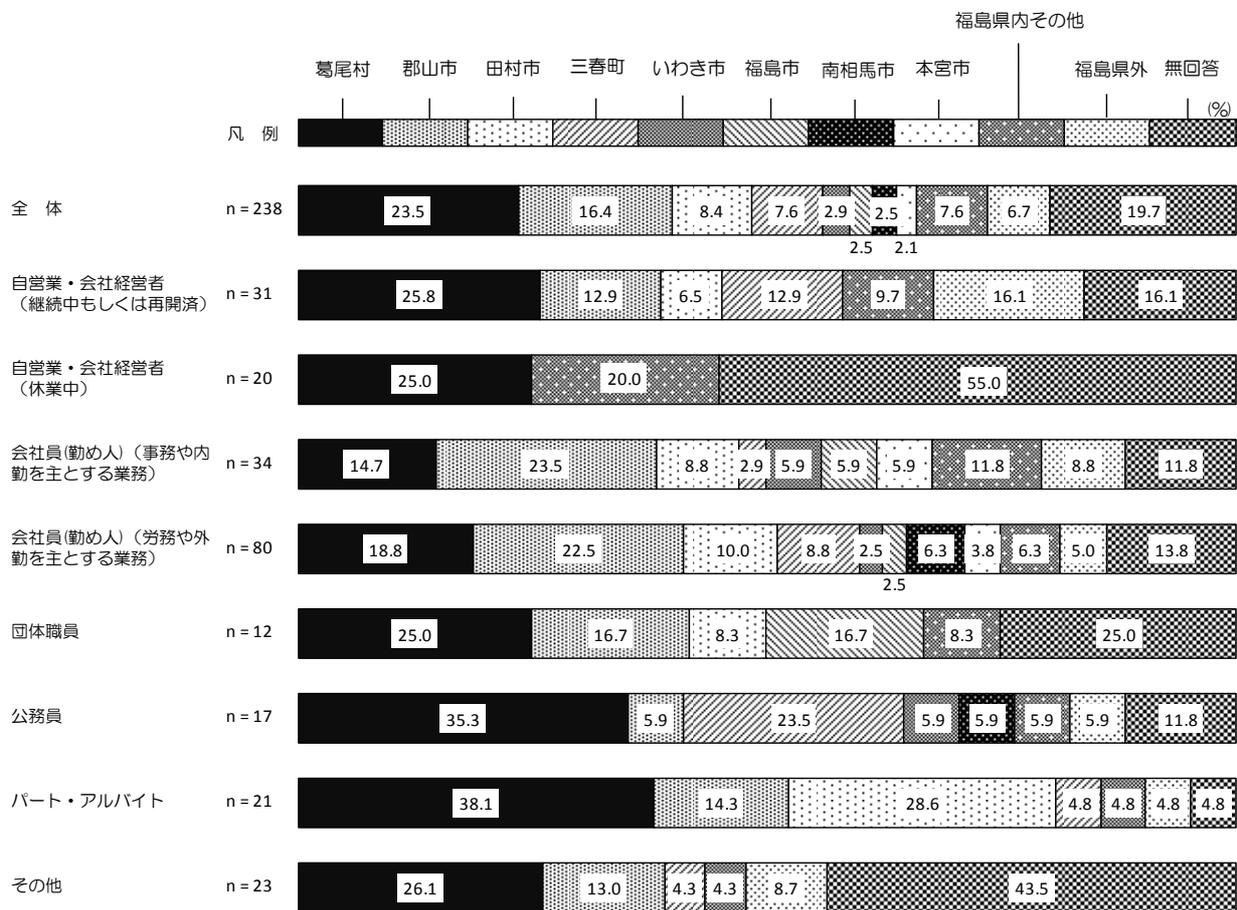
世帯主の年齢別にみると、40代以上では「葛尾村」の割合が2割以上と高くなっているが、10~20代、30代では、「郡山市」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

<図表3-1-3-8 現在の就業先(世帯主の年齢別)>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業別にみると、自営業・会社経営者や団体職員、公務員、パート・アルバイトでは「葛尾村」の割合が3割前後と高くなっている。一方、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）では「郡山市」が約2割となっており、他の職業に比べて割合が高くなっている。

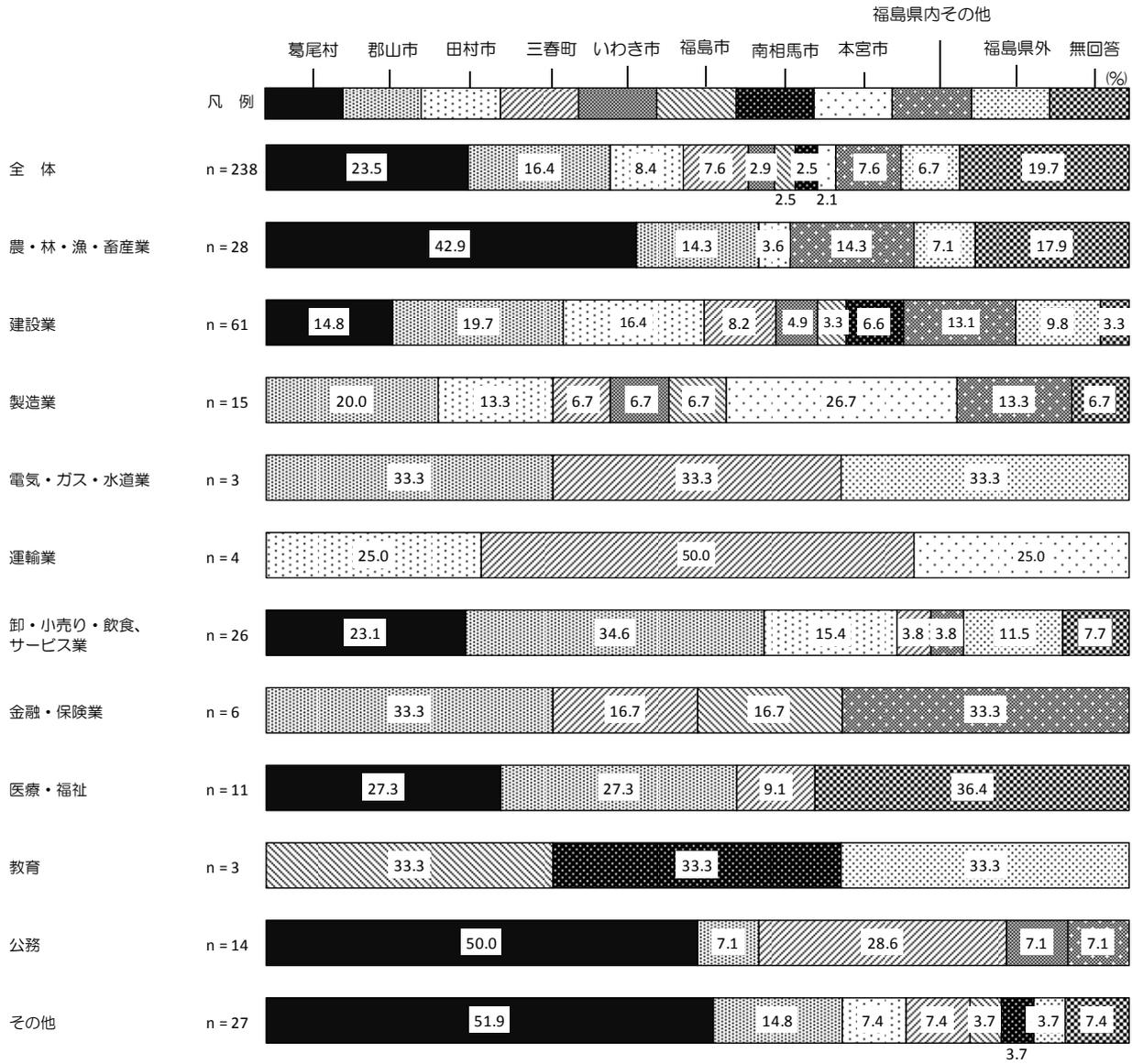
<図表3-1-3-9 現在の就業先（現在の職業別）>



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業の業種別にみると、農・林・漁・畜産業（42.9%）、公務（50.0%）、その他の業種（51.9%）で「葛尾村」が約4割を超えており、他の業種に比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-3-10 現在の就業先（現在の業種別）>

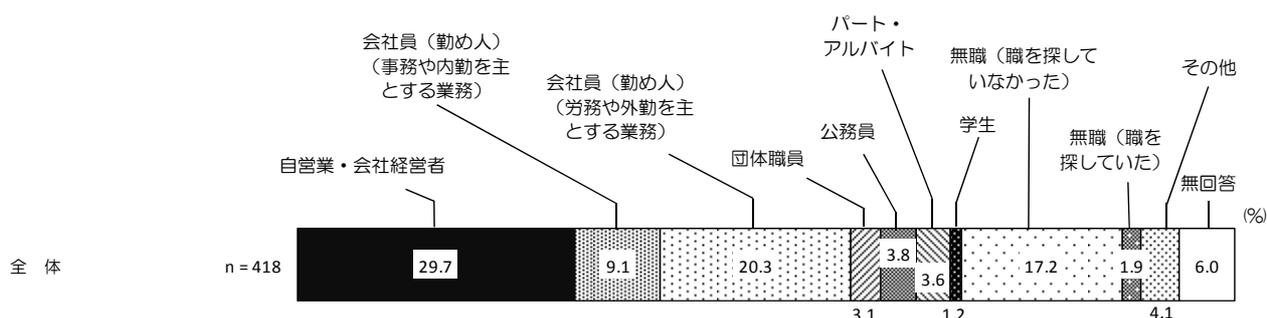


(4) 震災発生当時の職業（就業形態）

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

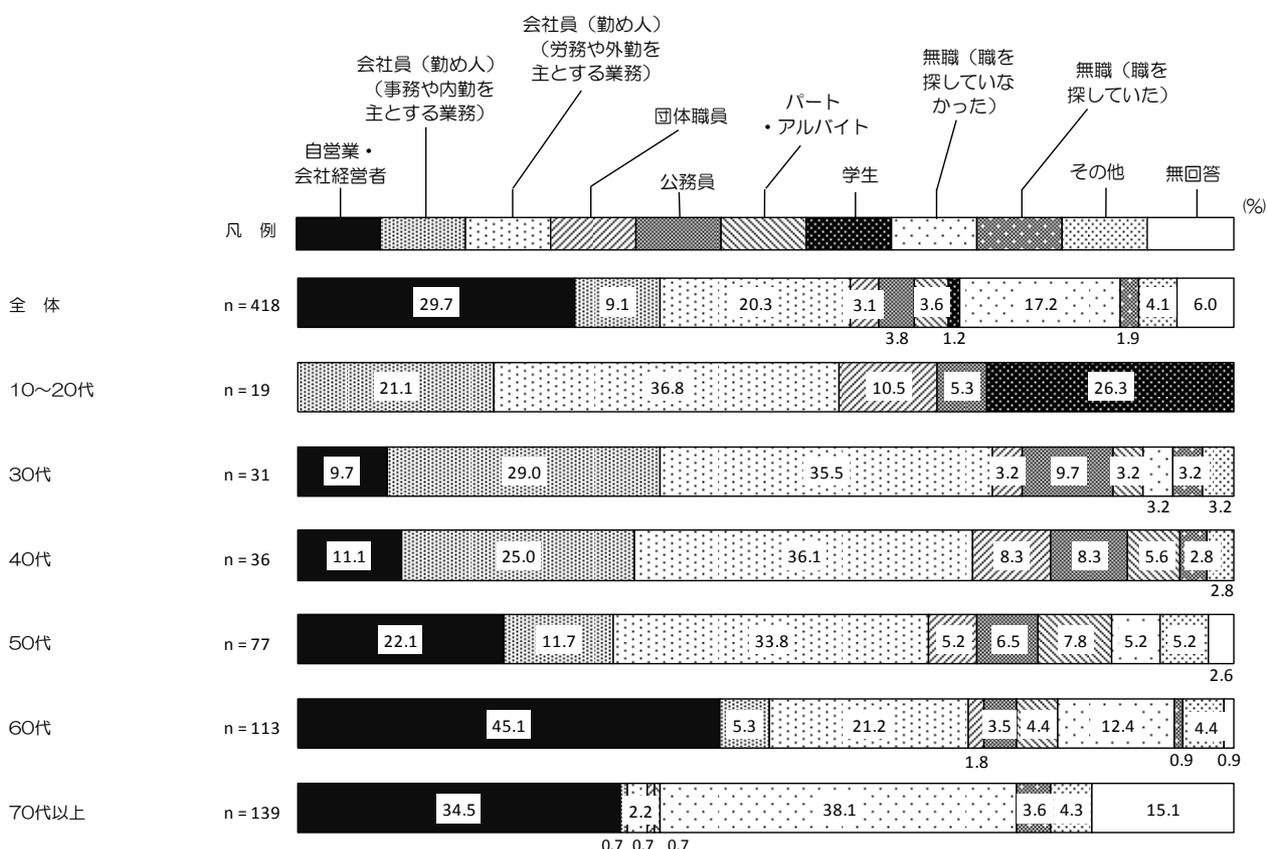
震災発生当時の職業については、「自営業・会社経営者」(29.7%)が最も多く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(20.3%)、「無職（職を探していなかった）」(17.2%)となっている。

<図表3-1-3-11 震災発生当時の職業>



世帯主の年齢別にみると、60代では「自営業・会社経営者」(45.1%)が4割以上と高く、10~20代、30代、40代、50代では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が3割以上となっている。

<図表3-1-3-12 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

(5) 震災発生当時の業種

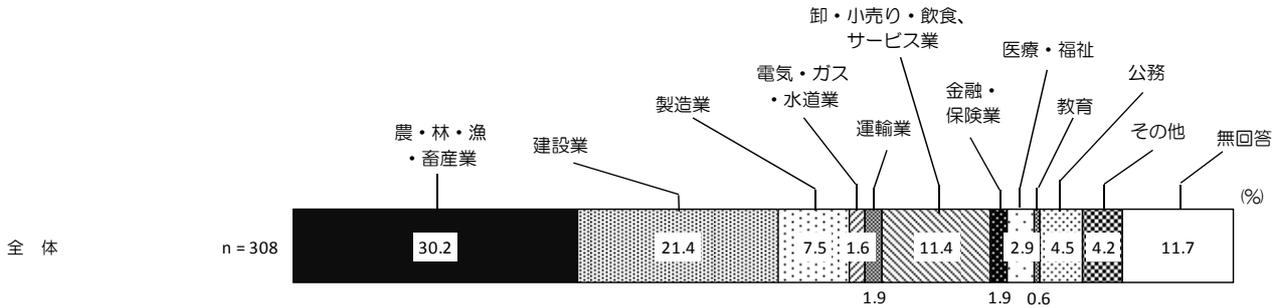
問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

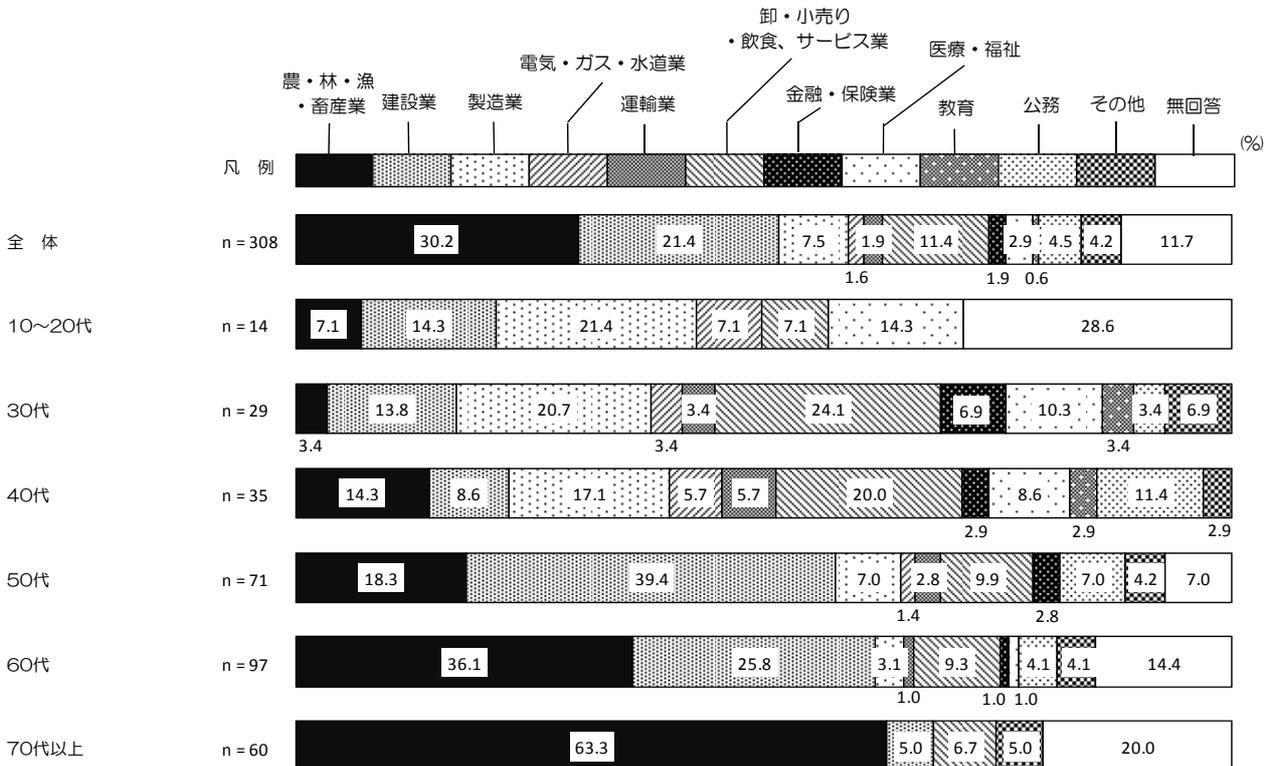
震災発生当時の業種については、「農・林・漁・畜産業」(30.2%)が最も多く、次いで「建設業」(21.4%)、「卸・小売・飲食、サービス業」(11.4%)となっている。

<図表3-1-3-13 震災発生当時の業種>



世帯主の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は、概ね年齢層が高くなるに従ってその割合も高くなっている。50代では「建設業」(39.4%)が約4割となっており、他の年齢層に比べて割合が高い。

<図表3-1-3-14 震災発生当時の業種(世帯主の年齢別)>



(6) 震災発生当時の就業先

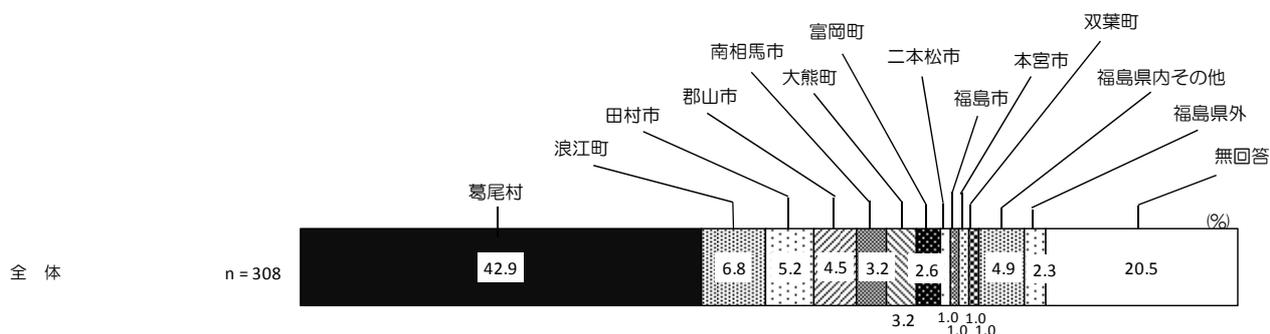
問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

【仕事に就いていた方(問5(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

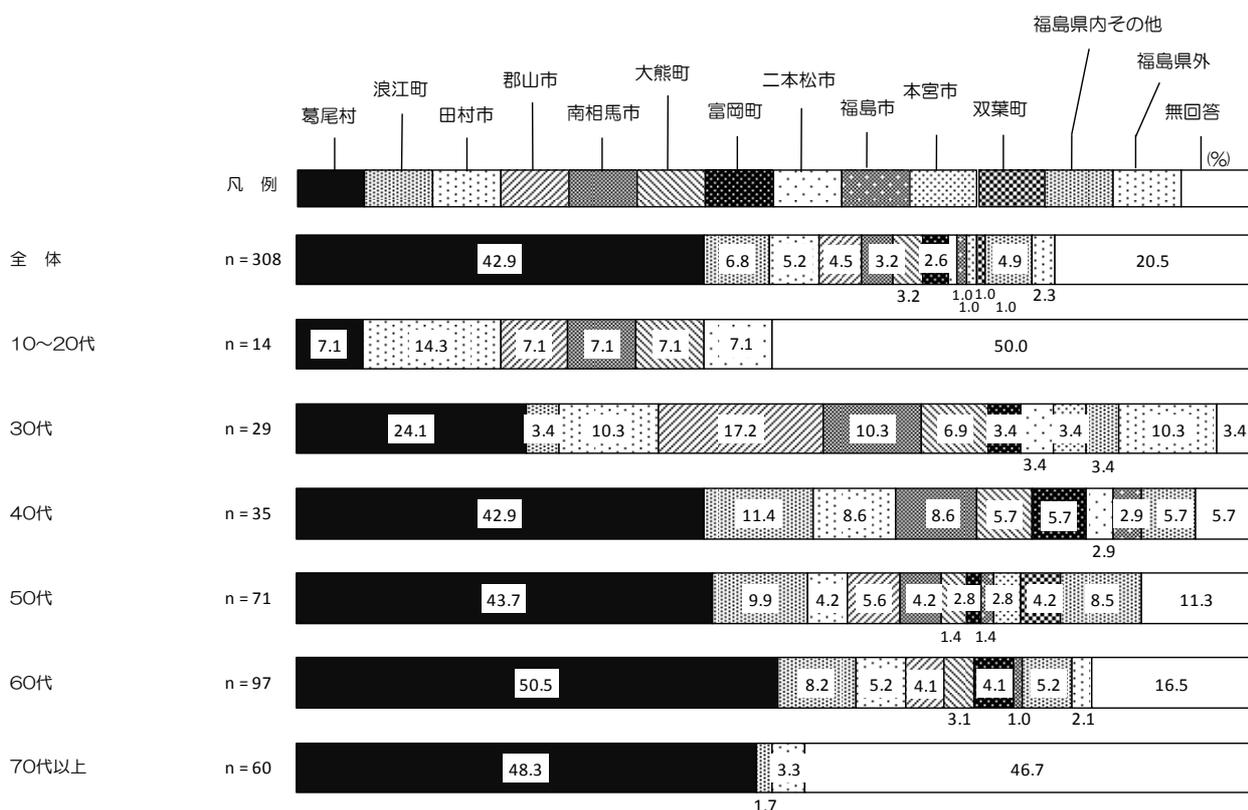
震災発生当時の就業先自治体については、「葛尾村」(42.9%)が最も多く、次いで「浪江町」(6.8%)、「田村市」(5.2%)、となっている。

<図表3-1-3-15 震災発生当時の就業先>



世帯主の年齢別にみると、40代以上では「葛尾村」が最も多く5割前後となっている。

<図表3-1-3-16 震災発生当時の就業先(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

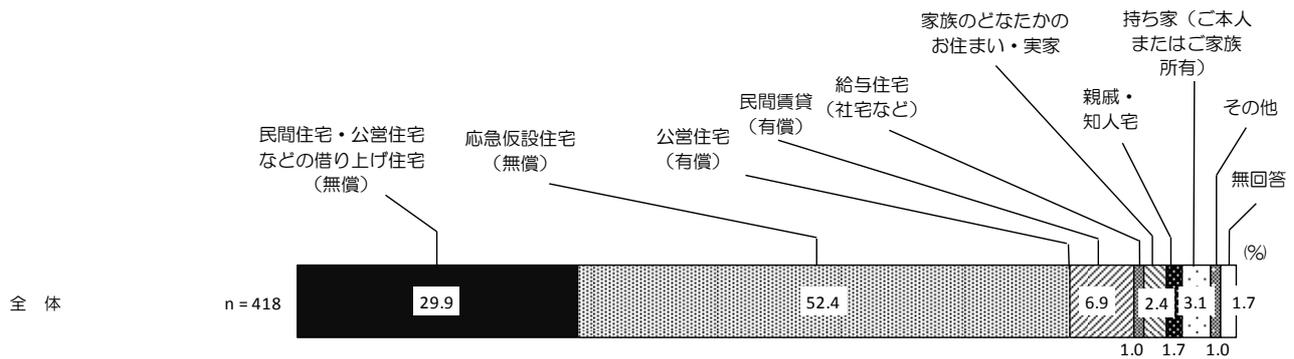
3-1-4 住居形態

(1) 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

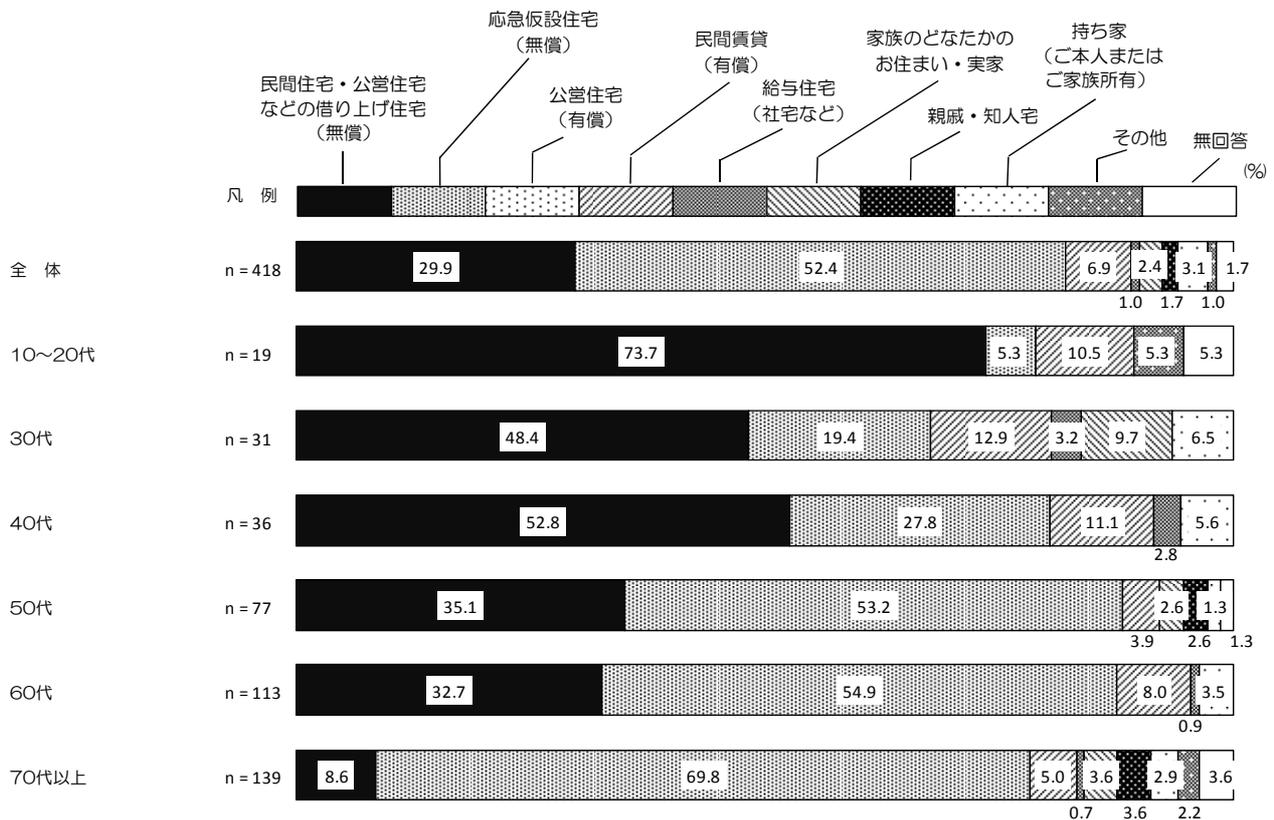
現在の住居形態について、「応急仮設住宅（無償）」（52.4%）が最も多く、次いで「民間住宅・公営住宅などの借り上げ住宅（無償）」（29.9%）、「民間賃貸（有償）」（6.9%）となっている。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態>



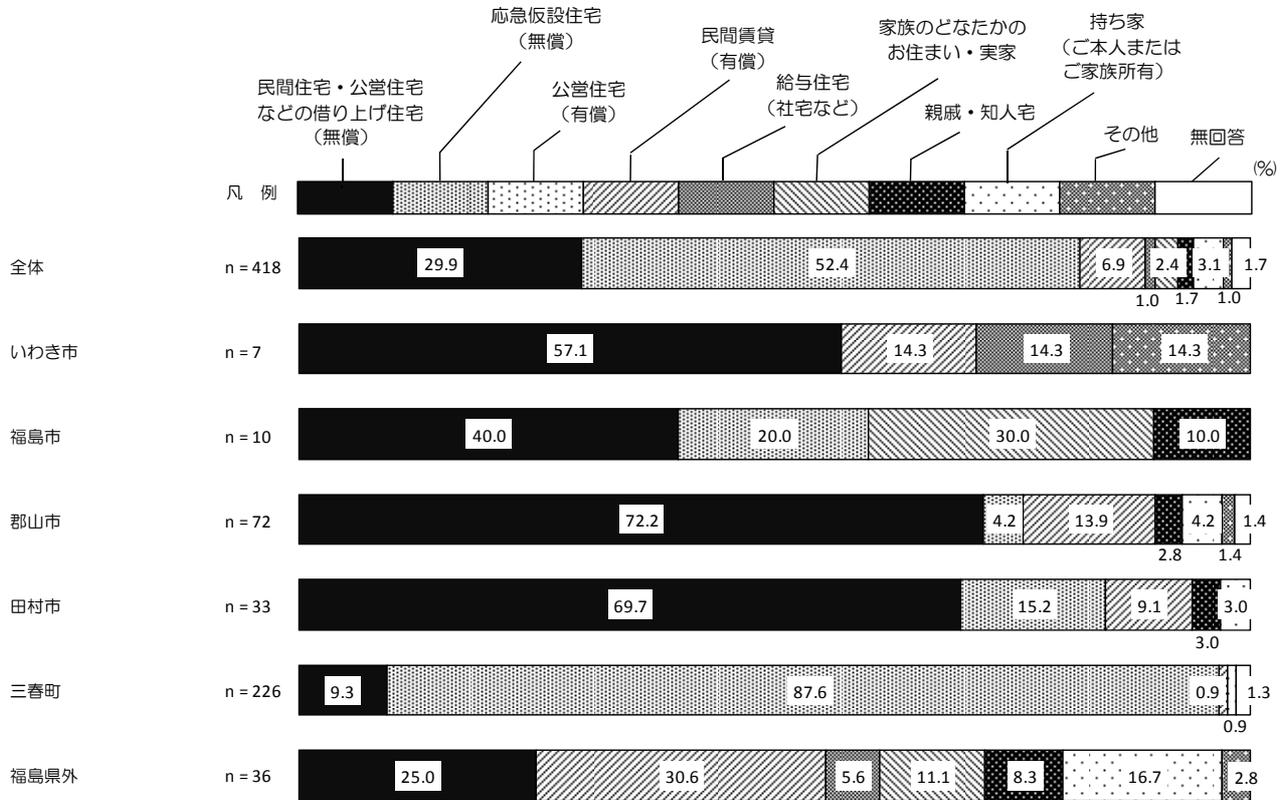
世帯主の年齢別にみると、「応急仮設住宅（無償）」は、50代以上で過半数となっている。一方、40代以下では「民間住宅・公営住宅などの借り上げ住宅（無償）」の割合が、他の年齢層に比べ高く、10~20代で7割以上となっている。

<図表3-1-4-2 現在の住居形態（世帯主の年齢別）>



主な避難先の自治体別にみると、「民間住宅・公営住宅などの借り上げ住宅（無償）」が、いわき市、郡山市、田村市で過半数となっている。一方、「応急仮設住宅（無償）」は三春町（87.6%）で8割を超えており、他の避難先自治体に比べ割合が高い。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態（現在の避難先自治体別）>

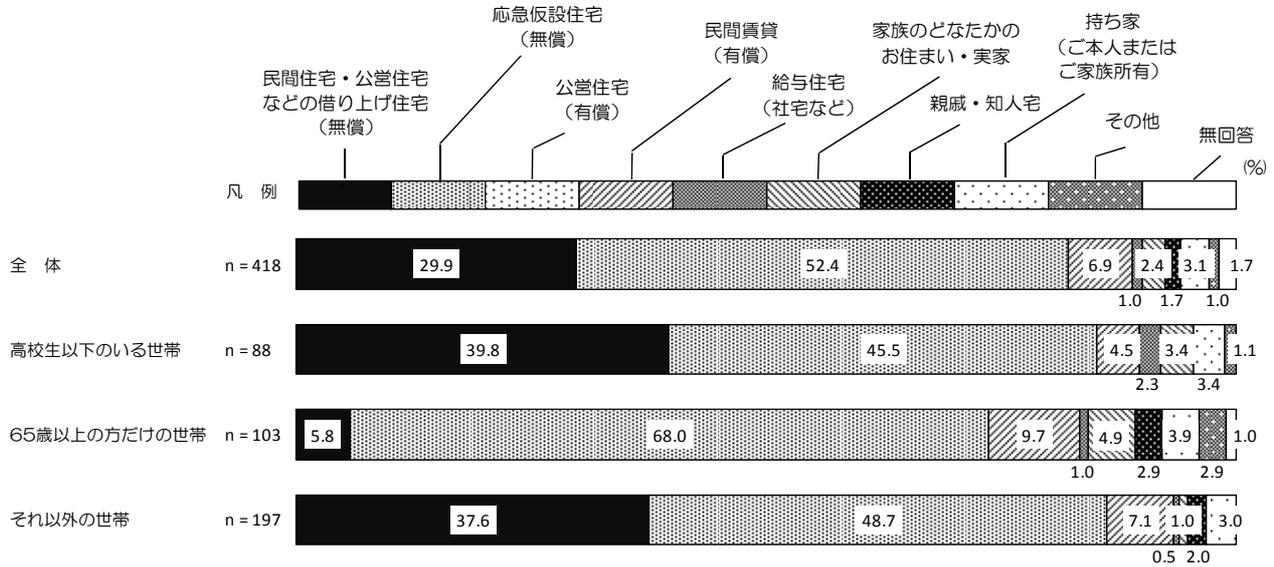


III 調査結果

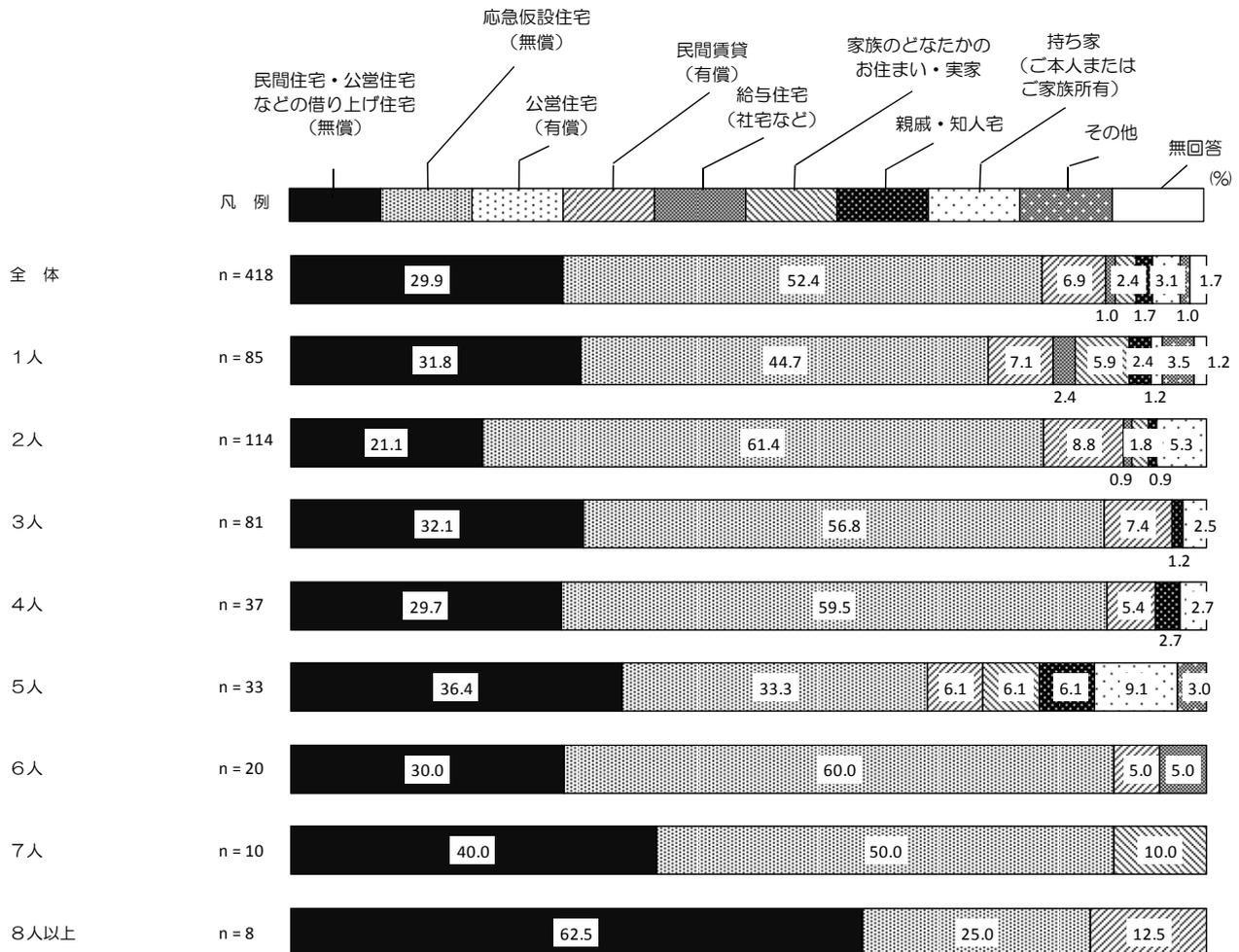
現在の世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（無償）」がいずれの世帯構成でも最も多くなっており、65歳以上の方だけの世帯（68.0%）では7割弱を占めている。

現在の世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（無償）」が概ねいずれの世帯人数でも最も多くなっているが、8人以上の世帯では「民間住宅・公営住宅などの借り上げ住宅（無償）」（62.5%）の割合が高くなっている。

<図表3-1-4-4 現在の住居形態（現在の世帯構成別）>



<図表3-1-4-5 現在の住居形態（現在の世帯人数別）>

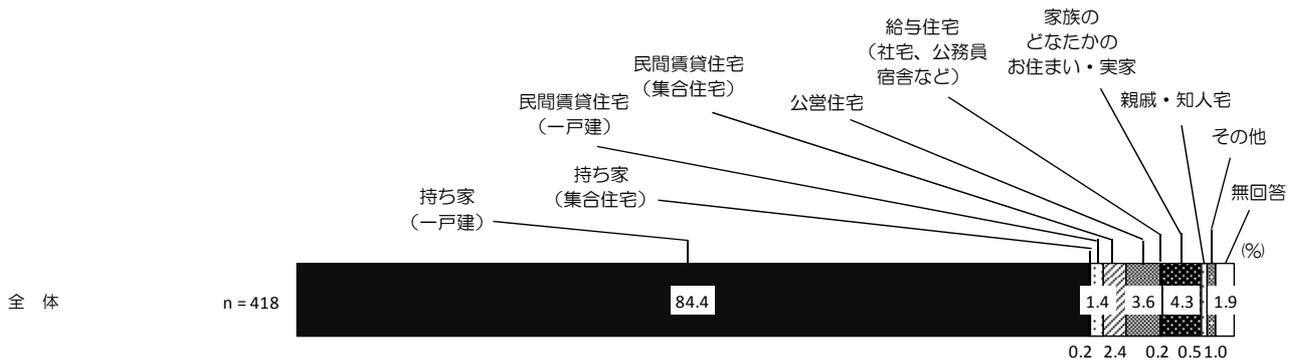


(2) 震災発生当時の住居形態

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

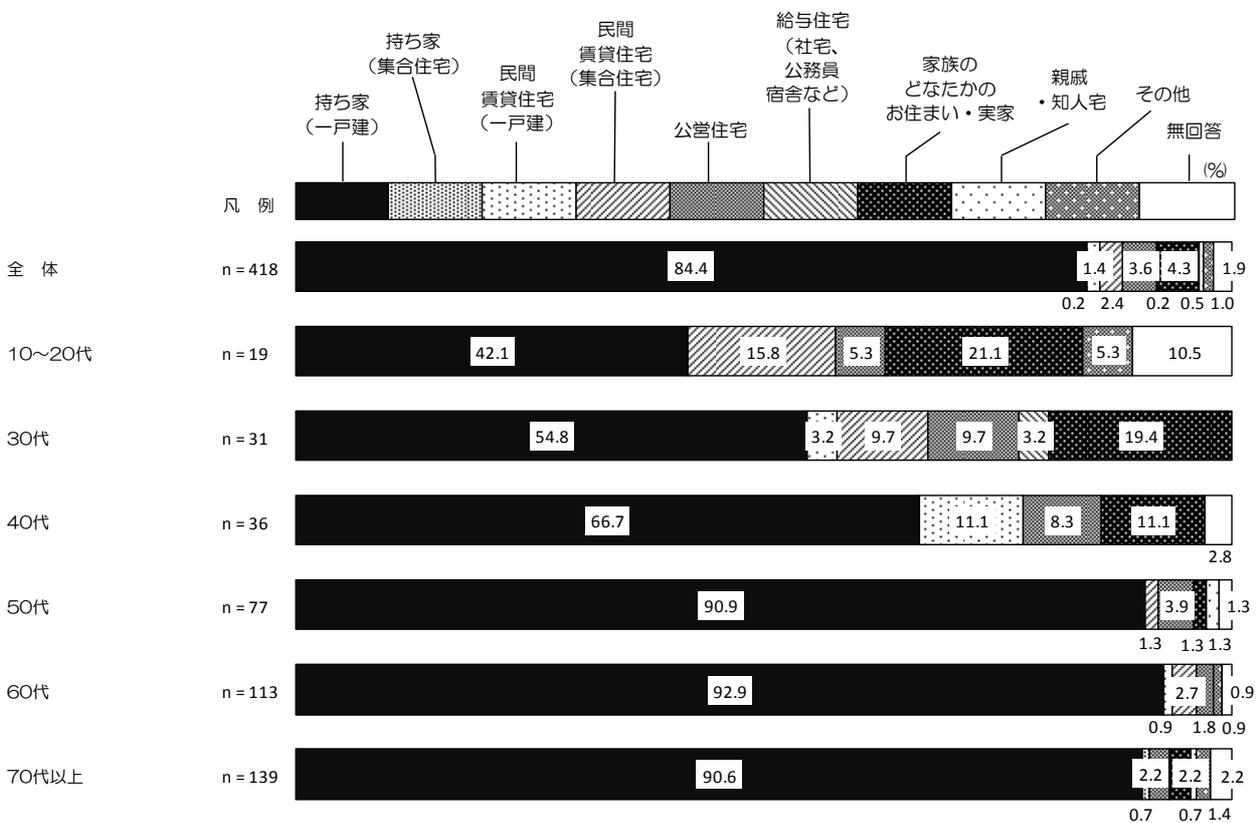
震災発生当時の住居形態について、「持ち家（一戸建）」(84.4%)が最も多く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」(4.3%)、「公営住宅」(3.6%)となっている。

<図表3-1-4-6 震災発生当時の住居形態>



世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は概ね年齢が高くなるに従って割合も高くなり、50～70代以上で9割を超えている。

<図表3-1-4-7 震災発生当時の住居形態（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

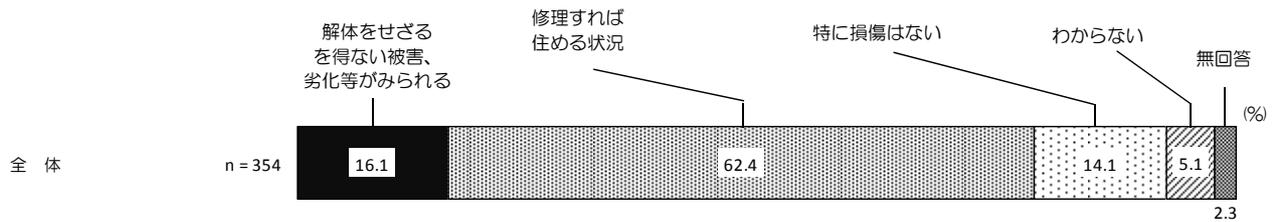
(3) 震災発生当時の住宅の状況

【問6で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の住宅の状況について、「修理すれば住める状況」（62.4%）が最も多く、次いで「解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」（16.1%）、「特に損傷はない」（14.1%）となっている。

<図表3-1-4-8 震災発生当時の住宅の状況>



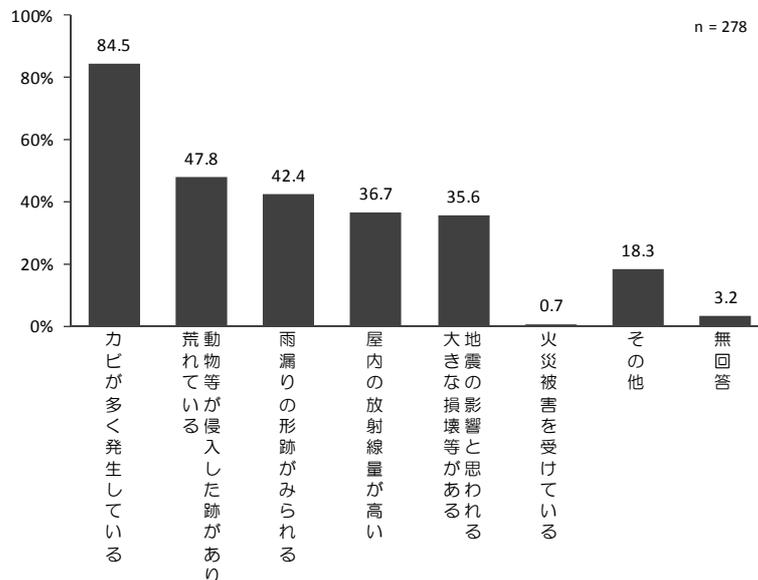
(4) 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問6-1で「1.解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の具体的な被害内容について、「カビが多く発生している」（84.5%）が最も多く、次いで「動物等が侵入した跡があり荒れている」（47.8%）、「雨漏りの形跡がみられる」（42.4%）となっている。

<図表3-1-4-9 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容>

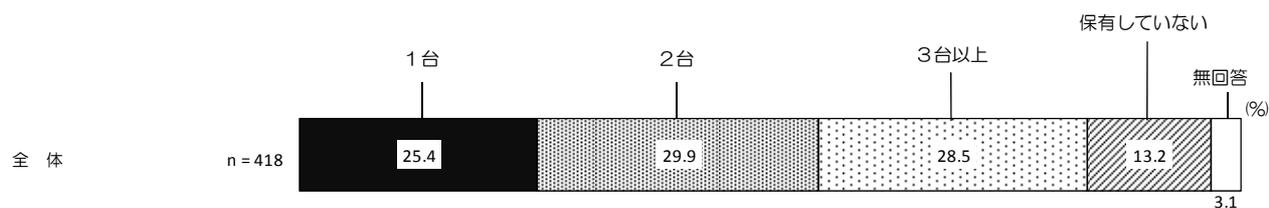


3-1-5 自動車保有

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(〇は1つ)

自動車保有について、「2台」(29.9%)が最も多く、次いで「3台以上」(28.5%)となっており、自動車を1台以上保有している割合は83.8%と8割を超えている。

<図表3-1-5 自動車保有>



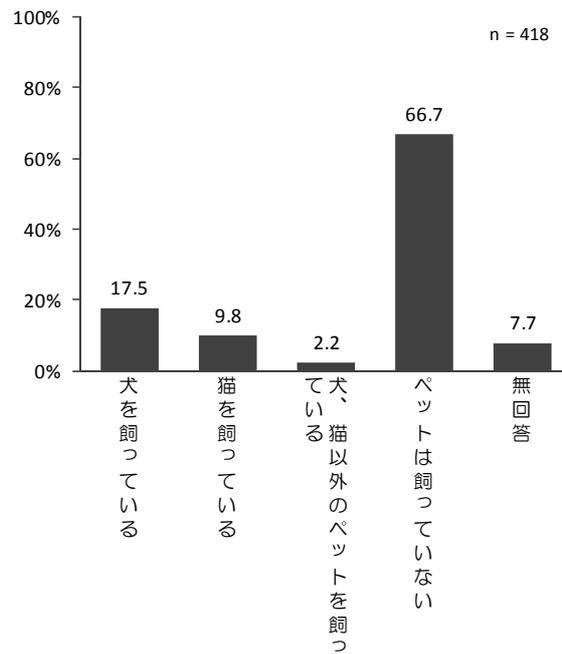
Ⅲ 調査結果

3-1-6 ペットの有無

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

ペットの有無について、「犬を飼っている」が 17.5%、「猫を飼っている」が 9.8%などとなり、「ペットを飼っていない」は 66.7%と 6 割を超えている。

<図表3-1-6 ペットの有無>



3-2 将来の意向

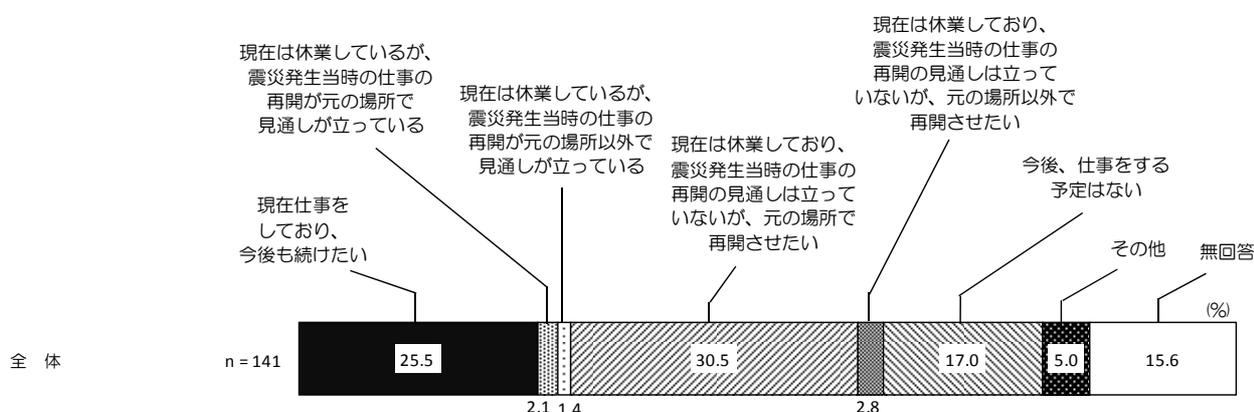
3-2-1 今後の職業についての意向

問 12 今後の職業についてどのように考えていますか。(〇は1つ)

(1) 震災時の職業が農林業・自営業・会社経営者

今後の職業についての意向では、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」(30.5%)が最も多く、次いで「現在仕事をしており、今後も続けたい」(25.5%)、「今後、仕事をする予定はない」(17.0%)となっている。

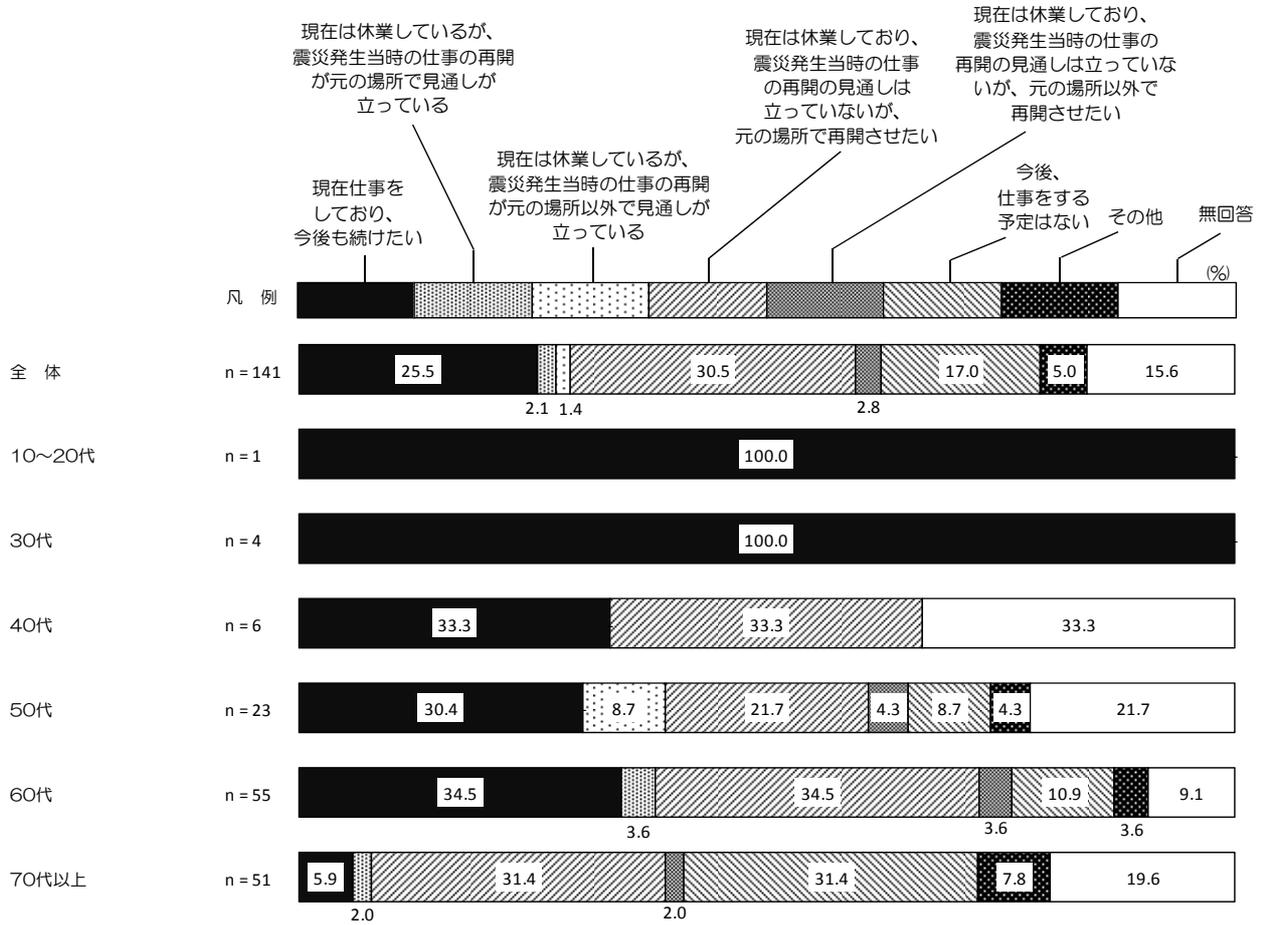
<図表3-2-1-1 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者）>



III 調査結果

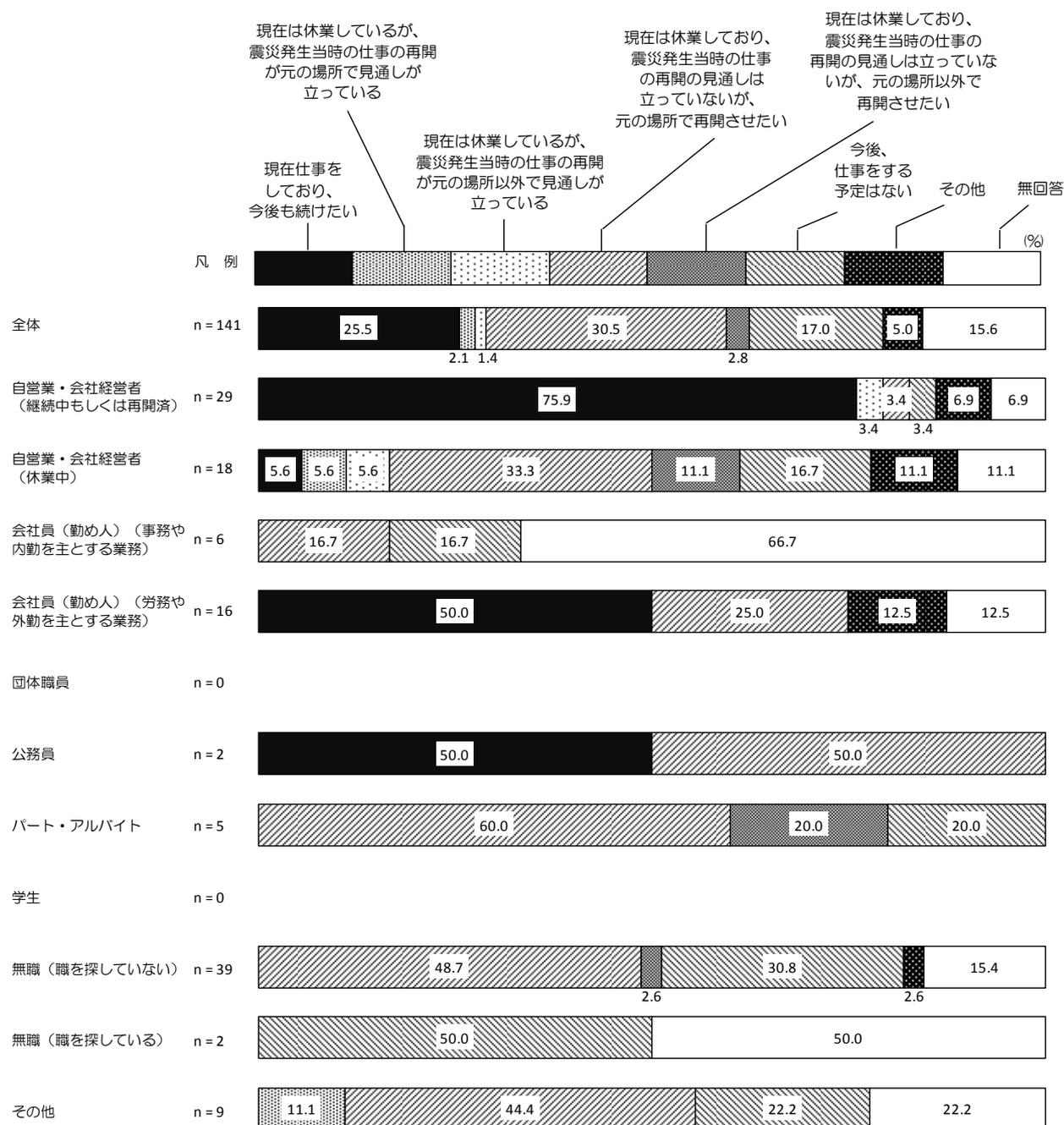
世帯主の年齢別にみると、10～30代までは「現在仕事をしており、今後も続けたい」が最も多くなっているが、40～60代では「現在仕事をしており、今後も続けたい」「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が概ね同じ割合と、意見が割れている。

＜図表3-2-1-2 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者）（世帯主の年齢別）＞



現在の職業別にみると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）の方については、「現在仕事をしており、今後も続けたい」が7割を超えている。一方、パート・アルバイトの方は「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が約6割となっており、他の職業に比べ高い割合となっている。

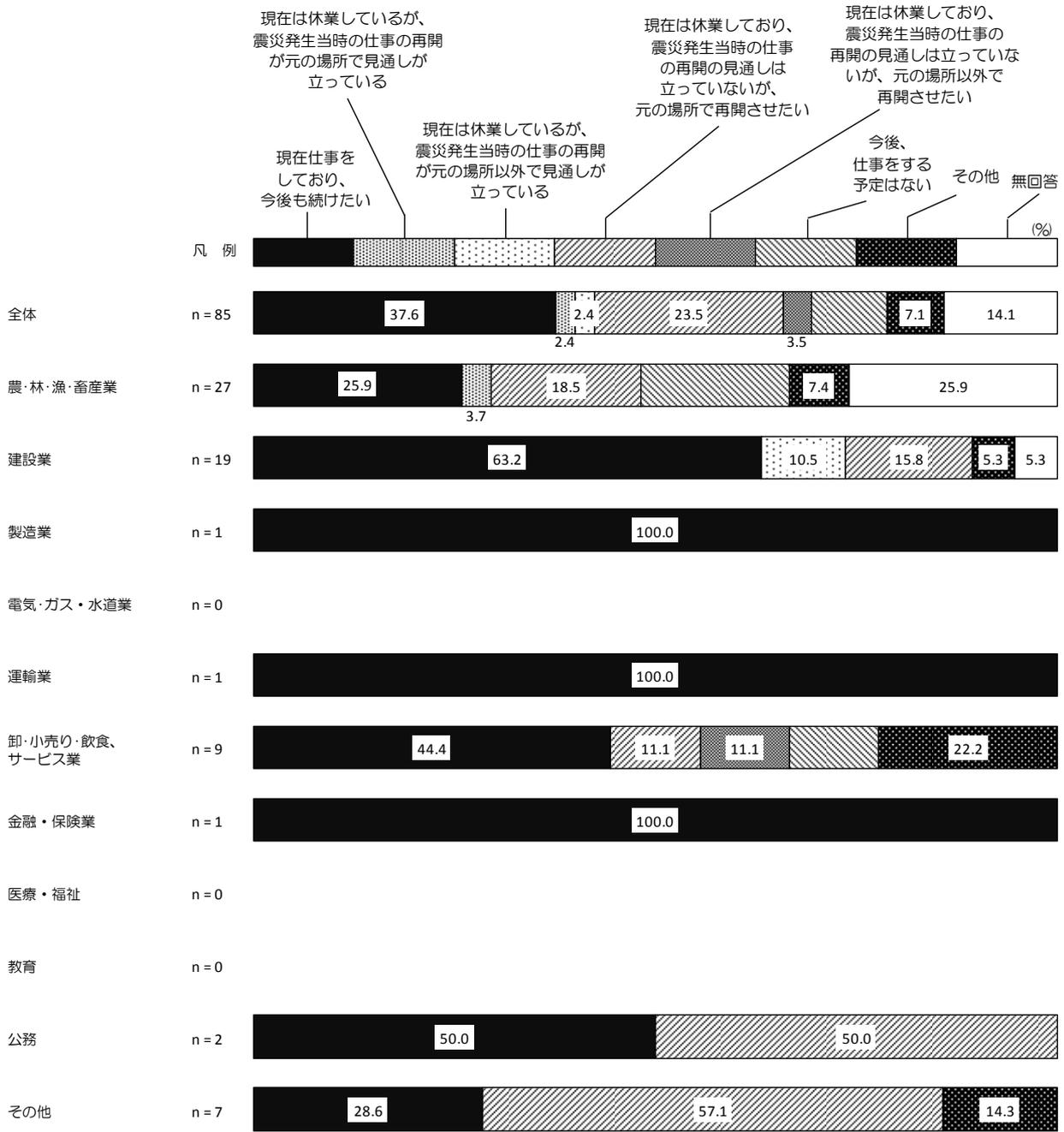
<図表3-2-1-3 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者）（現在の職業別）>



III 調査結果

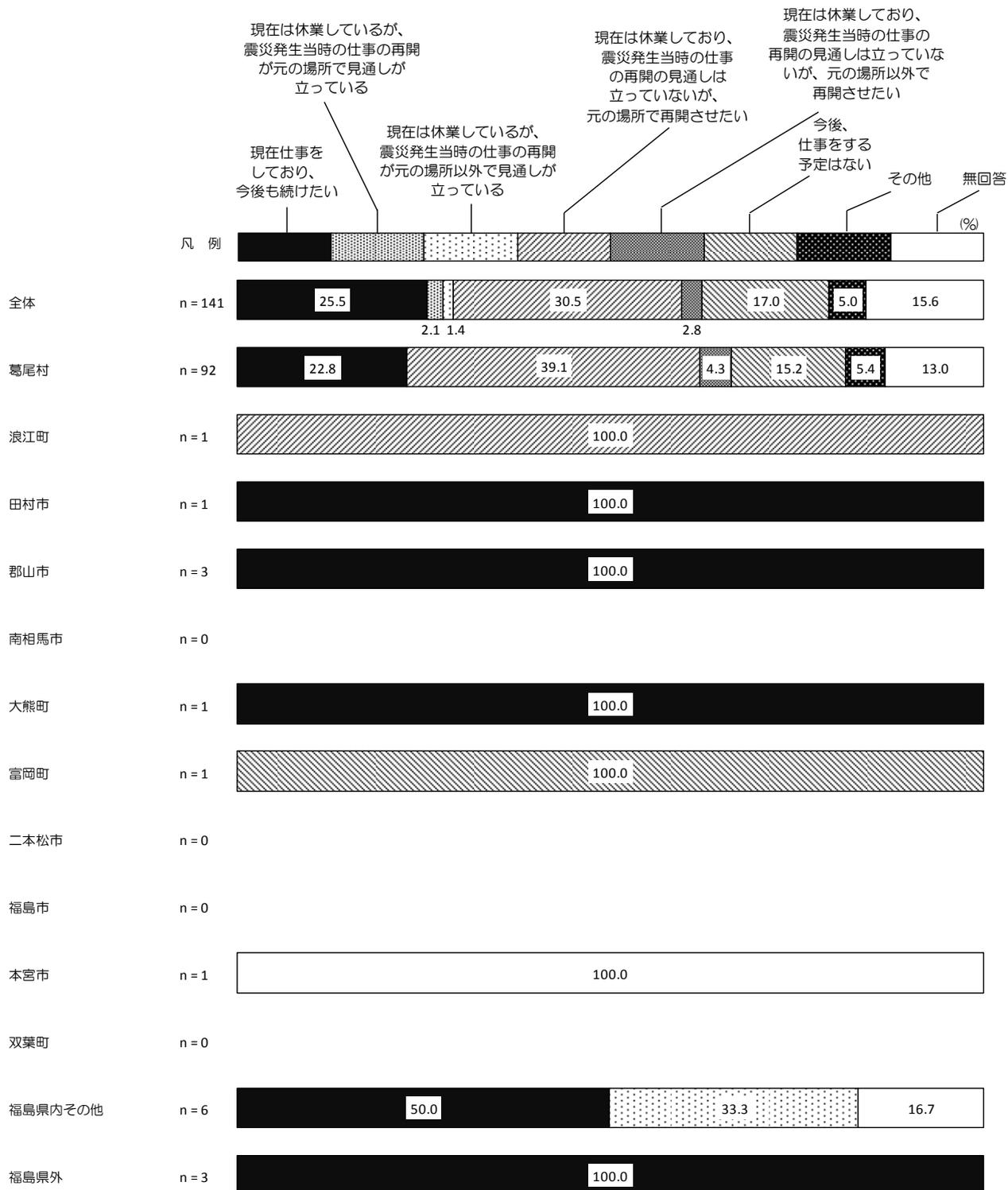
現在の職業の業種別にみると、「現在仕事をしており、今後も続けたい」が、概ねいずれの業種でも最も多くなっている。

<図表3-2-1-4 今後の職業について意向（農林業・自営業・会社経営者）（現在の業種別）>



発災当時の就業先の所在自治体別にみると、葛尾村では「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」、その他の自治体では「現在仕事をしており、今後も続けたい」の割合がそれぞれ高くなっている。

<図表3-2-1-5 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者）（震災当時の就業先別）>

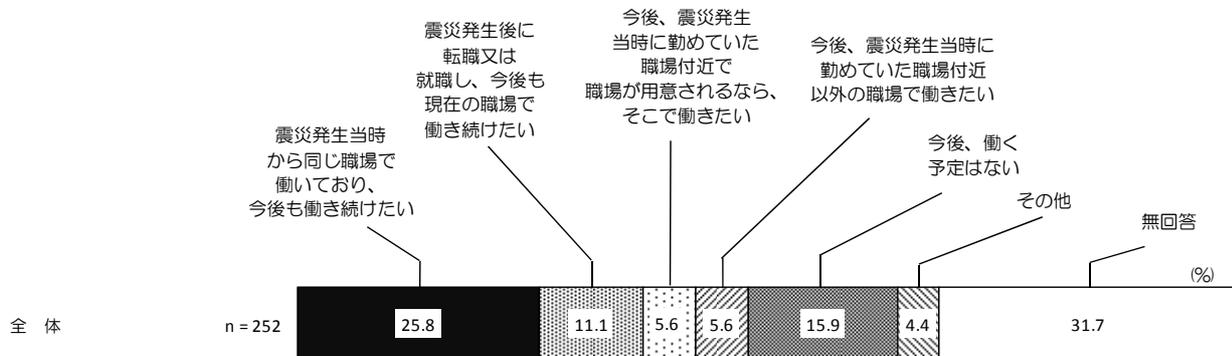


III 調査結果

(2) 震災時の職業が農林業・自営業・会社経営者以外

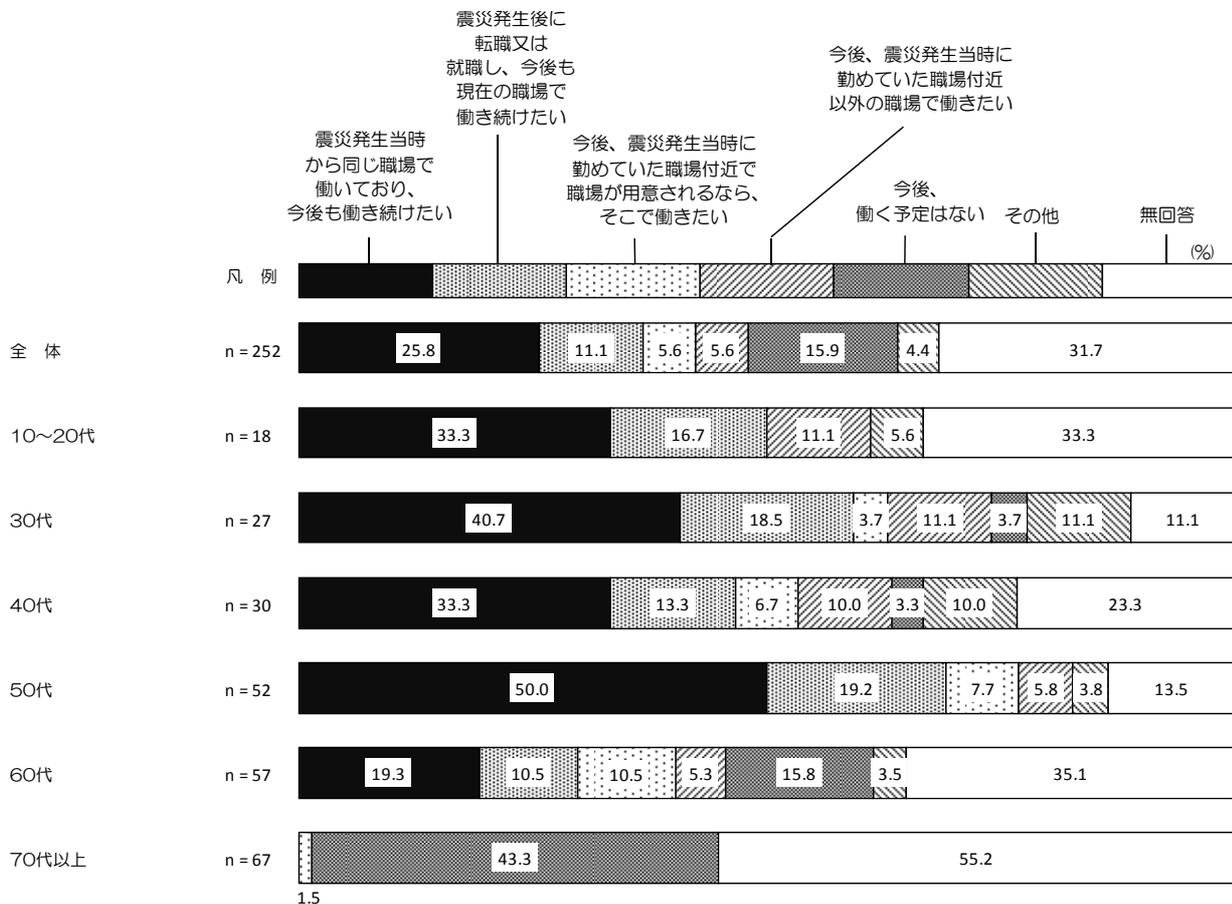
今後の職業についての意向では、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」(25.8%)が最も多く、次いで「今後、働く予定はない」(15.9%)、「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働きたい」(11.1%)となっている。

<図表3-2-1-6 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者以外）>



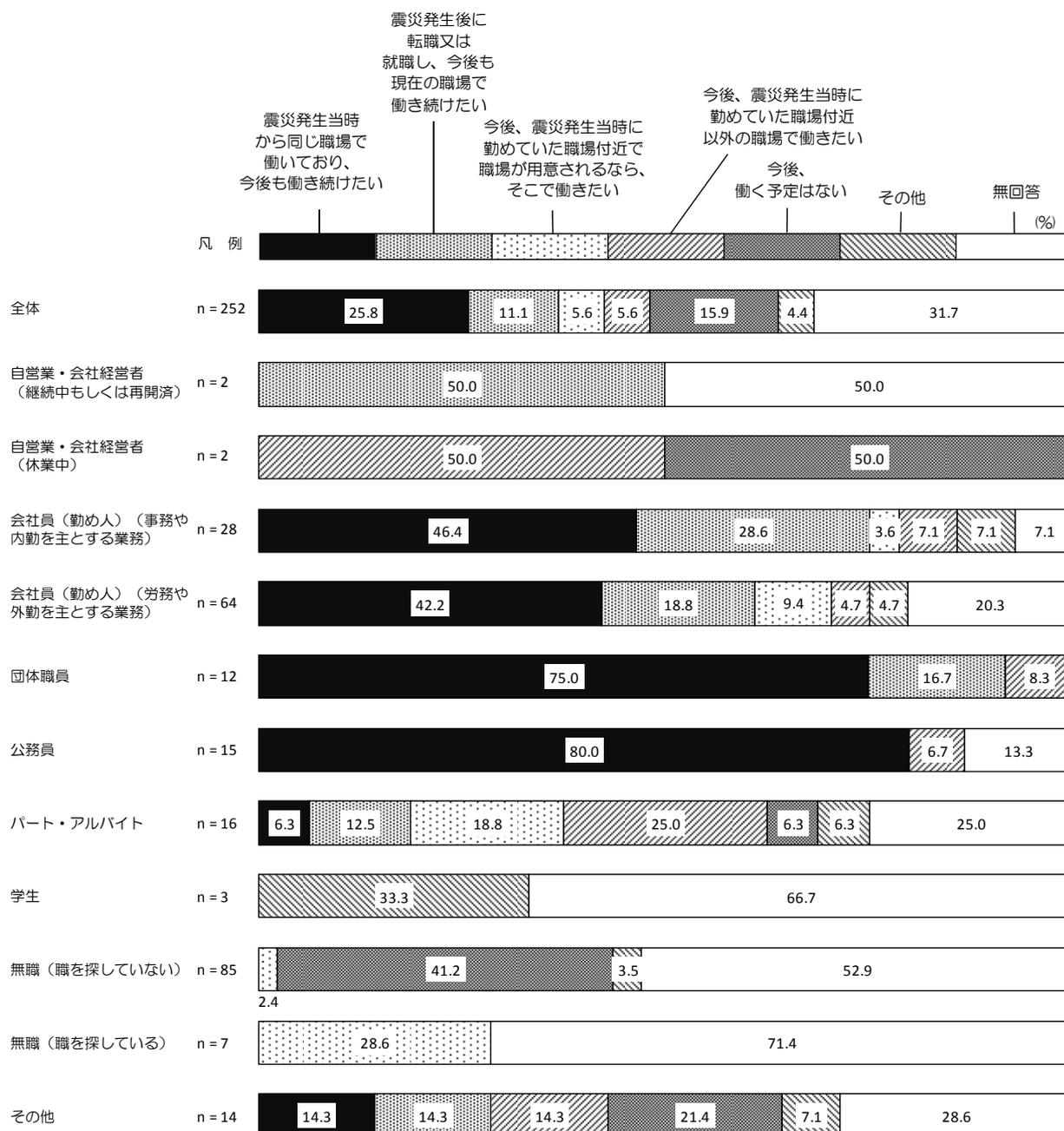
世帯主の年齢別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい」が概ねいずれの年齢層でも最も多くなっているが、70代以上では「今後、働く予定はない」の割合が4割以上となっている。

<図表3-2-1-7 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者以外）（世帯主の年齢別）>



現在の職業別にみると、団体職員、公務員については、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が7割を超えており、他の職業に比べ高い割合となっている。

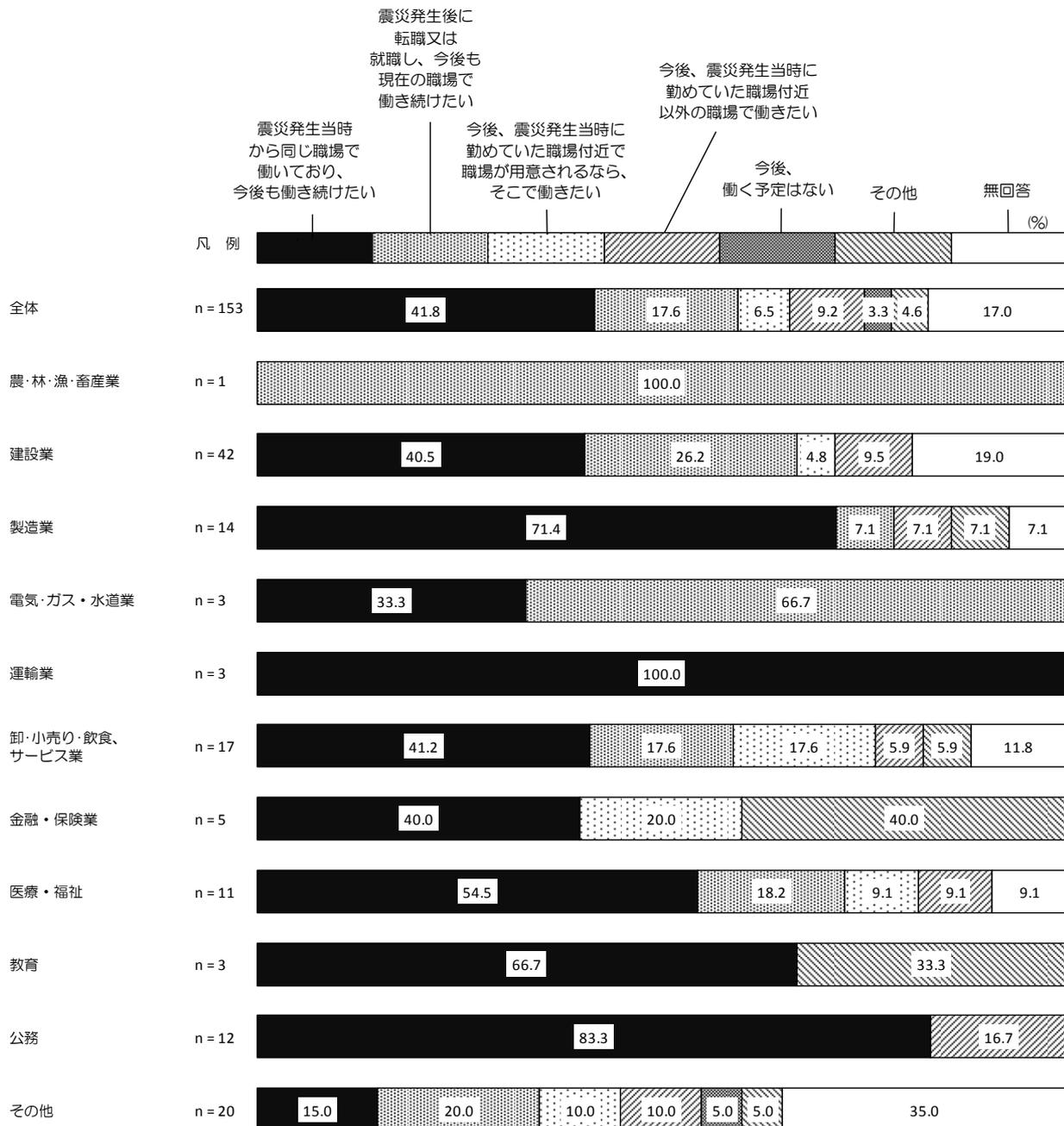
<図表3-2-1-8 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者以外）（現在の職業別）>



III 調査結果

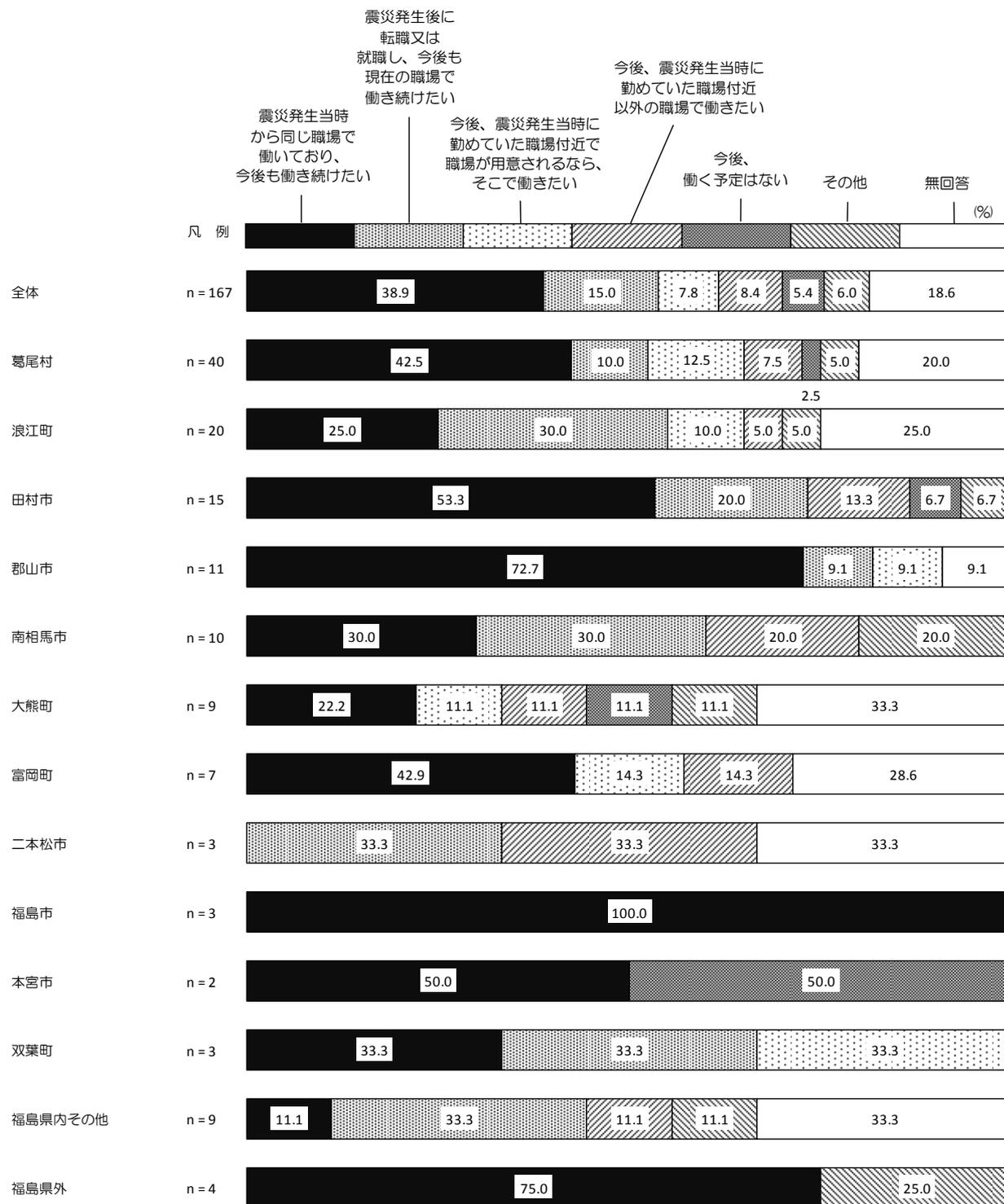
現在の職業の業種別にみると、農・林・漁・畜産業、電気・ガス・水道業、その他を除く業種で、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が、最も多くなっている。

<図表3-2-1-9 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者以外）（現在の業種別）>



震災発生当時の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が、郡山市、福島市、福島県外で7割を超えており、他の就業先の所在自治体に比べ高い割合となっている。

<図表3-2-1-10 今後の職業についての意向（農林業・自営業・会社経営者以外）（震災当時の就業先別）>



III 調査結果

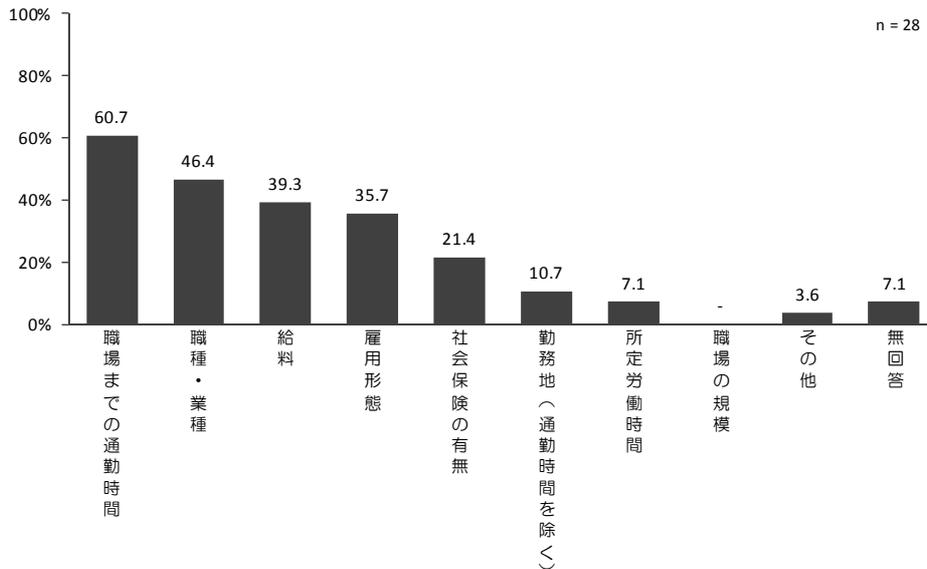
3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること

【問 12 で「3.震災発生時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4.今後、震災発生時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(〇は3つまで)

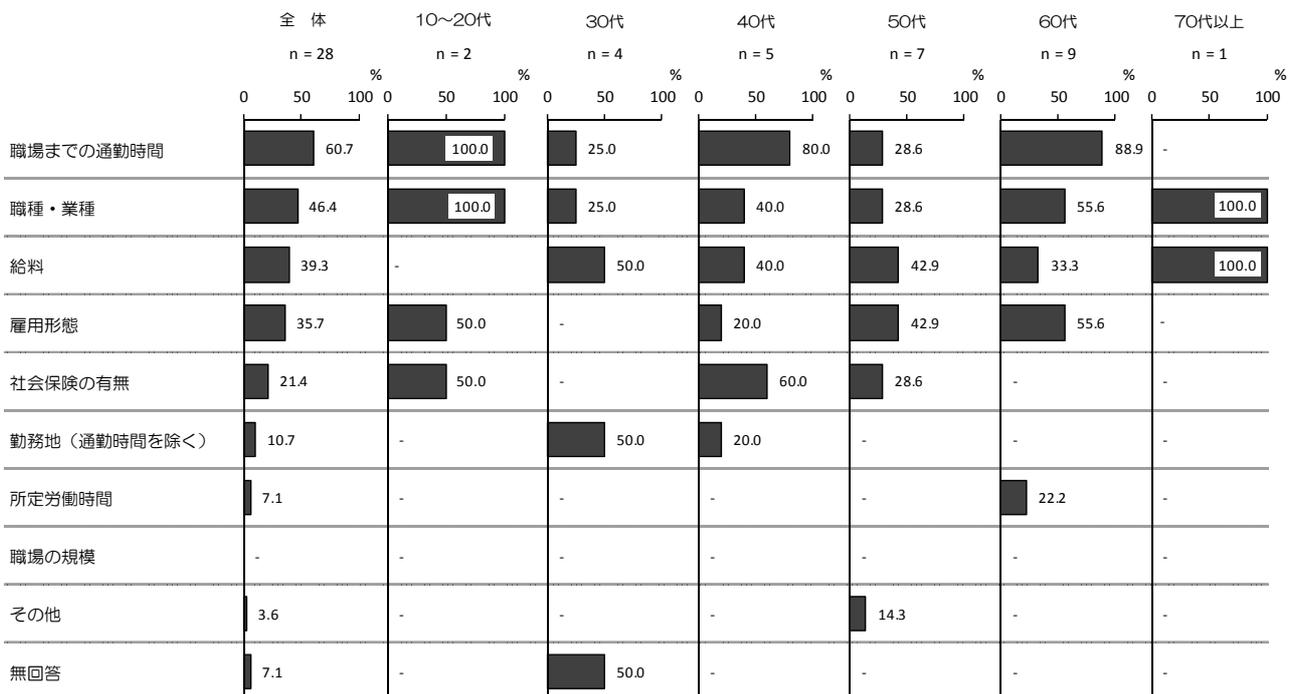
職場を選ぶ際に重要視することについて、「職場までの通勤時間」(60.7%)が最も多く、次いで「職種・業種」(46.4%)、「給料」(39.3%)となっている。

<図表3-2-2-1 職場を選ぶ際に重要視すること>



世帯主の年齢別にみると、10~20代、40代、60代では「職場までの通勤時間」が8割以上となっている。

<図表3-2-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること (世帯主の年齢別)>



3-2-3 葛尾村への帰還意向

問 13 将来、葛尾村の避難指示が解除された後の葛尾村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
 (現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください) (〇は1つ)

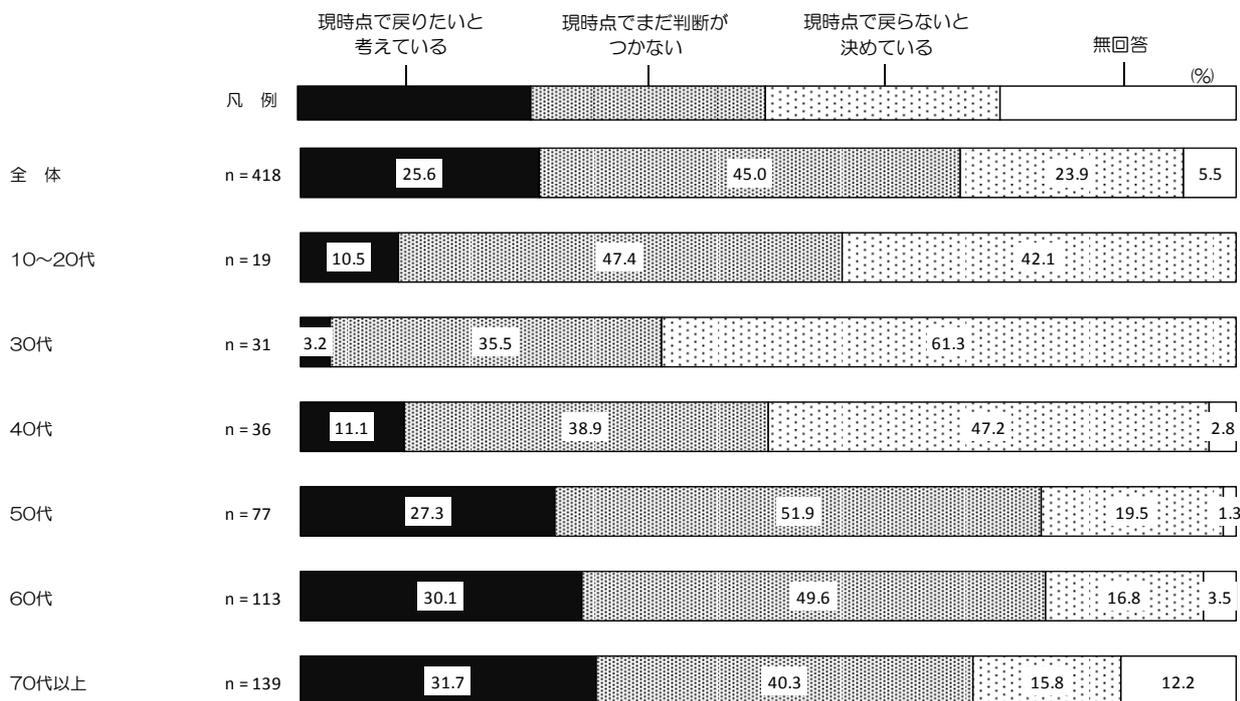
葛尾村への帰還意向について、「現時点でまだ判断がつかない」(45.0%)が最も多く、「現時点で戻りたいと考えている」(25.6%)、「現時点で戻らないと決めている」(23.9%)となっている。

<図表3-2-3-1 葛尾村への帰還意向>



世帯主の年齢別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は50代以上で多く3割前後、一方「現時点で戻らないと決めている」は10~40代で多く、特に30代では6割以上となっている。

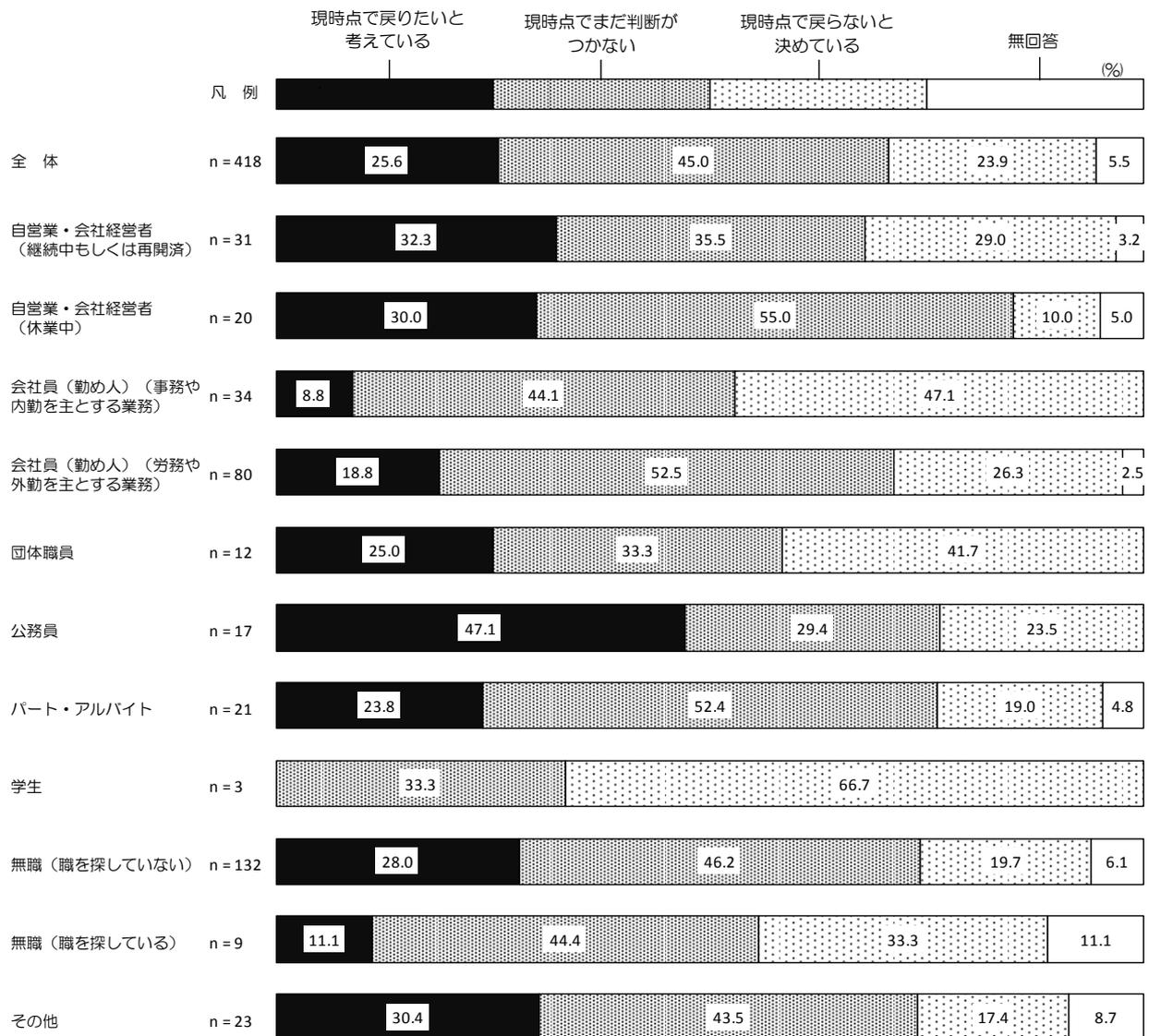
<図表3-2-3-2 葛尾村への帰還意向(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

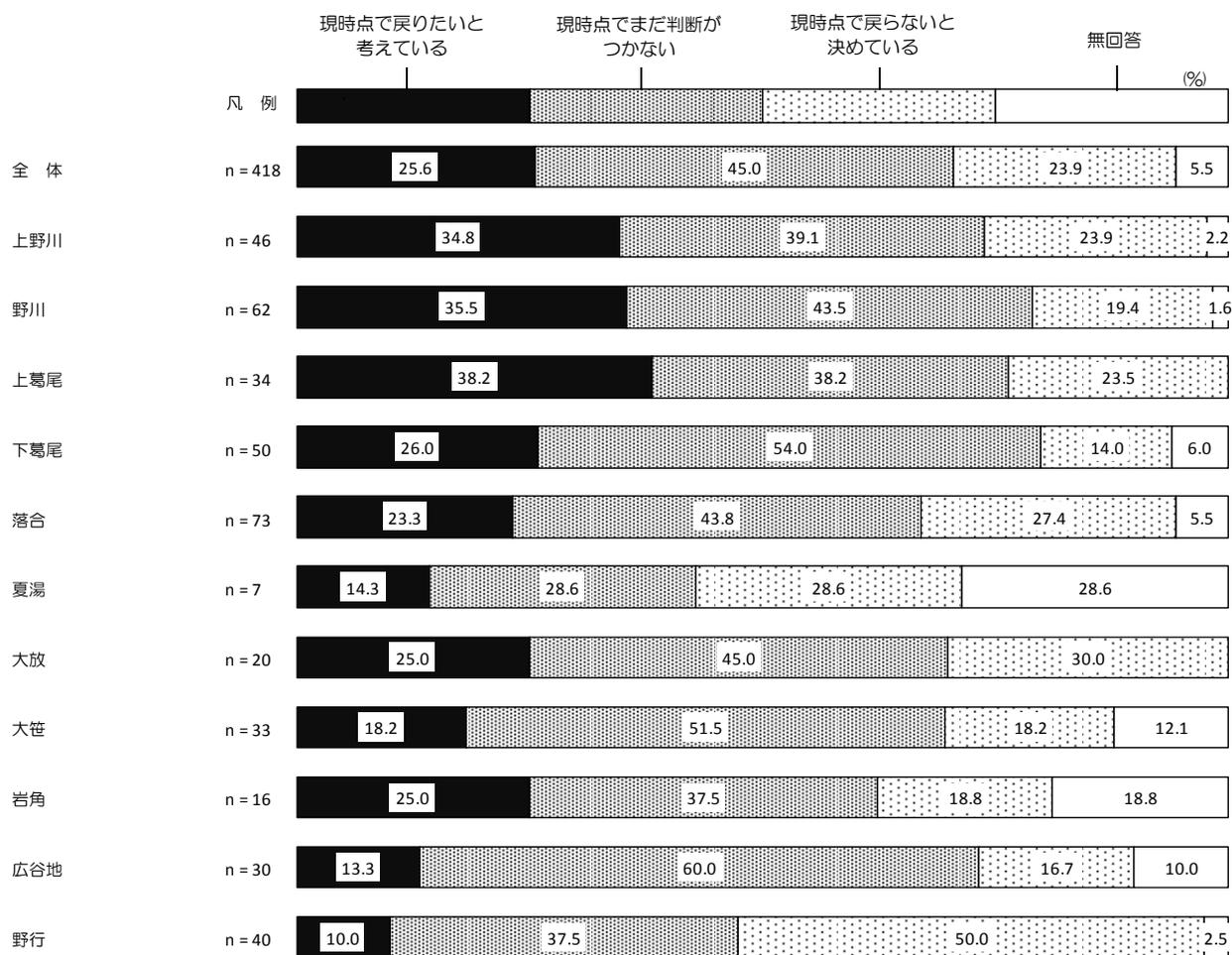
現在の職業別に見ると、「現時点で戻りたいと考えている」は、公務員（47.1%）で半数近くを占めており、他の職業に比べ高くなっている。

<図表3-2-3-3 葛尾村への帰還意向（現在の職業別）>



震災発生時の居住行政区別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、上野川（34.8%）、野川（35.5%）、上葛尾（38.2%）で多く、「現時点で戻らないと決めている」は野行（50.0%）が多い。

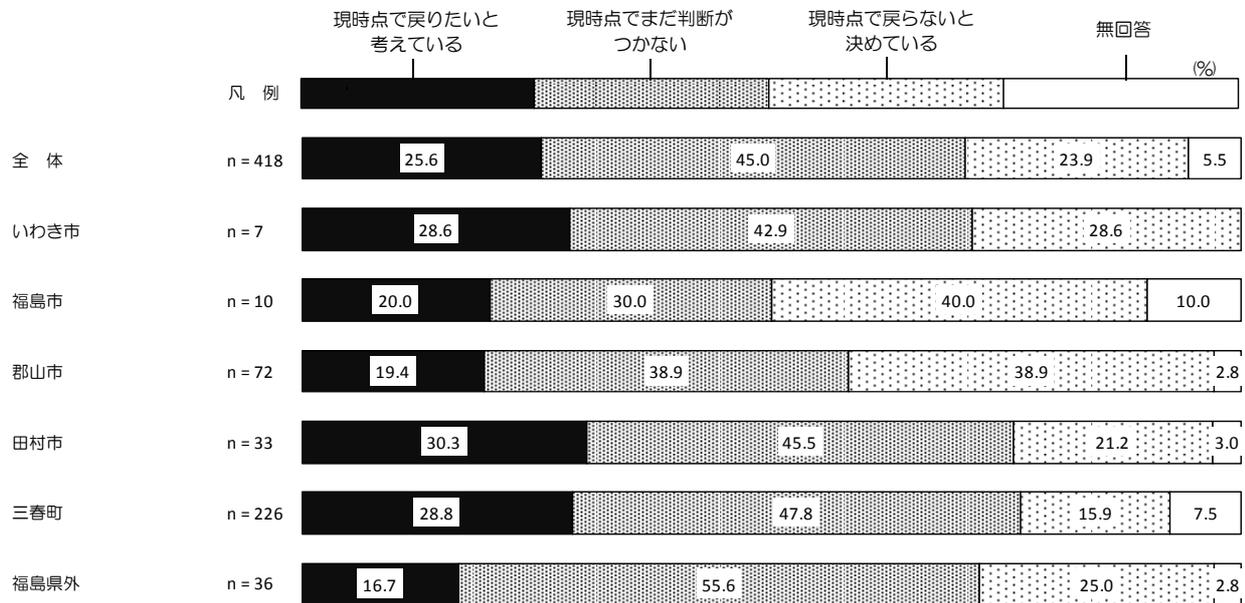
<図表3-2-3-4 葛尾村への帰還意向（居住行政区別）>



III 調査結果

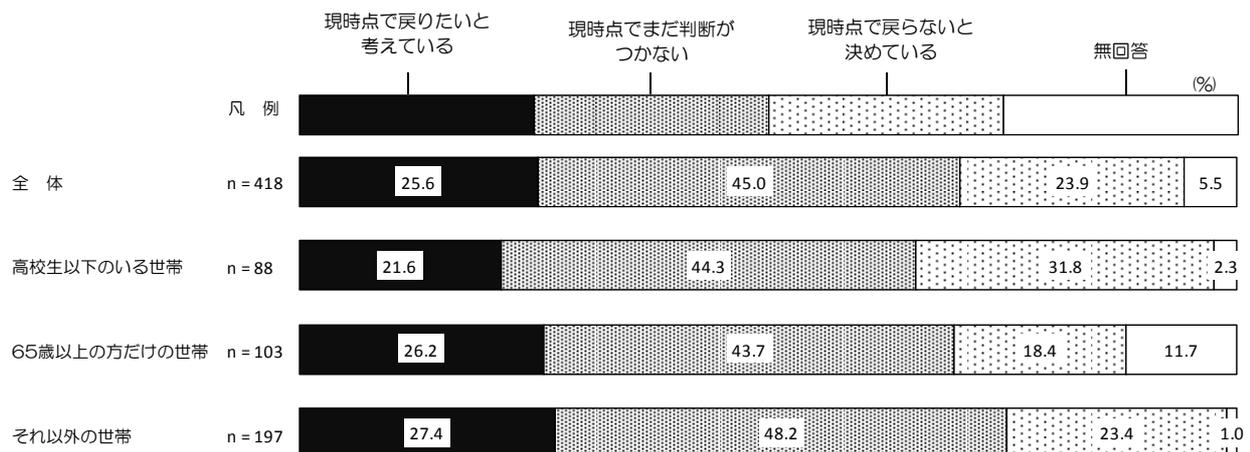
主な避難先自治体別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、田村市（30.3%）、三春町（28.8%）で多く、「現時点で戻らないと決めている」は、福島市（40.0%）、郡山市（38.9%）で約4割と他の避難先自治体に比べ高い割合となっている。

＜図表3-2-3-5 葛尾村への帰還意向（避難先自治体別）＞



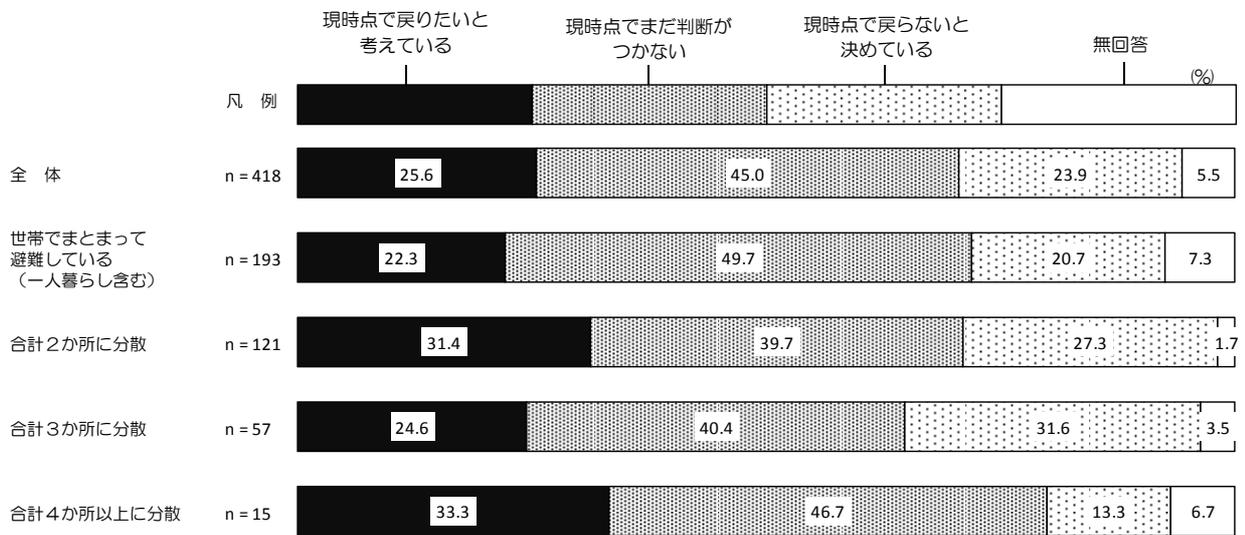
現在の世帯構成別にみると、高校生以下の方のいる世帯では、「現時点で戻らないと決めている」（31.8%）が約3割となっており、他の世帯構成に比べ割合が高くなっている。

＜図表3-2-3-6 葛尾村への帰還意向（現在の世帯構成別）＞



世帯の分散状況別にみると、「現時点で戻りたいと考えている」は、合計4か所以上に分散（33.3%）で最も多くなっている。

<図表3-2-3-7 葛尾村への帰還意向（世帯の分散状況別）>



III 調査結果

3-2-4 葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報

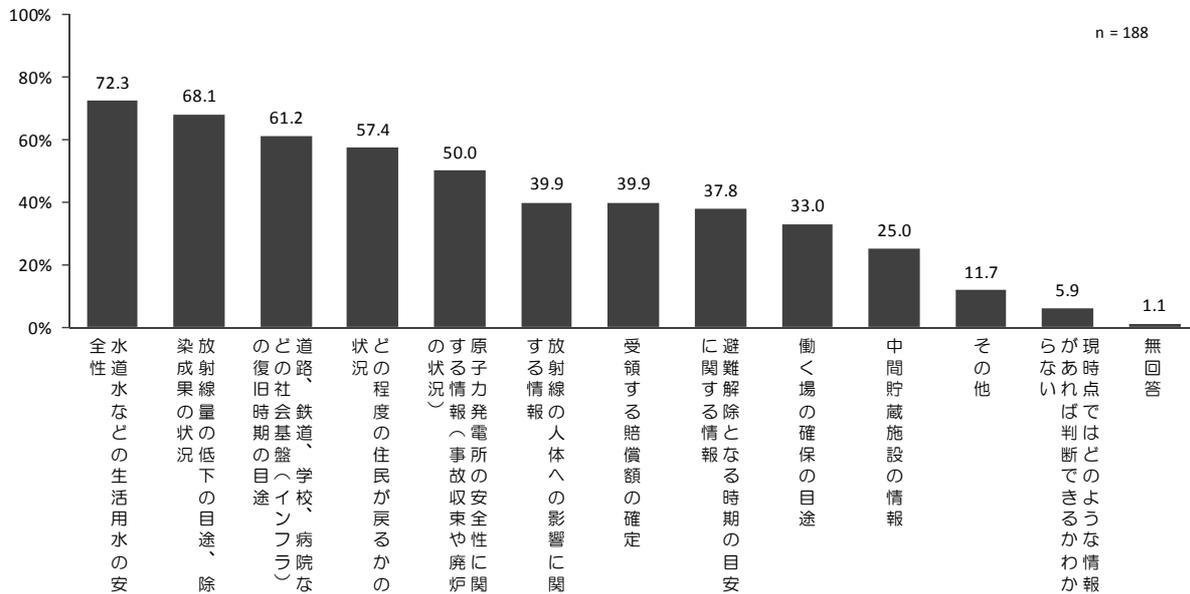
(1) 葛尾村への帰還を判断するうえで必要と思う情報

【問 13 で「2.現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1 葛尾村へ戻ることがを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。
(〇はいくつでも)

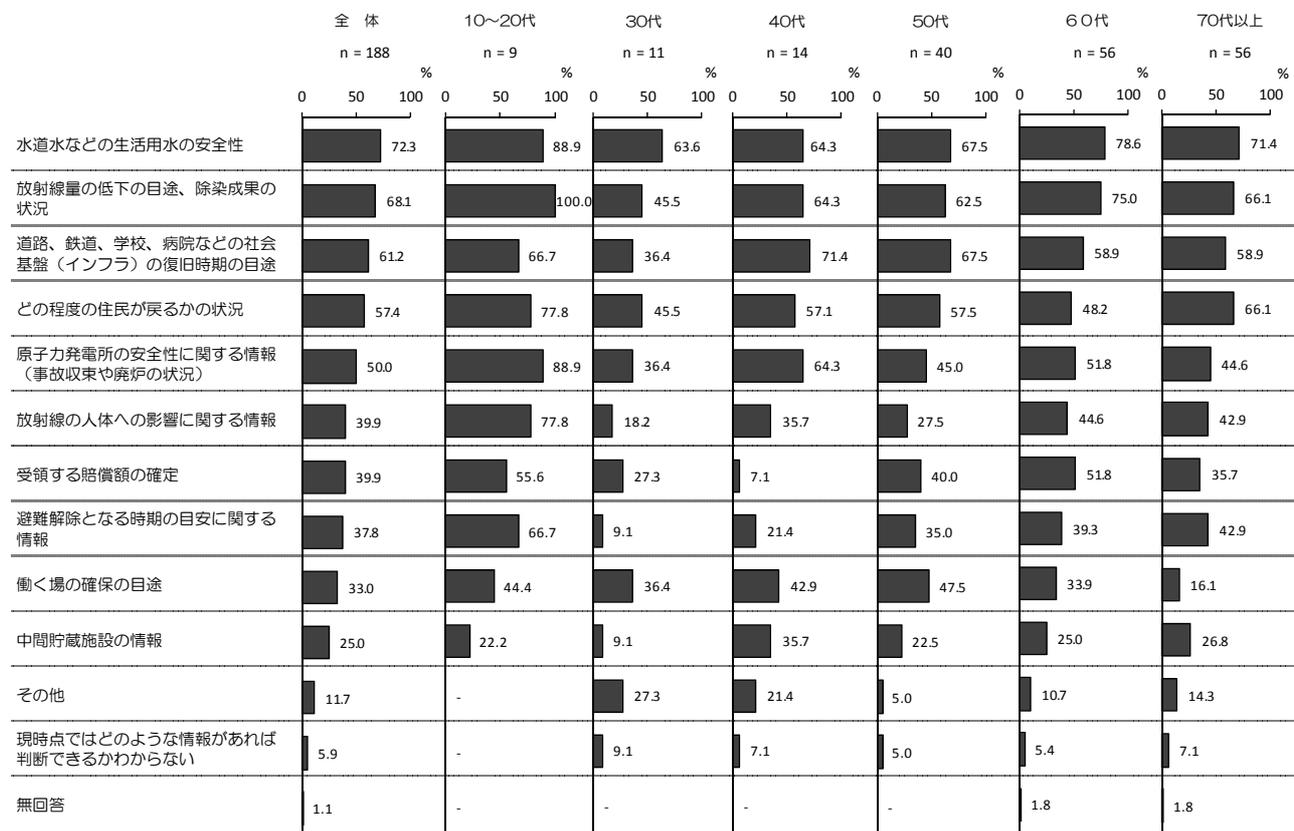
葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報について、「水道水などの生活用水の安全性」(72.3%)が最も多く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(68.1%)、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(61.2%)となっている。

<図表3-2-4-1 葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報>



世帯主の年齢別にみると、「水道水などの生活用水の安全性」が、概ねいずれの年齢層でも最も多くなっているが、10～20代では「どの程度の住民が戻るかの状況」（77.8%）、「原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）」（88.9%）、「放射線の人体への影響に関する情報」（77.8%）、40～50代では「働く場の確保の目途」が、他の年齢層に比べて高い割合となっている。

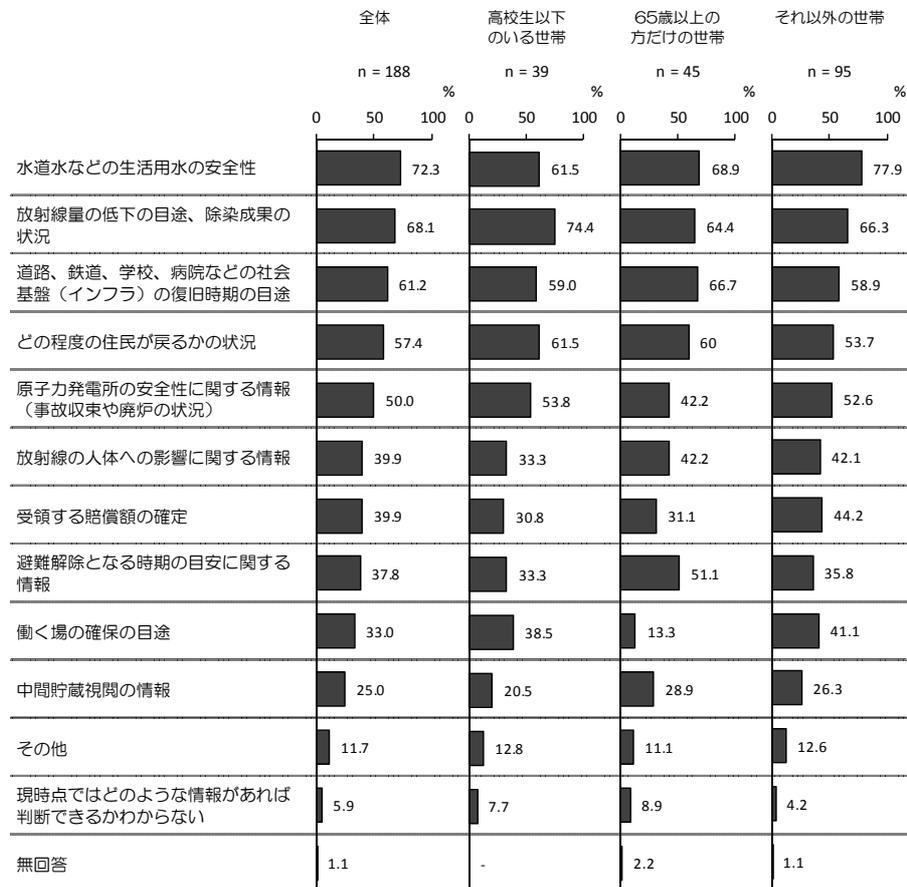
＜図表3-2-4-2 葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が74.4%、65歳以上の方だけの世帯では、「避難解除となる時期の目安に関する情報」が51.1%と、他の年齢層に比べて高い割合となっている。

＜図表3-2-4-3 葛尾村への帰還を判断する上で必要と思う情報（現在の世帯構成別）＞



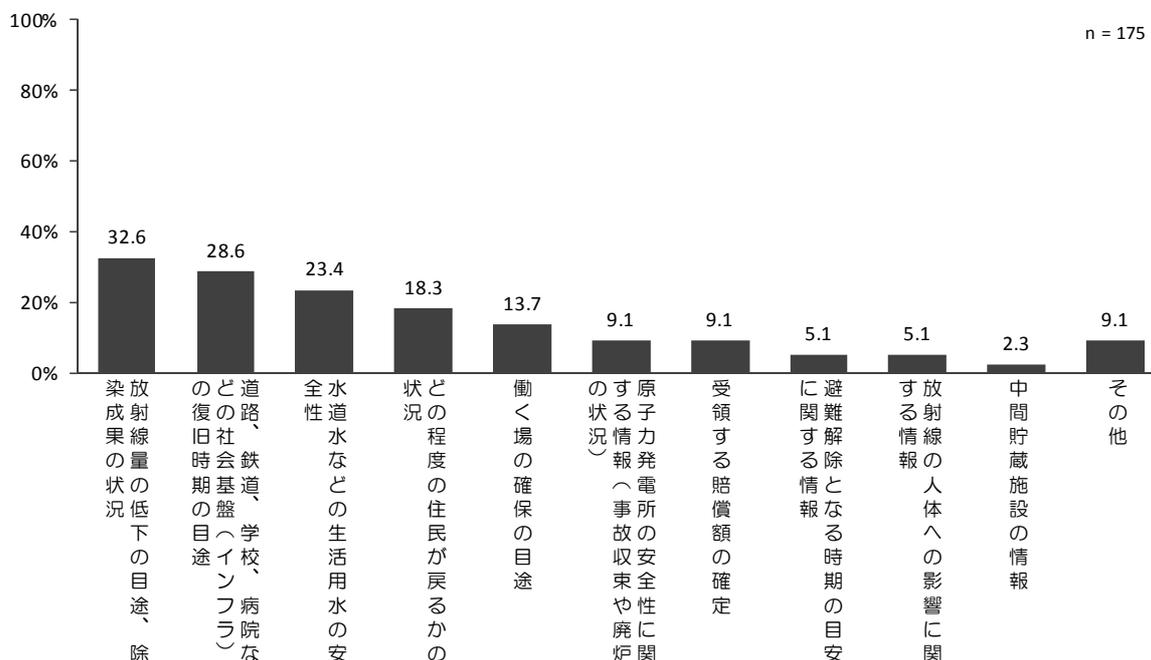
(2) 葛尾村への帰還を判断するうえで必要と思う情報のうち、重視するもの

【問 13-1 で「1」から「11」と回答した方にうかがいます。】

問 13-2 上記(問 13-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。具体的な条件の内容をお書きください。

帰還判断に重視する情報等について、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(32.6%)が最も多く、次いで「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(28.6%)、「水道水などの生活用水の安全性」(23.4%)となっている。

<図表 3-2-4-4 葛尾村への帰還を判断するうえで必要と思う情報(3つまで)>



上位項目の主な意見は以下のとおり。

[放射線量の低下の目途、除染成果の状況]

- 森林除染がないと、帰還できないと思います。(70代以上)
- 放射線量が震災前にもどっていれば。(50代)
- 現在の除染ではまた元に戻ってしまうと思うし、ホットスポット等も心配。(60代)

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途]

- 道路・公共施設の復旧は簡単。要は病院・店舗の有無。戻るのは簡単でない。(60代)
- 病院など、老いて車の運転できなくなった時村内に病院があれば助かる。(60代)
- 子育ての環境が整うこと。あまり少人数の学校に入れたくない。(10~20代)

[水道水などの生活用水の安全性]

- 水道は東電で井戸掘削の作業があるので掘削し安全な水と確認された場合。(30代)
- 深井戸が掘れて水が充分あれば。(60代)
- 飲料水、生活用水等の安全確保。(70代以上)

III 調査結果

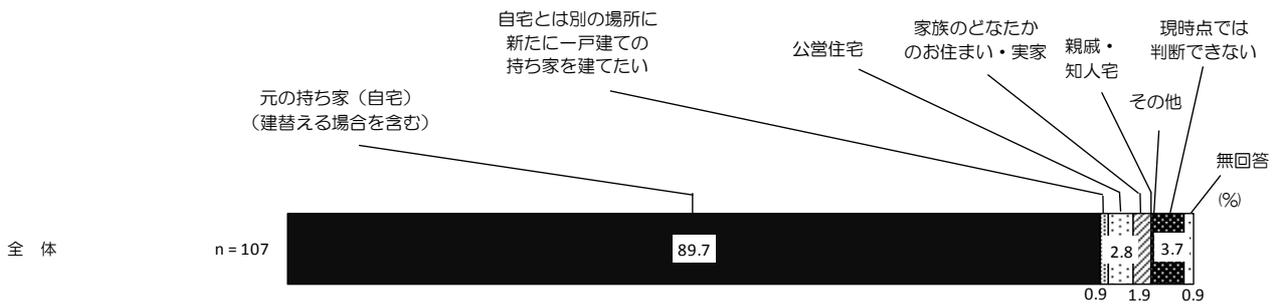
3-2-5 帰還する場合の住居形態

【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

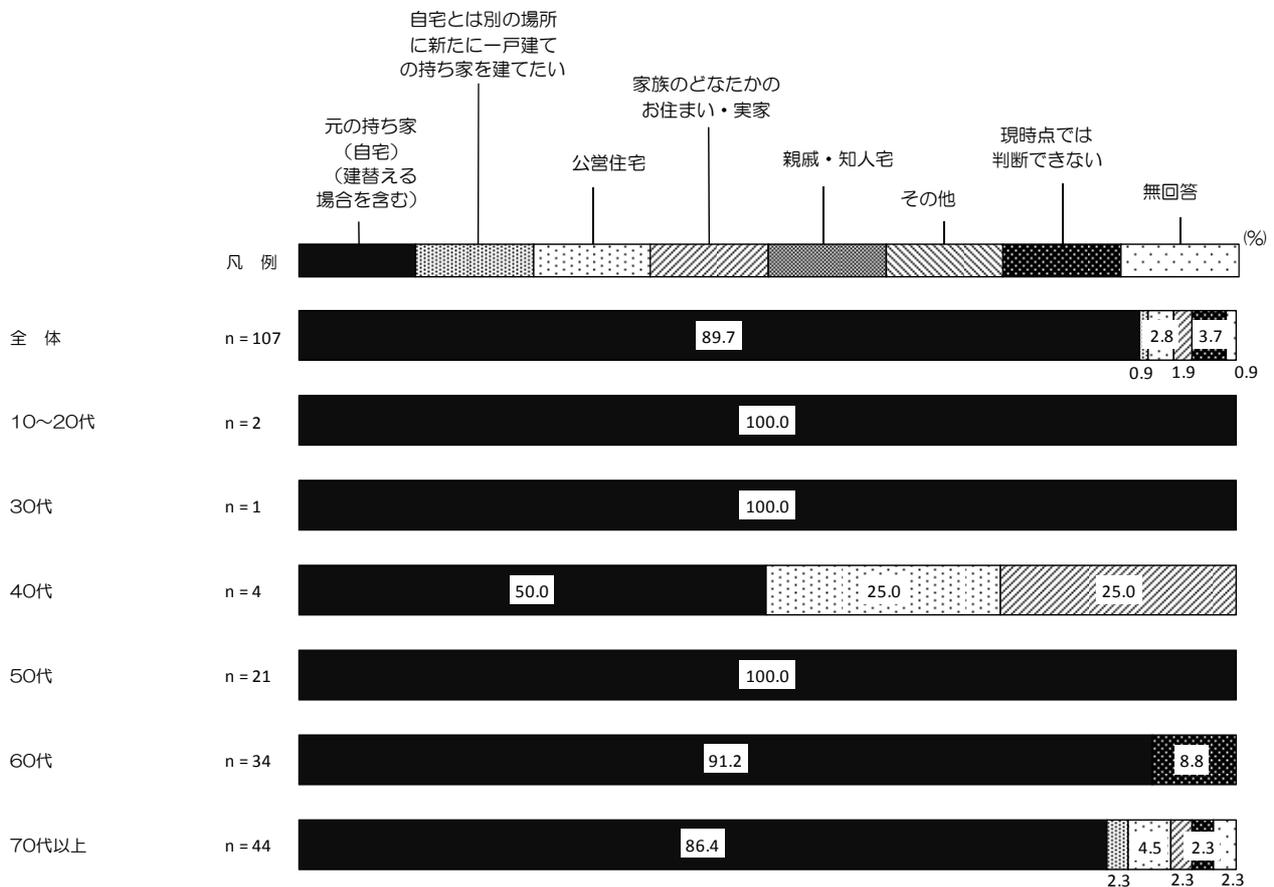
帰還する場合の住居形態について、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」（89.7%）が最も多く、全体の約9割を占めている。

<図表3-2-5-1 帰還する場合の住居形態>



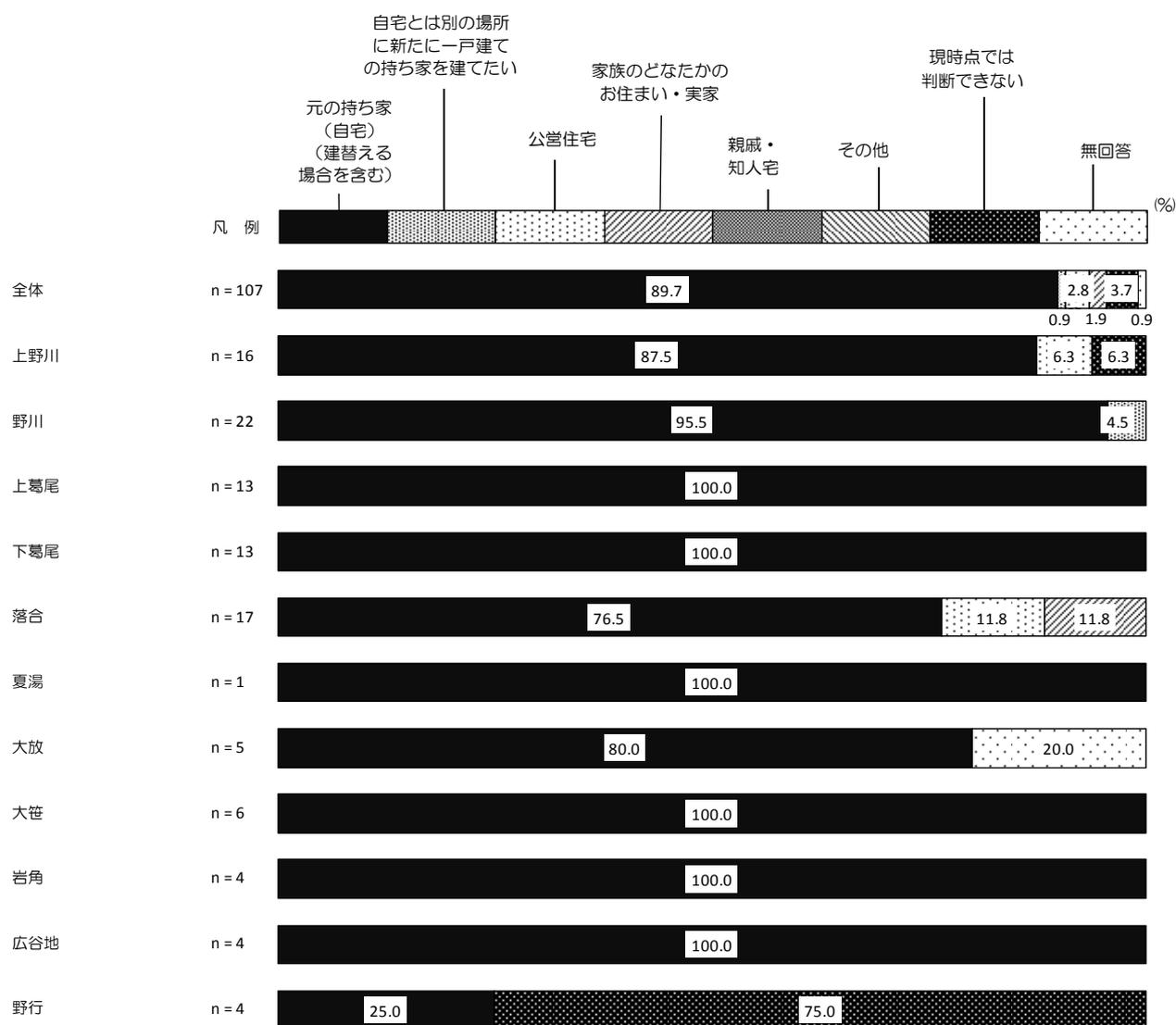
世帯主の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの年齢層でも最も多くなっている。

<図表3-2-5-2 帰還する場合の住居形態（世帯主の年齢別）>



震災発生時の居住行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」の割合が、野行を除くすべての行政区で最も高くなっている。

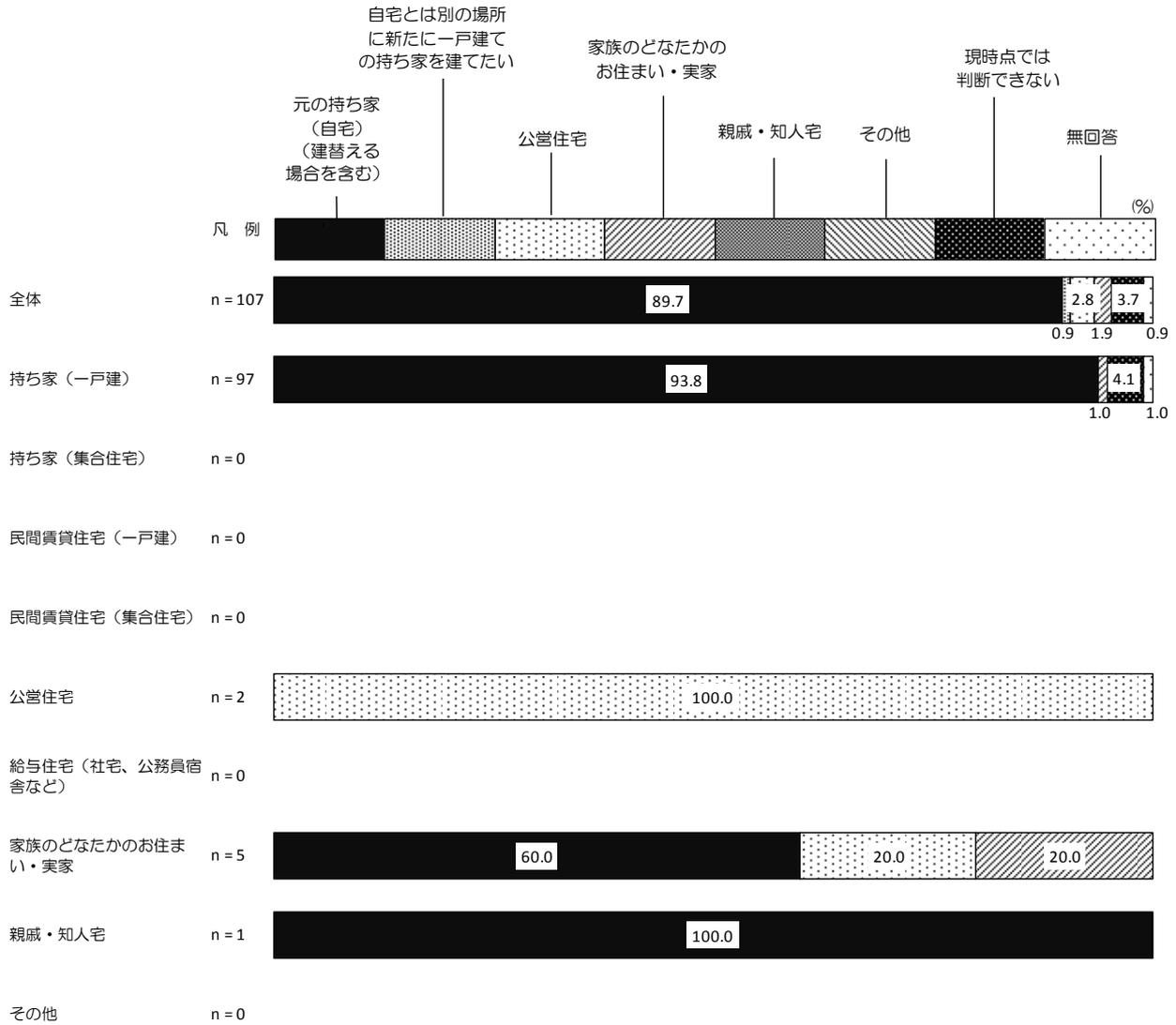
<図表3-2-5-3 帰還する場合の住居形態（居住行政区別）>



III 調査結果

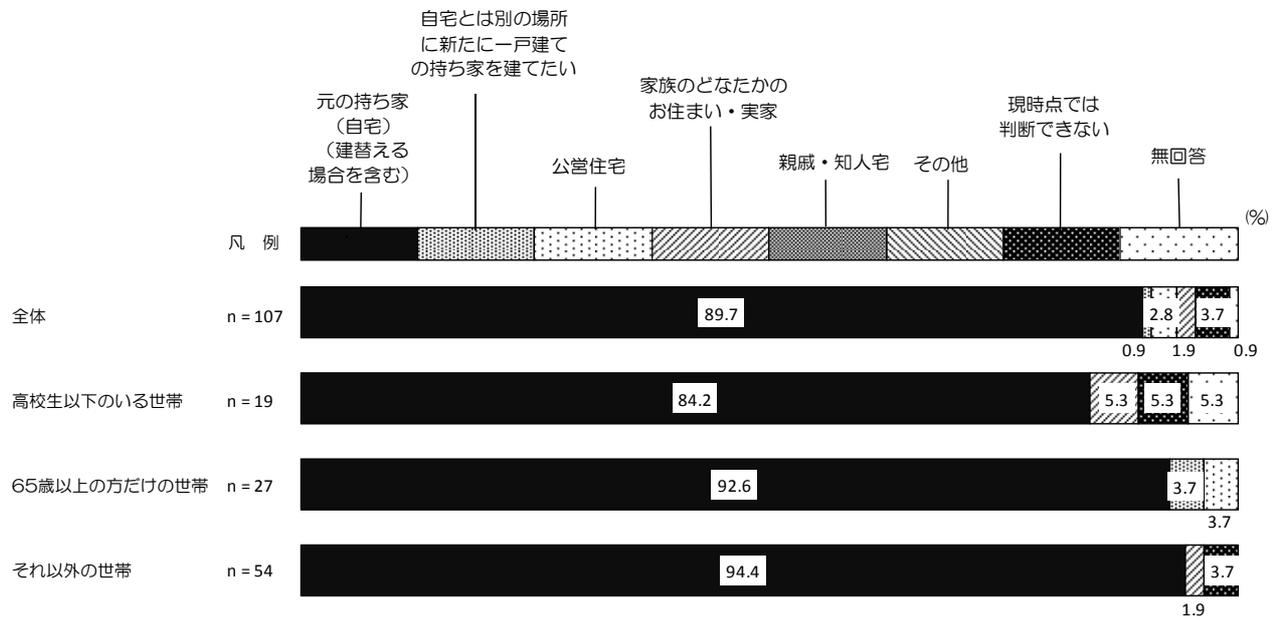
震災発生時の住居形態別にみると、当時持ち家（一戸建）の方では「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」（93.8%）が9割を超え高い割合となっている。

<図表3-2-5-4 帰還する場合の住居形態（震災当時の住居形態別）>



現在の世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」がいずれの世帯構成でも最も多くなっている。

<図表3-2-5-5 帰還する場合の住居形態（現在の世帯構成別）>



Ⅲ 調査結果

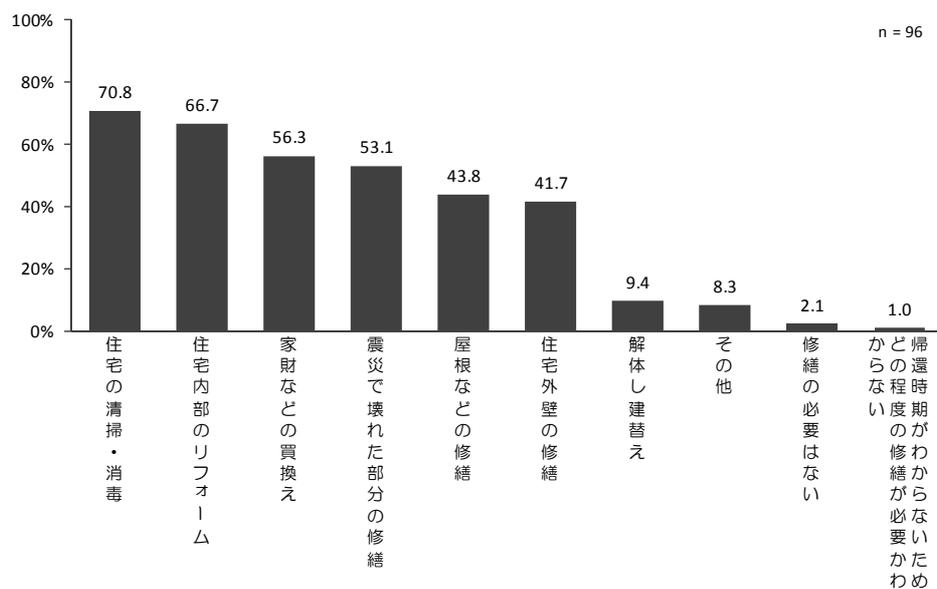
3-2-6 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕

【問 13-3 で「1.元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 13-4 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

元の持ち家に戻る場合に必要な修繕について、「住宅の清掃・消毒」（70.8%）と最も多く、次いで「住宅内部のリフォーム」（66.7%）、「家財などの買換え」（56.3%）となっている。

<図表3-2-6-1 元の持ち家に戻る場合に必要な修繕>



震災発生時の居住行政区別にみると、「住宅の清掃・消毒」は下葛尾、落合、大放、大笹で8割以上と高く、「住宅内部のリフォーム」は岩角、野川、下葛尾で7割以上、「震災で壊れた部分の修繕」は上野川で割合が高くなっている。

＜図表3-2-6-2 元の持ち家に戻る場合に必要修繕（居住行政区別）＞

	n	(%)									
		住宅の清掃・消毒	住宅内部のリフォーム	家財などの買換え	震災で壊れた部分の修繕	屋根などの修繕	住宅外壁の修繕	解体し建替え	その他	修繕の必要はない	の帰還時期がわからなから必要かいたためと
全 体	96	70.8	66.7	56.3	53.1	43.8	41.7	9.4	8.3	2.1	1.0
上野川	14	78.6	57.1	50.0	85.7	50.0	50.0	7.1	7.1	-	-
野川	21	52.4	76.2	61.9	61.9	33.3	38.1	23.8	4.8	-	-
上葛尾	13	69.2	61.5	53.8	53.8	61.5	61.5	15.4	15.4	-	-
下葛尾	13	84.6	76.9	69.2	53.8	53.8	38.5	-	7.7	-	-
落合	13	84.6	53.8	30.8	30.8	30.8	30.8	-	-	7.7	-
夏湯	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
大放	4	100.0	50.0	75.0	50.0	50.0	50.0	-	25.0	-	-
大笹	6	83.3	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	-	-	16.7	-
岩角	4	50.0	100.0	75.0	75.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-
広谷地	4	75.0	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	-	-	-
野行	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

III 調査結果

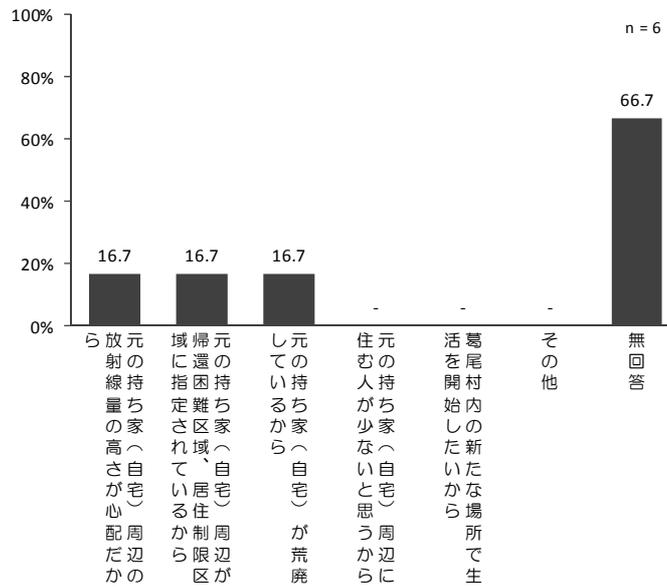
3-2-7 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 13-3 で「2」から「6」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）周辺が帰還困難区域、居住制限区域に指定されているから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が回答されている。

<図表3-2-7-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



※本問はn値が少ないため、参考値程度とする。

Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみると、野川で「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」、落合で「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）周辺が帰宅困難区域、居住制限区域に指定されているから」が回答されている。

<図表3-2-7-2 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）>

		(%)						
	n	放射線量の高さが心配だから	元の持ち家（自宅）周辺が帰宅困難区域、居住制限区域に指定されているから	元の持ち家（自宅）が荒廃しているから	元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから	葛尾村内の新たな場所での生活を開始したいから	その他	無回答
全体	6	16.7	16.7	16.7	-	-	-	66.7
上野川	1	-	-	-	-	-	-	100.0
野川	1	-	-	100.0	-	-	-	-
上葛尾	-	-	-	-	-	-	-	-
下葛尾	-	-	-	-	-	-	-	-
落合	4	25.0	25.0	-	-	-	-	75.0
夏湯	-	-	-	-	-	-	-	-
大放	-	-	-	-	-	-	-	-
大笹	-	-	-	-	-	-	-	-
岩角	-	-	-	-	-	-	-	-
広谷地	-	-	-	-	-	-	-	-
野行	-	-	-	-	-	-	-	-

※本問はn値が少ないため、参考値程度とする。

III 調査結果

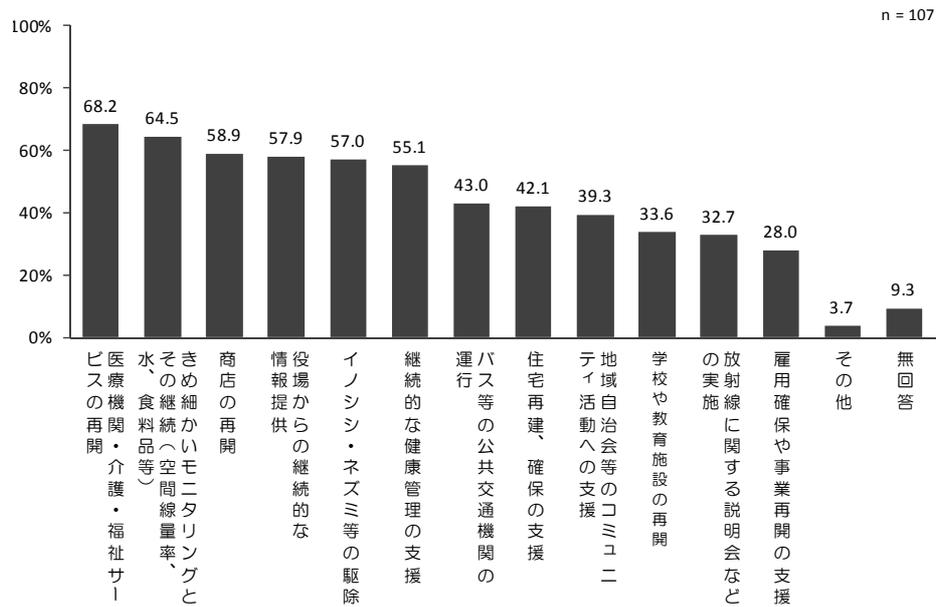
3-2-8 葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援

【問 13 で「1.現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 戻るときに行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

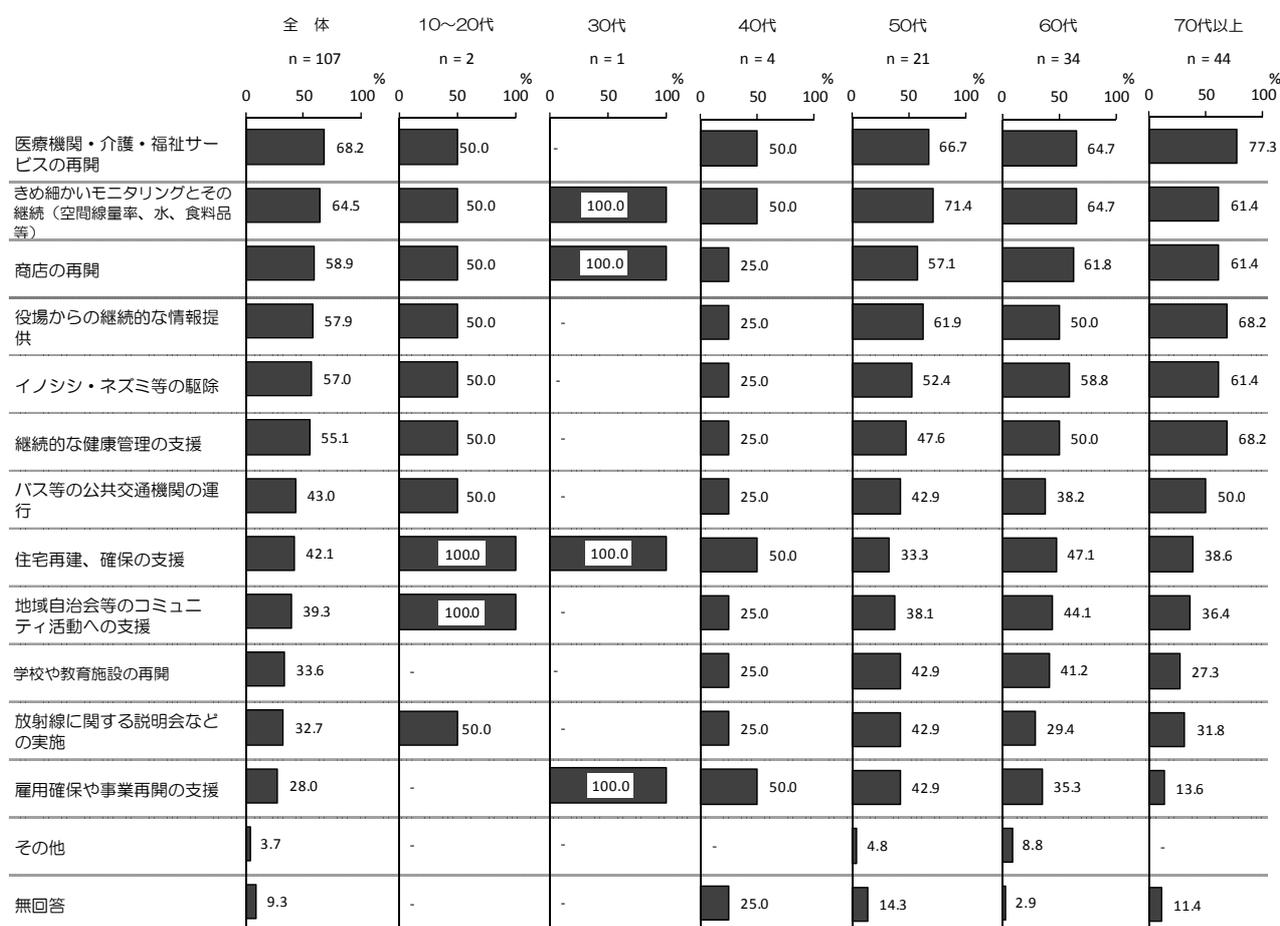
葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援について、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(68.2%)が最も多く、次いで「きめ細かいモニタリングとその継続(空間線量率、水、食料品等)」(64.5%)、「商店の再開」(58.9%)となっている。

〈図表3-2-8-1 葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援〉



世帯主の年齢別にみると、「継続的な健康管理の支援」は、70代以上（68.2%）で多く、「学校や教育施設の再開」は50代（42.9%）、60代（41.2%）で他の年齢層に比べて割合が高くなっている。

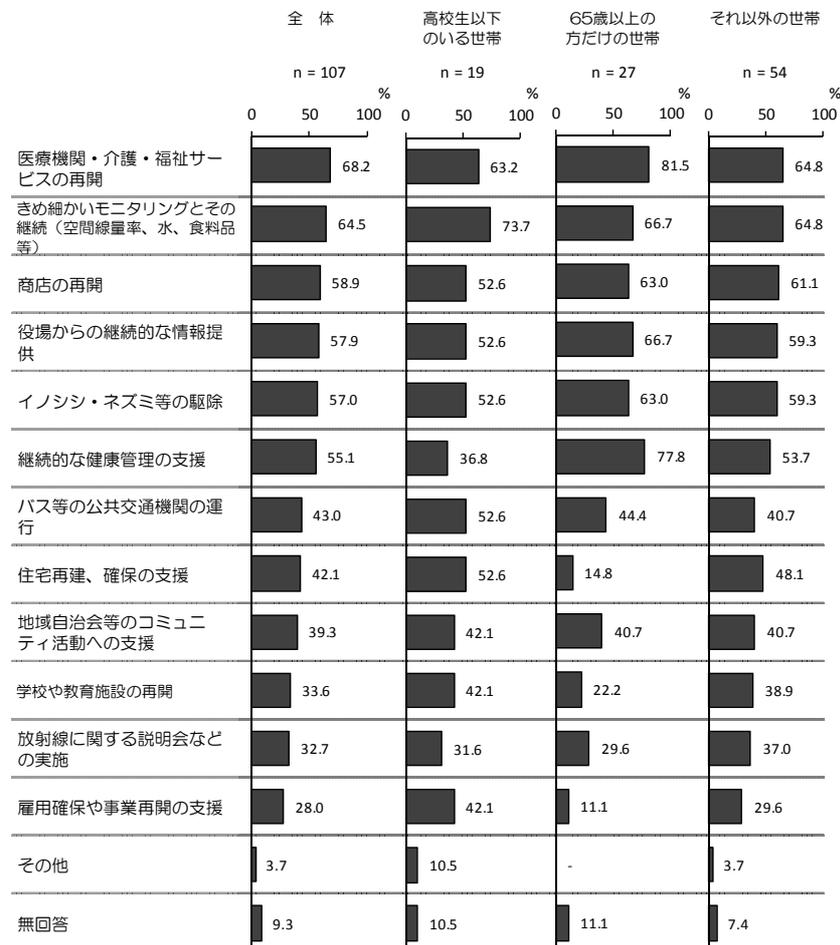
＜図表3-2-8-2 葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援（世帯主の年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「継続的な健康管理の支援」「医療機関・介護・福祉サービスの再開」は、65歳以上の方だけの世帯で約8割になっており、他の世帯構成に比べ割合が高くなっている。一方、高校生以下のいる世帯では「きめ細かいモニタリングとその継続（空間線量率、水、食料品等）」が約7割と高い割合になっている。

<図表3-2-8-3 葛尾村へ帰還する場合に行政に望む支援（現在の世帯構成別）>



3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由

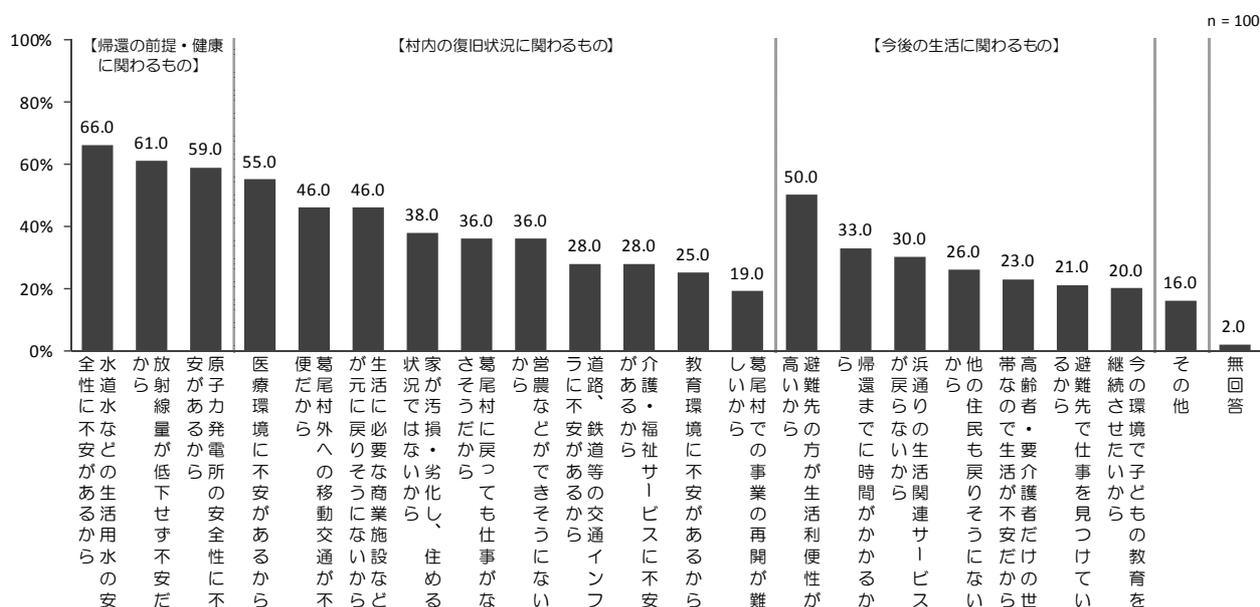
【問 13 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(66.0%) が最も多く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」(61.0%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(59.0%) となっており、帰還の前提・健康に関わる理由が多くなっている。

また、村内の復旧に関わるものでは、「医療環境に不安があるから」(55.0%) で多く、今後の生活に関わるものでは、「避難先の方が生活利便性が高いから」(50.0%) が多い。

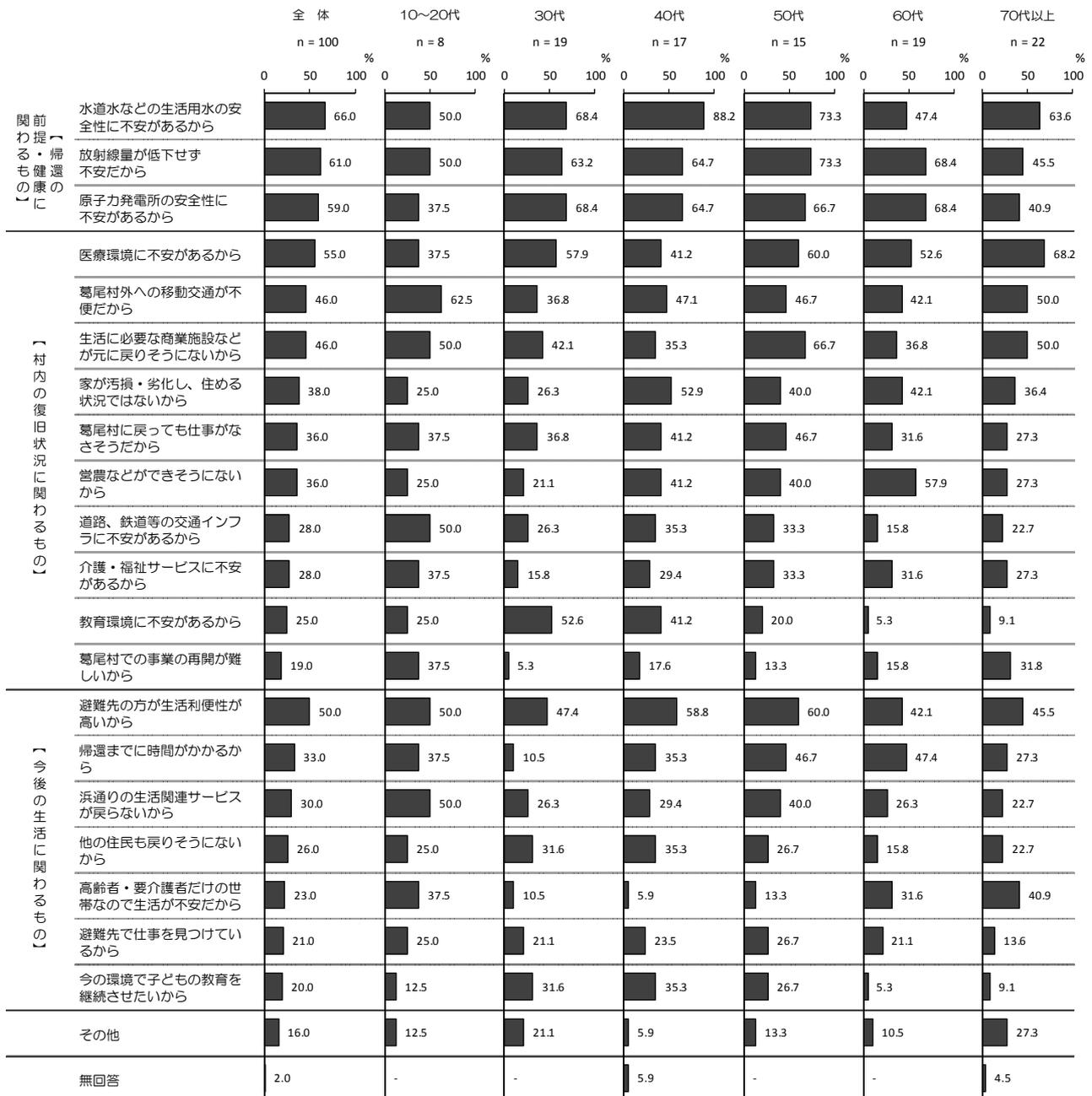
＜図表3-2-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞



III 調査結果

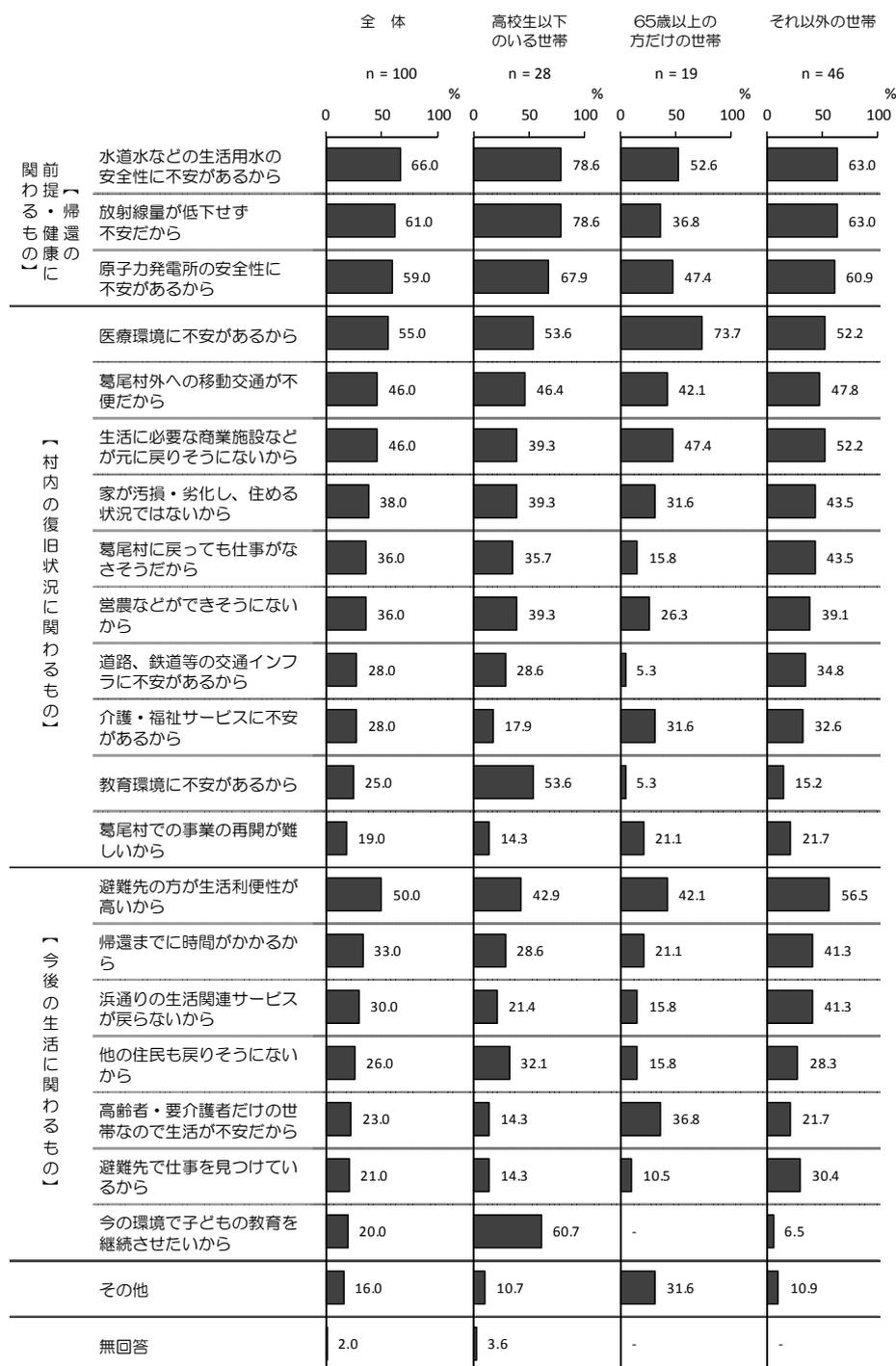
世帯主の年齢別にみると、帰還の前提・健康に関わるものの割合がいずれの年齢層でも高くなっている。村内の復旧状況や今後の生活に関わるものについては、年齢層によって違いがあり、30～40代では「教育環境に不安があるから」「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が多く、50代では「生活に必要な商業施設などがもとに戻りそうにないから」、70代以上では「医療環境に不安があるから」が、他の年齢層に比べ高い割合となっている。

＜図表3-2-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）＞



現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では機関の前提・県子に関わる項目に加えて、「教育環境に不安があるから」(53.6%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(60.7%)が他の世帯構成に比べて割合が高い。また、65歳以上の方だけの世帯では、「医療環境に不安があるから」(73.7%)が他と比べて割合が高くなっている。

<図表3-2-9-3 現時点で戻らないと決めている理由(現在の世帯構成別)>



III 調査結果

3-2-10 帰還しない場合に居住したい自治体

(1) 帰還しない場合の居住予定

【問 13 で「3.現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(〇は1つ)

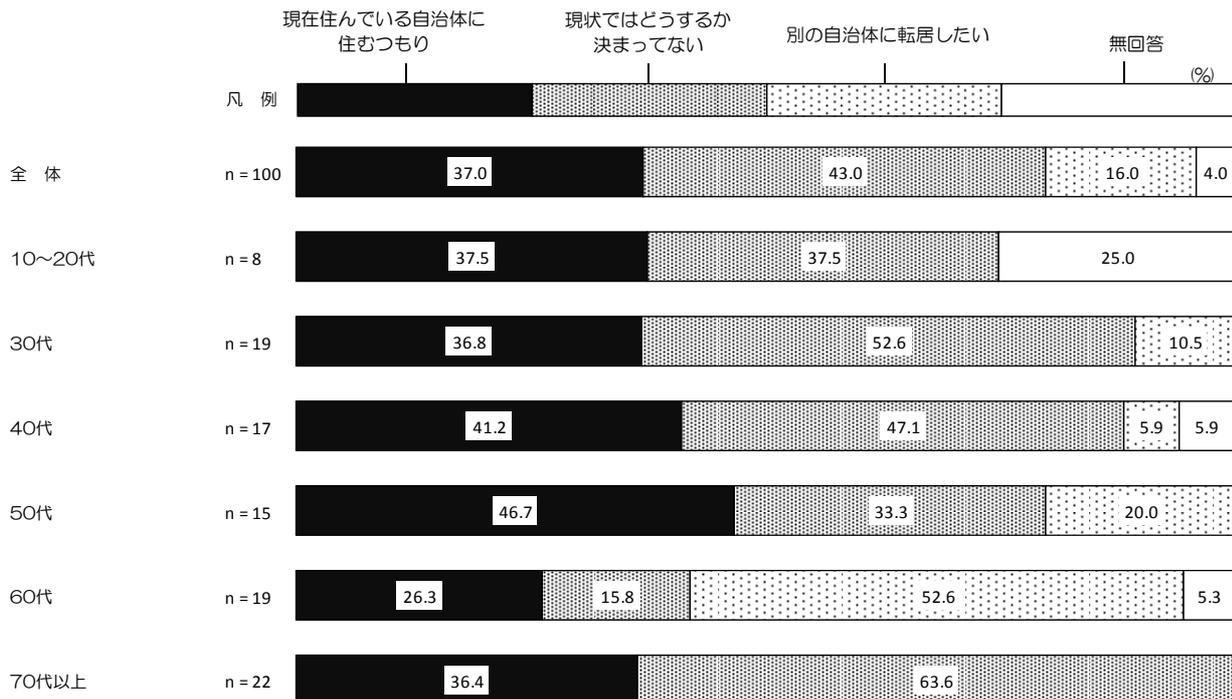
帰還しない場合に居住したい自治体について、「現状ではどうするか決まっていない」(43.0%)が最も多い。「現在住んでいる自治体に住むつもり」は37.0%、「別の自治体に転居したい」(16.0%)の2倍以上の割合となっている。

<図表3-2-10-1 帰還しない場合の居住予定>



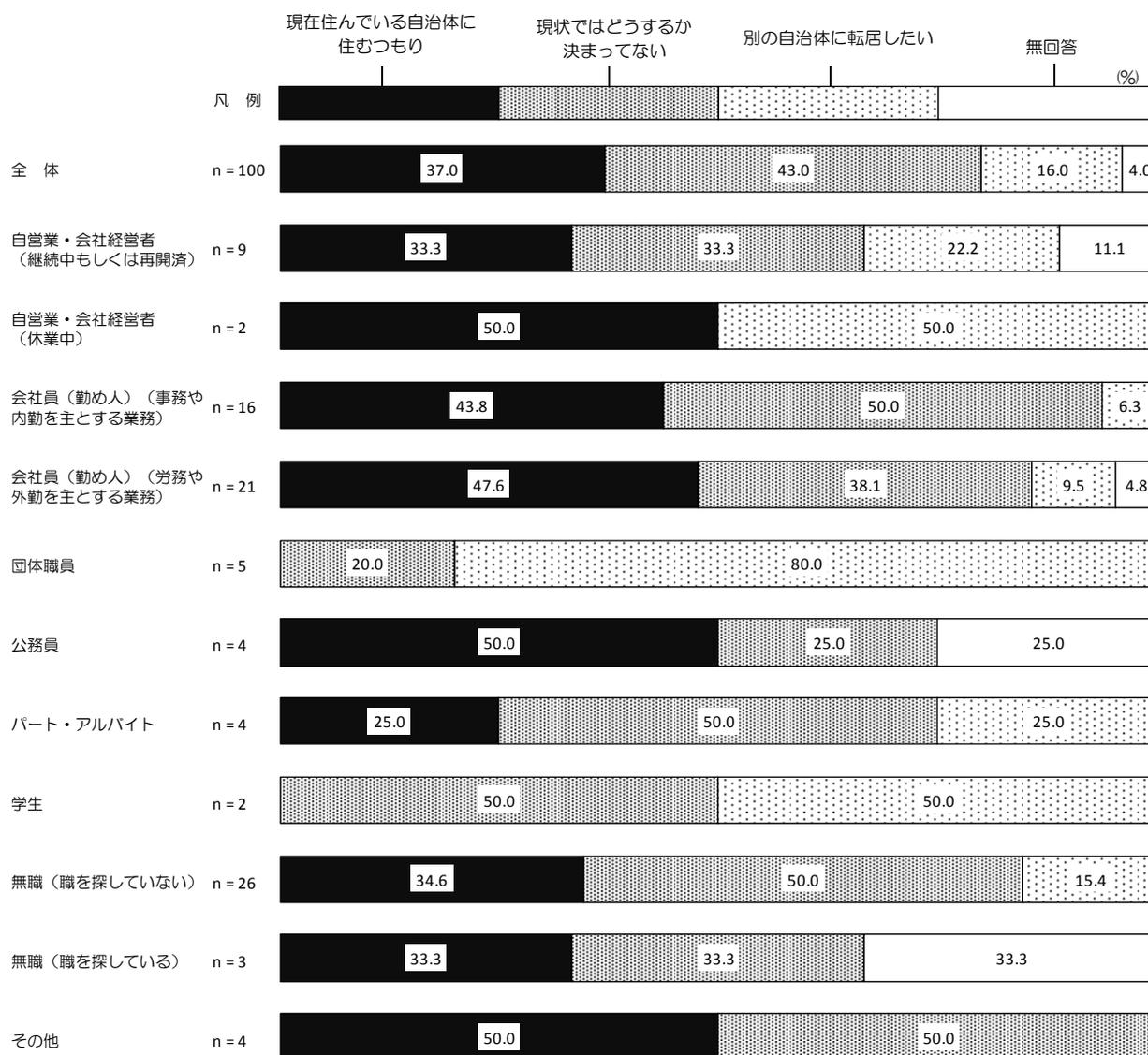
世帯主の年齢別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は40代(41.2%)、50代(46.7%)で4割以上と多く、60代では「別の自治体に転居したい」が過半数と、他の年齢層に比べ割合が高くなっている。

<図表3-2-10-2 帰還しない場合の居住予定(世帯主の年齢別)>



現在の職業別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」は会社員や公務員で4割以上、「別の自治体に転居したい」は団体職員で8割と、他の職業に比べて割合が高くなっている。

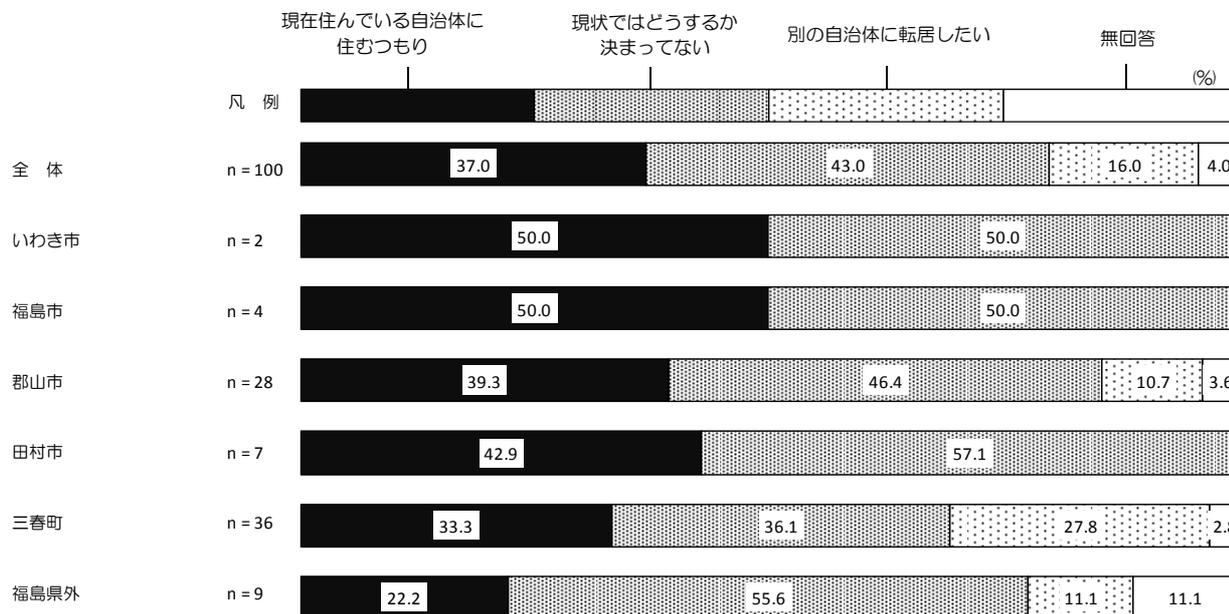
<図表3-2-10-3 帰還しない場合の居住予定（現在の職業別）>



III 調査結果

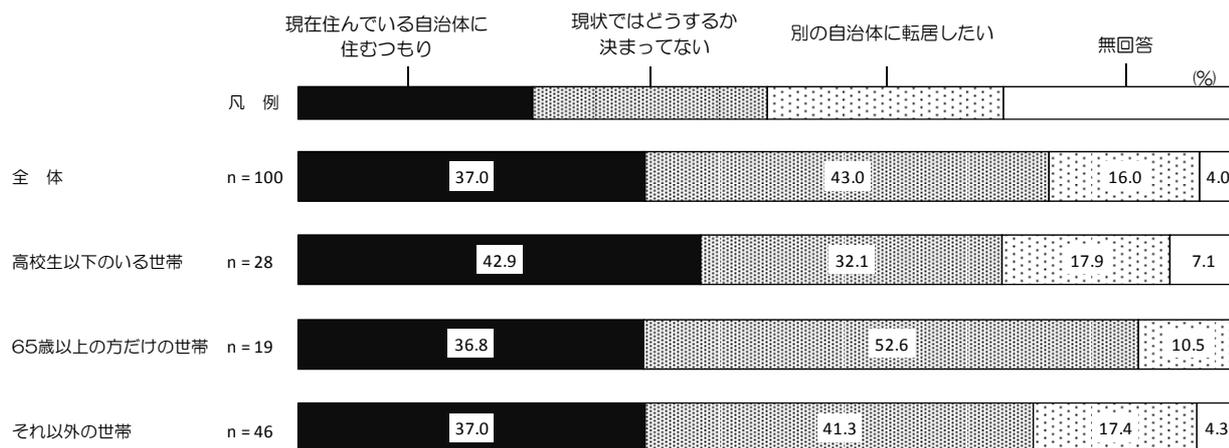
主な避難先自治体別にみると、「現在住んでいる自治体に住むつもり」はいわき市、福島市で多く、「別の自治体に転居したい」は三春町で、他の自治体に比べ高い割合となっている。

<図表3-2-10-4 帰還しない場合の居住予定（避難先自治体別）>



現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「現在住んでいる自治体に住むつもり」が4割と他の世帯構成に比べて、割合が高くなっている。

<図表3-2-10-5 帰還しない場合の居住予定（現在の世帯構成別）>



(2) 転居を希望する自治体

問 13-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

【問 13-8 (1) で「3.別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

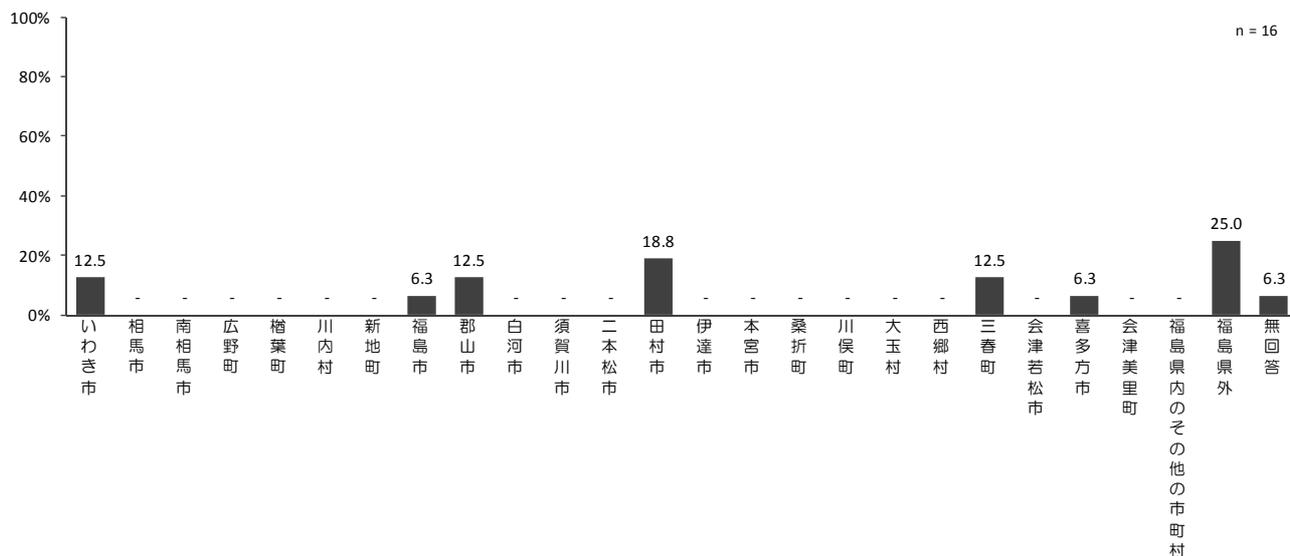
(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(〇は1つ)

帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島県外」(25.0%)が最も高く、次いで「田村市」(18.8%)などとなっている。

主な避難先自治体別にみると、三春町に避難している方の約3割は「福島県外」を希望しているが、郡山市に避難している方は「いわき市」、「三春町」、「福島県外」を希望している。

なお、参考として、帰還しない場合の居住予定(問 13-8 (1))で「現在住んでいる自治体に住むつもり」とした世帯について、現在の避難先自治体(問 7)の回答を合算して集計した結果が<図表3-2-10-7 転居を希望する自治体>右の表である。これをみると、現在三春町に避難している世帯のうち約5割がそのまま「三春町」に、現在郡山市に避難している世帯のうち8割弱がそのまま「郡山市」を希望しているということになる。

<図表3-2-10-6 転居を希望する自治体>



<図表3-2-10-7 転居を希望する自治体(主な避難先自治体別)>

※参考：問13-8(1)で「現在住んでいる自治体に住むつもり」と回答した世帯も合算した場合

	(%)	いわき市	郡山市	田村市	三春町	福島県外
全体	16	12.5	12.5	18.8	12.5	25.0
いわき市	-	-	-	-	-	-
福島市	-	-	-	-	-	-
郡山市	3	33.3	-	-	33.3	33.3
田村市	-	-	-	-	-	-
三春町	10	10.0	20.0	20.0	-	30.0
福島県外	1	-	-	-	-	-

	(%)	いわき市	郡山市	田村市	三春町	福島県外
全体	53	5.7	24.5	11.3	26.4	11.3
いわき市	1	100.0	-	-	-	-
福島市	2	-	-	-	-	-
郡山市	14	7.1	78.6	-	7.1	7.1
田村市	3	-	-	100.0	-	-
三春町	22	4.5	9.1	9.1	54.5	13.6
福島県外	3	-	-	-	-	66.7

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「福島県外」「田村市」への希望がどちらも約4割となっており、65歳以上の方だけの世帯では「福島県外」への希望が約5割となっている。

<図表3-2-10-8 転居を希望する自治体（現在の世帯構成別）>

	n	(%)				
		いわき市	郡山市	田村市	三春町	福島県外
全 体	16	12.5	12.5	18.8	12.5	25.0
高校生以下のいる世帯	5	20.0	-	40.0	-	40.0
65歳以上の方だけの世帯	2	-	-	-	-	50.0
それ以外の世帯	8	12.5	25.0	12.5	25.0	12.5

※本問はn値が少ないため、参考値程度とする。

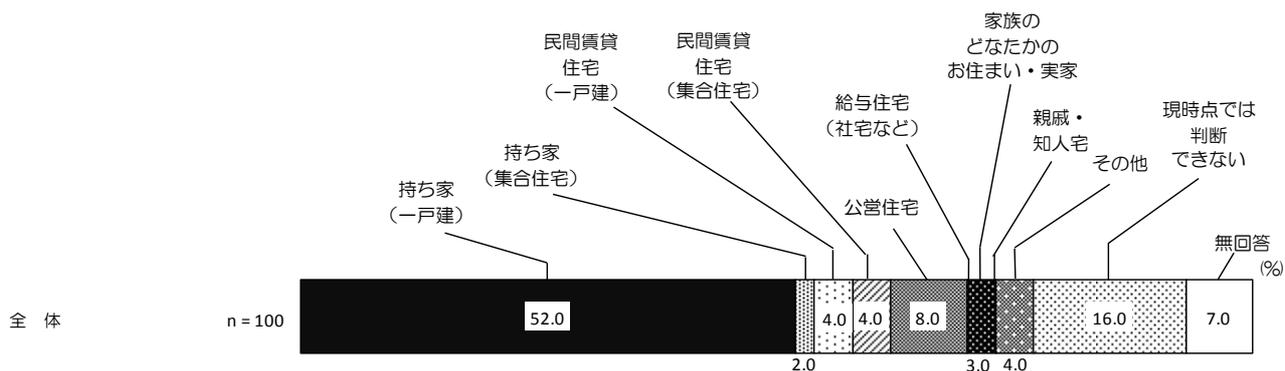
3-2-11 帰還しない場合の住居形態

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-9 今後のお住まいとして希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

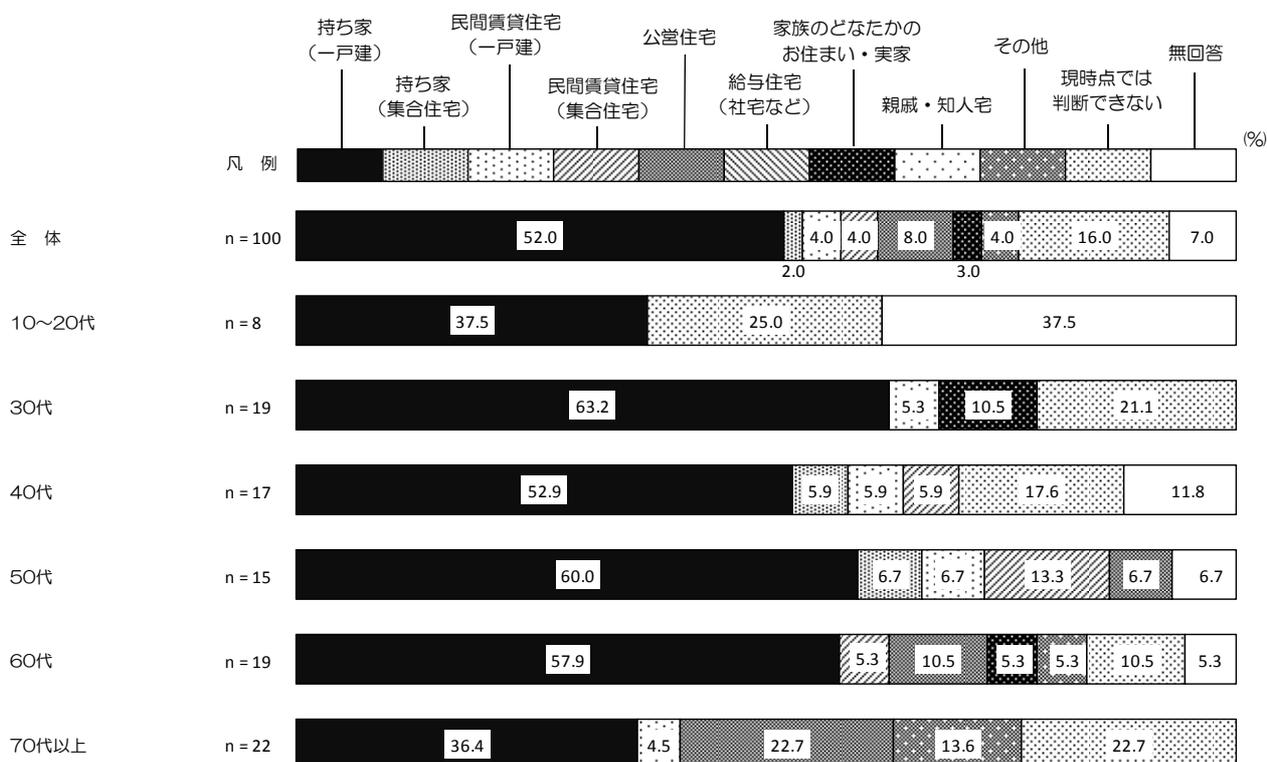
帰還しない場合の住居形態について、「持ち家（1戸建）」（52.0%）が最も多く、次いで「現時点では判断できない」（16.0%）、「公営住宅」（8.0%）となっている。

<図表3-2-11-1 帰還しない場合の住居形態>



世帯主の年齢別にみると、「持ち家（1戸建）」がいずれの年齢層でも最も多くなっている。70代以上では「公営住宅」の割合が2割と他の年齢層に比べて多い。

<図表3-2-11-2 帰還しない場合の住居形態（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

3-2-12 帰還しない場合の住居の確保

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-10 今後居住される予定のお住まいを確保されていますか。(○は1つ)

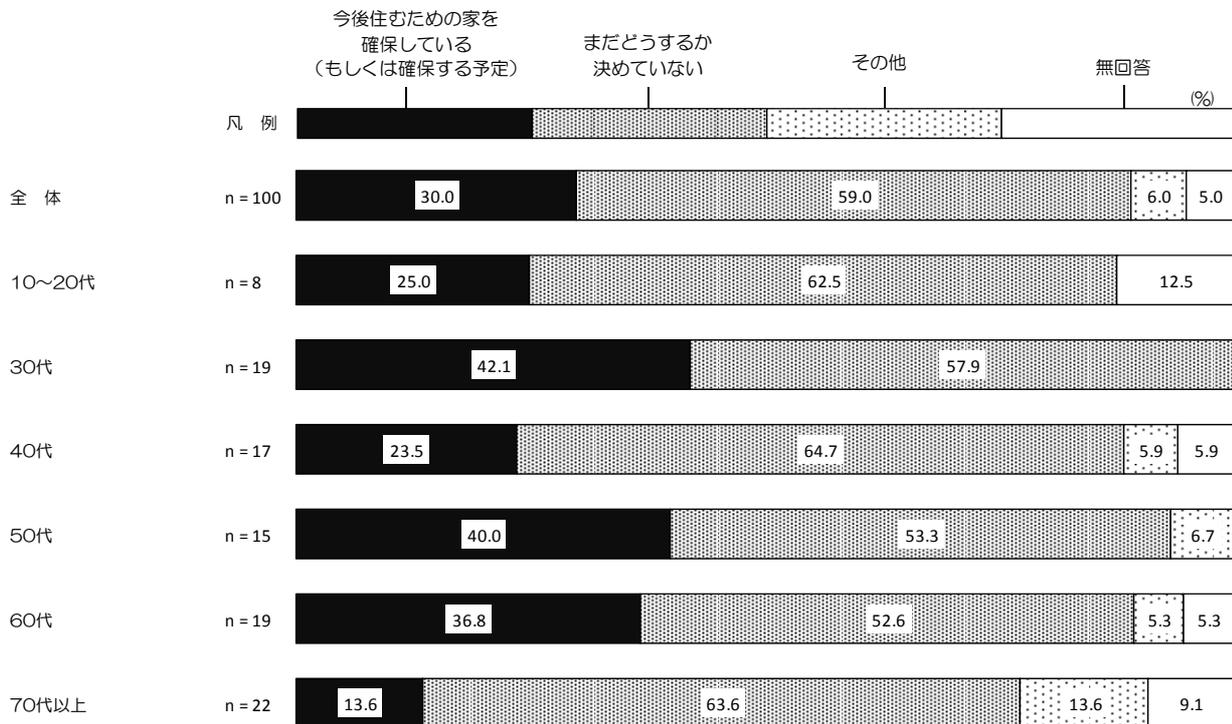
帰還しない場合の住居の確保について、「まだどうするか決めていない」(59.0%)の割合が高く、「今後住むための家を確保している(もしくは確保する予定)」は30.0%となっている。

<図表3-2-12-1 帰還しない場合の住居の確保>



世帯主の年齢別にみると、「今後住むための家を確保している(もしくは確保する予定)」は30代(42.1%)、50代(40.0%)、60代(36.8%)で割合が高くなっている。

<図表3-2-12-2 帰還しない場合の住居の確保(世帯主の年齢別)>



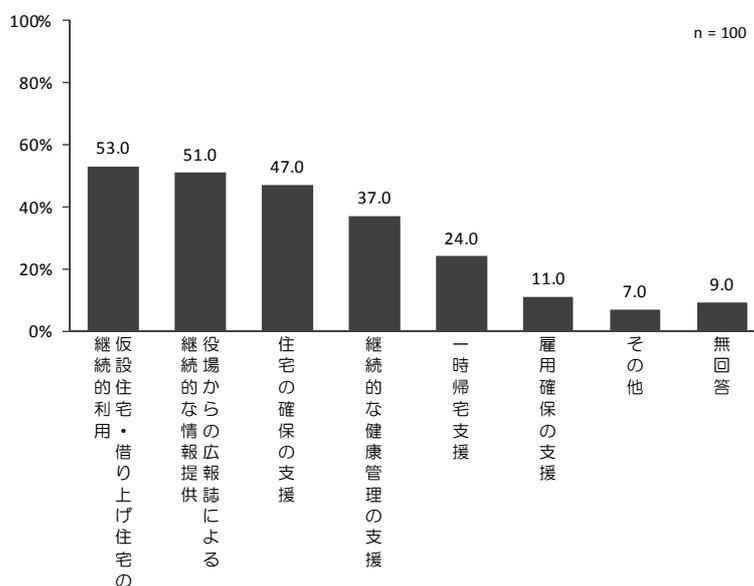
3-2-13 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-11 震災時に居住されていた葛尾村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。
(〇はいくつでも)

帰還しない場合に今後の生活において求める支援について、「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」(53.0%) が最も多く、次いで「役場からの広報誌による継続的な情報提供」(51.0%)、「住宅の確保の支援」(47.0%) となっている。

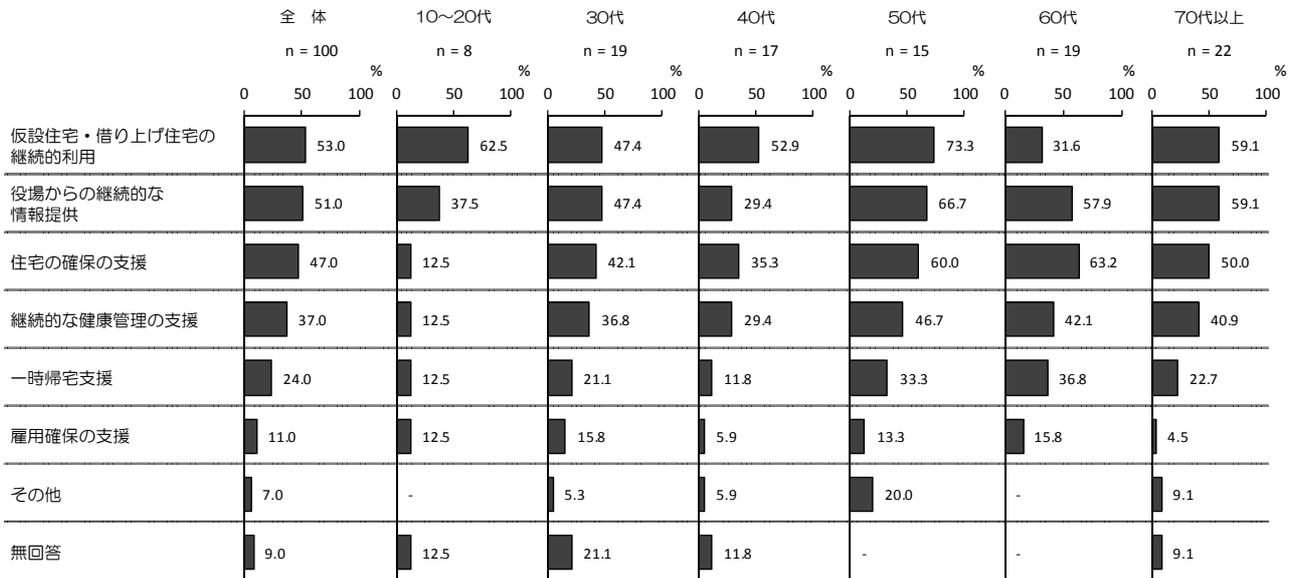
<図表3-2-13-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援>



Ⅲ 調査結果

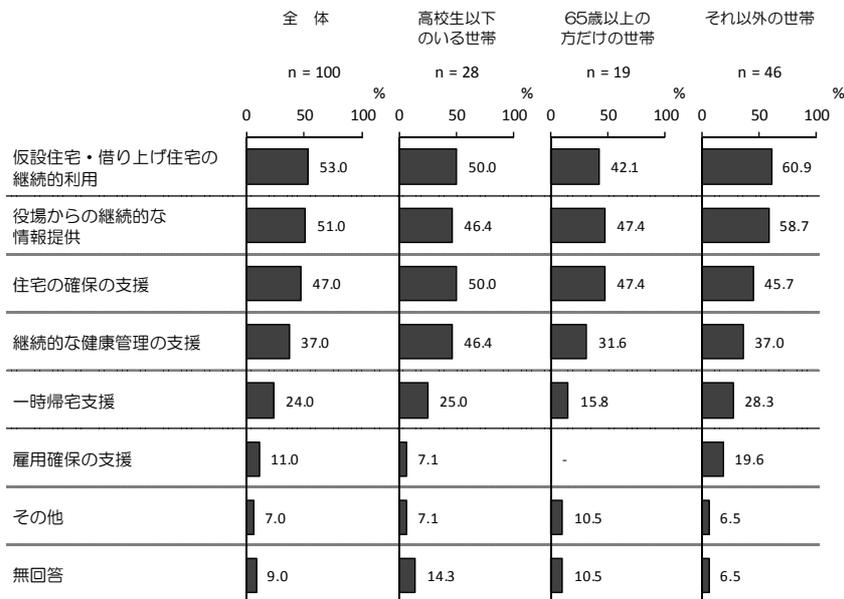
世帯主の年齢別にみると、50代では「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」(73.3%)が多く、「住宅の確保の支援」「一時帰宅支援」では50~60代で、他の年齢層に比べて割合が高い。

＜図表3-2-13-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（世帯主の年齢別）＞



現在の世帯構成別にみると、いずれの世帯でも「仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用」、「役場からの継続的な情報提供」、「住宅の確保の支援」が4割を超えており、高い割合となっている。また、「継続的な健康管理の支援」では、高校生以下のいる世帯(46.4%)で他の世帯構成に比べ割合が高い。

＜図表3-2-13-3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（現在の世帯構成別）＞



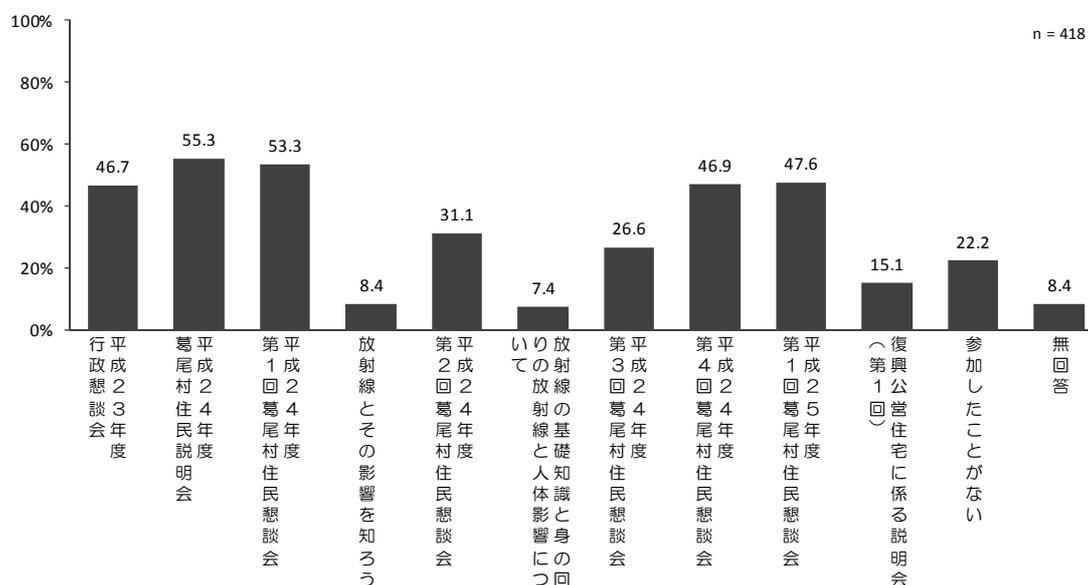
3-3 住民懇談会等への参加意向

3-3-1 葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況

問 14 これまでに葛尾村で開催した住民懇談会や放射線に関する説明会にどれくらい参加していますか。
(〇はいくつでも)

葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況について、「平成 24 年度葛尾村住民説明会」(55.3%) が最も多く、次いで「平成 24 年度第 1 回葛尾村住民懇談会」(53.3%)、「平成 25 年度第 1 回葛尾村住民懇談会」(47.6%) と、住民懇談会への参加が多くみられる。

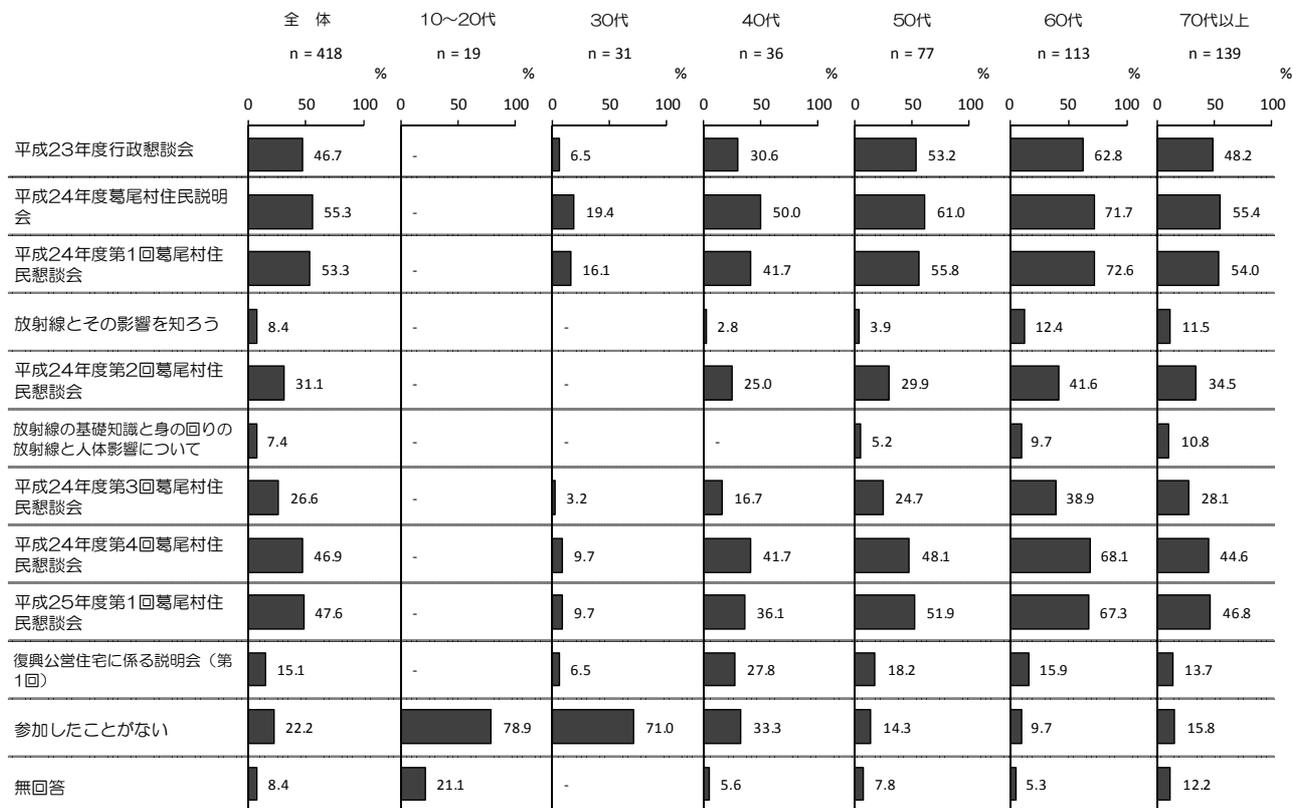
<図表 3-3-1-1 葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況>



III 調査結果

世帯主の年齢別にみると、「平成23年度行政懇談会」「平成24年度葛尾村住民説明会」「平成24年度第1回葛尾村住民懇談会」「平成24年度第4回葛尾村住民懇談会」「平成25年度第1回葛尾村住民懇談会」は60代で6割以上と参加率が高い。一方、10～30代の年齢層では、「参加したことがない」が約7割となっている。

＜図表3-3-1-2 葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況（世帯主の年齢別）＞



避難先自治体別にみると、三春町では「平成 24 年度葛尾村住民説明会」(67.3%)、「平成 24 年度第 1 回葛尾村住民懇談会」(65.0%) への参加が 6 割を超えている。一方、いわき市では「参加したことがない」が約 7 割になっており、他の避難先自治体に比べその割合が高くなっている。

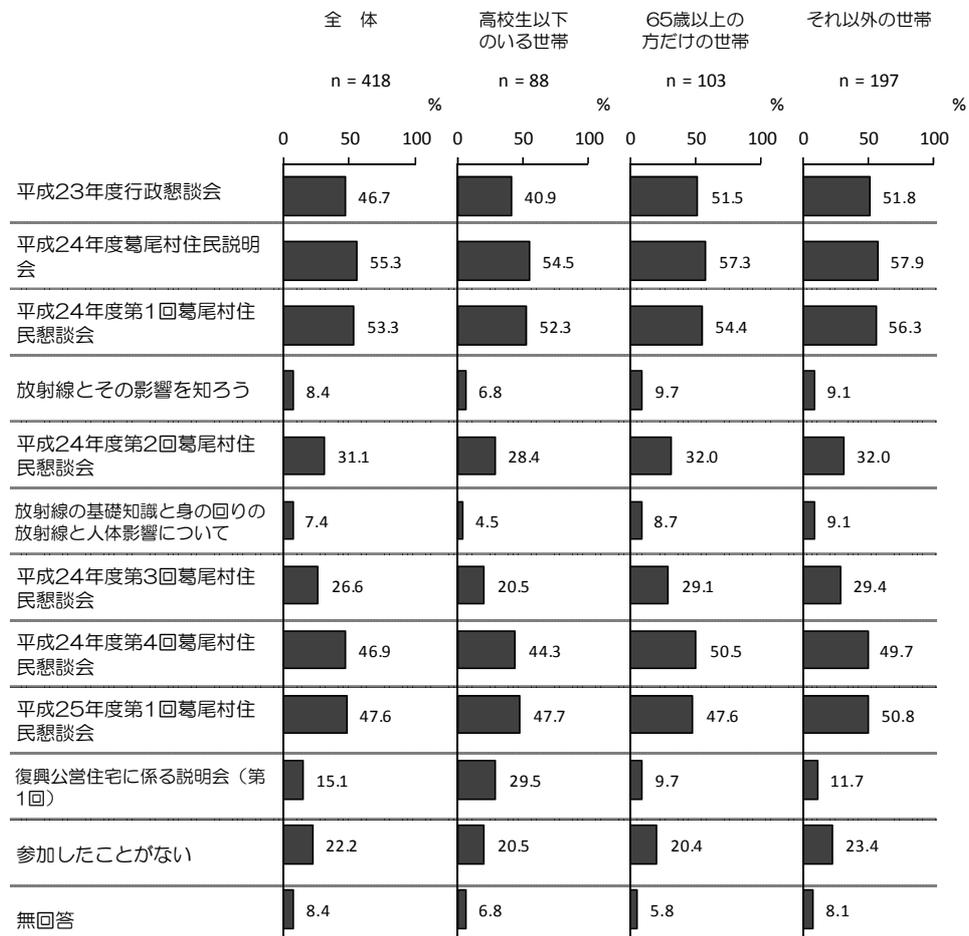
< 図表 3-3-1-3 葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況 (避難先自治体別) >

	n	参加状況 (%)											
		平成 23 年度 行政懇談会	平成 24 年度 葛尾村住民説明会	平成 24 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会	放射線とその影響を 知ろう	平成 24 年度 第 2 回葛尾村住民懇談会	放射線の基礎知識と身の回りの放射線と人体影響について	平成 24 年度 第 3 回葛尾村住民懇談会	平成 24 年度 第 4 回葛尾村住民懇談会	平成 24 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会	平成 25 年度 (復興公営住宅に係る説明会 第 1 回)	参加したことがない	無回答
全体	418	46.7	55.3	53.3	8.4	31.1	7.4	26.6	46.9	47.6	15.1	22.2	8.4
いわき市	7	14.3	28.6	28.6	-	28.6	-	28.6	14.3	28.6	14.3	71.4	-
福島市	10	20.0	50.0	30.0	-	10.0	-	20.0	30.0	20.0	20.0	50.0	-
郡山市	72	33.3	47.2	43.1	4.2	23.6	4.2	22.2	37.5	34.7	15.3	37.5	5.6
田村市	33	51.5	54.5	60.6	3.0	36.4	6.1	15.2	45.5	36.4	9.1	15.2	3.0
三春町	226	59.7	67.3	65.0	12.8	37.6	10.6	33.2	58.0	63.3	16.8	8.4	10.2
福島県外	36	11.1	25.0	25.0	-	13.9	-	8.3	19.4	16.7	11.1	50.0	8.3

Ⅲ 調査結果

現在の世帯構成別にみると、「平成 24 年度葛尾村住民説明会」「平成 24 年度第 1 回葛尾村住民懇談会」がいずれの世帯構成でも約 5 割を超え、他の懇談会や説明会等への参加より割合が高くなっている。また、「復興公営住宅に係る説明会（第 1 回）」では高校生以下のいる世帯で 29.5%と、他の世帯構成に比べ参加率が高い。

<図表 3-3-1-4 葛尾村の住民懇談会や説明会等への参加状況（現在の世帯構成別）>



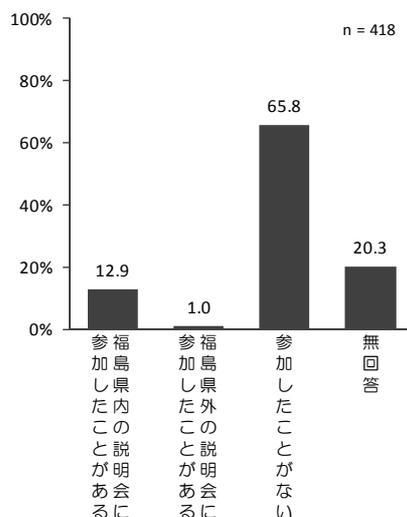
3-3-2 葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況

(1) 参加状況

問 15 葛尾村の開催以外で、放射線に関する説明会に参加されたことがありますか。(〇はいくつでも)

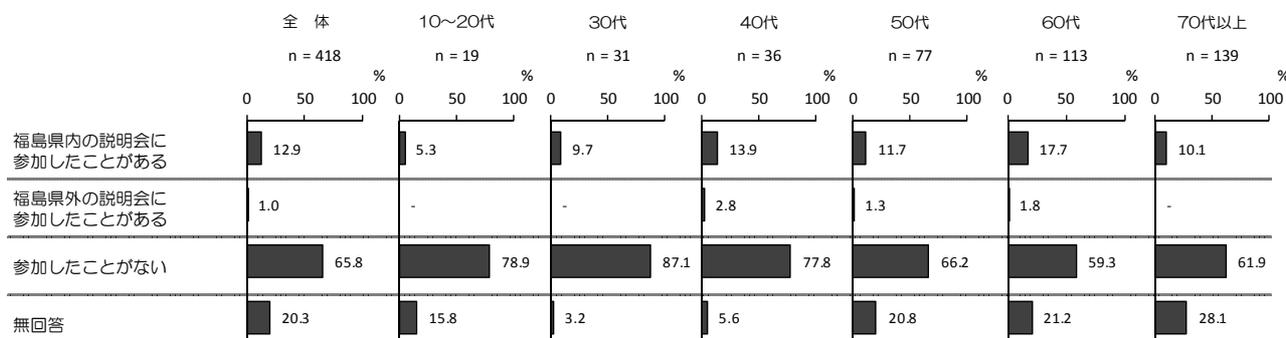
葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況について、「参加したことがない」(65.8%)が最も多く、「福島県内の説明会に参加したことがある」(12.9%)は1割程度にとどまっている。

<図表3-3-2-1 葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況>



世帯主の年齢別にみると、「参加したことがない」は40代以下で7割以上となっており、特に30代(87.1%)で高い。

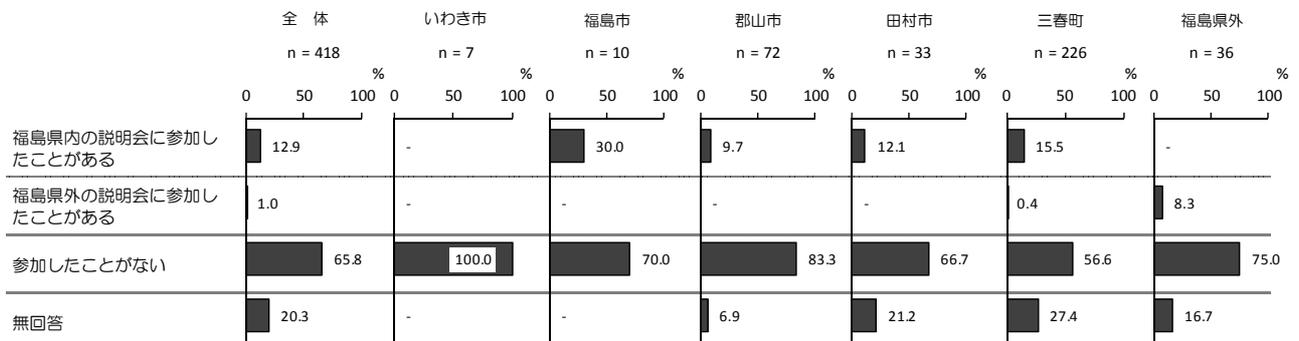
<図表3-3-2-2 葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況(世帯主の年齢別)>



Ⅲ 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「県内の説明会に参加したことがある」は福島市で30.0%と他の自治体に比べて高くなっている。

＜図表3-3-2-3 葛尾村以外の放射線に関する説明会への参加状況（避難先自治体別）＞



III 調査結果

3-4 意見・要望

問 16 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ち、避難生活で困っていることなどを、ご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、168 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難生活の長期化への不安 元の生活が取り戻せるかどうかの不安 元の生活、安定した生活の回復 元の生活に戻ることについてのあきらめ 現在の生活の経済的な不安について 現在の生活の健康に関する不安について 現在の生活の仕事・学業に関する不安について その他現在の生活の不安について 将来の生活の経済的な不安について 将来の生活の健康に関する不安について 将来の生活の仕事・学業に関する不安について その他将来の生活の不安について 生活（再建）支援について その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> 除染作業の意義について 除染作業にかかる費用の他への活用について 除染作業の効果などについて 除染作業の実施箇所などについて 除染作業の早期・迅速・的確な実施について 除染作業スケジュール明確化について 中間貯蔵施設について その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還困難区域への立入りについて 帰還困難区域等の設定について 所有する住まい・土地の買取りについて 自宅の現状（被害状況）について 自宅の再建・改築・解体について その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復旧・復興の遅れ、長期化について 復旧・復興スケジュールについて 復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について 町村合併について ライフライン・インフラの整備について 社会福祉施設の整備について 住民の参加・自助努力について 早期の原状回復・復興実現について その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> 賠償内容・方法について 賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について その他所有する住まい・土地に対する賠償について その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃炉作業の迅速な実施について その他廃炉作業について その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰還への不安 帰還可能時期の明確化について 帰還したい 帰還しない 帰還に関する施策について 帰還を望まない人への対応について その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政や東電の対応について 対応の長期化、遅れについて 情報の開示・発信について 中長期的スケジュールについて その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> 復興公営住宅の早期・迅速な建設について 復興公営住宅の建設地・形態等について 復興公営住宅に係る経済的負担について 復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 復興公営住宅への入居について 居住場所の確保について 借上げ住宅について その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後のエネルギー政策について 行政に対する謝意、励まし その他

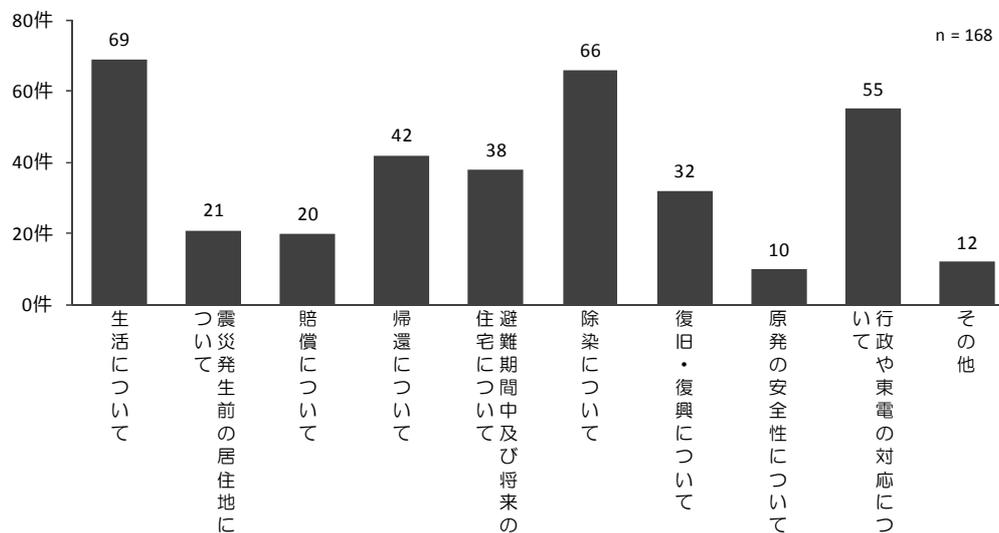
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が69件と最も多く、次いで「除染について」が66件、「原発事故に対する対応について」が55件などとなっている。

<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>

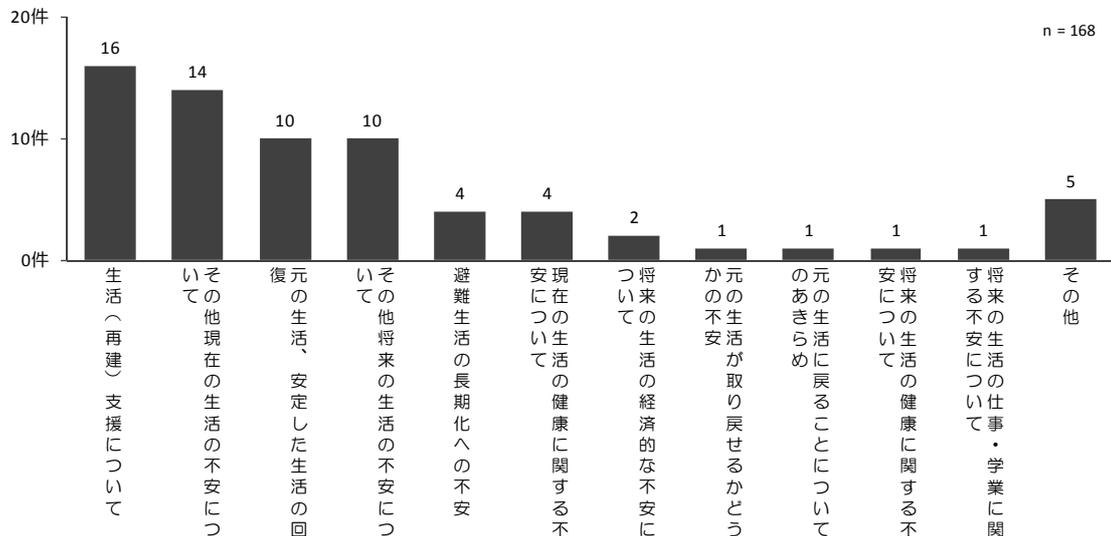


Ⅲ 調査結果

(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、部屋の狭さなどの「生活（再建）支援について」が 16 件と最も多く、次いで「その他の現在の生活の不安について」が 14 件、「元の生活、安定した生活の回復」、「その他将来の生活の不安について」がともに 10 件となっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[生活（再建）支援について]

- 生活費が少ないので多くして下さい。（年齢不詳）
- 住宅再建確保の支援。道路、病院などの基盤の復旧時期の目途。継続的な健康管理の支援。（70代以上）
- 住宅の解体費や建替え費の支援。（60代）

[その他現在の生活の不安について]

- 震災前は、広い所で生活をし、家は離れているので周りに気をつかわずに生活できていたが、今は声ひとつ足音ひとつにいろいろと気をつかうので精神面でもつらい時がある。染量ももとのように下がり、自由に我が家に帰っていけるようにその頃は年齢も、高齢になるので不安です。（60代）
- 東電の事故収束が見えない。それどころかどんどん悪化している様に思える。そんな中、帰村してもまた避難しなければいけない状態になるのではないかと不安です。また除染の効果がわからない。本当に戻って大丈夫なのでしょうか？すぐ隣の部落には誰も住んでいない状況での帰村も考えられない。葛尾村で生活していきたいという気持ちはあるが、無理だと感じている。避難生活もつかれてきた。どこでも良いので落ちついて住める場所を葛尾村以外で考えはじめています。（10代～20代）
- 妻が身体障害者や高齢の家族を借上げ住宅で介護したり、面倒を見たりしているが、精神的にも肉体的にも負担がかなり大きい。こうした事へのきめ細やかな対応（賠償を含む）が必要である。（60代）

[元の生活、安定した生活の回復]

- 早く仮設から離れて、のんびりとした生活がしたい。（30代）
- 自分の家で〔落ち着いた生活〕を一日も早くしたい。家族一緒に過ごしたい。（50代）
- 葛尾村に老人ホームの建設を望みます。今、母は郡山のデイサービスへ通所しておりますが、やはり古里は懐かしく「帰りたい帰りたい」と待ち望んでおります。今年86才を迎える母ですが最後は、いつも一緒にお茶を飲み楽しく語り合い、仕事し、助け合いお世話になってきた葛尾村の方々と一緒に毎日を送れる事が出来れば幸せです。気兼ねなく語らい笑い合える場所が必要です。よろしくお願い致します。（60代）

【その他将来の生活の不安について】

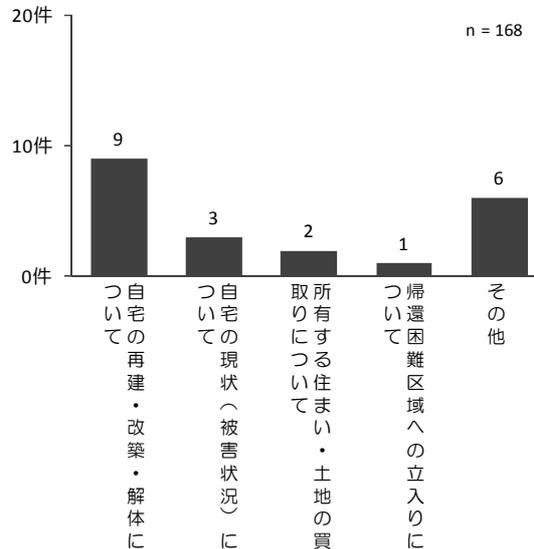
- 子育てしている私達家族は、除染しても少なくなっても元の通りの放射線量にはならないので、妻と子供は葛尾にもどさない。私は、葛尾で商売が成り立つなら私だけでも単身赴任で葛尾に戻り商売を再開したいが、もう葛尾では、商売にならないから、戻れない。この先、どの職業につき、子供はどこの小中学に入るのか先が見えないのは、不安以外の何物でもないです。(40代)
- 慣れない土地での生活で入籍したので、今後どのようにしたらいいか将来が不安です。(30代)
- 原発事故以来、国、東電、それに関わる原子力学者達への不信感は拭いきれず今も、信用できない。村の中で村政の「反対派閥」というレッテルをはられ、差別されているのに村へ帰っての生活に希望を持ちづらい。長年かかって築き上げた仕事、生活をいきなり中断され年齢的に再構築する気力・体力・資金力も残っておらず、どう生きればよいか分からない。(60代)

Ⅲ 調査結果

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改装・解体について」が9件、「自宅の現状（被害状況）について」は3件、などとなっている。

〈図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の再建・改装・解体について】

- 自宅は帰還困難区域。現在でも15～20 μ s v、屋内でも5 μ s v。除染の計画もなく、仮置場、焼却炉も放置され、戻れという言葉自体が問題外。新たな住宅再建のための完全賠償を求める。又、自治体職員は本気になって住民サービスを行うことを念頭において職務にあたって欲しい。(40代)
- 子供達、孫達と別々になり一緒に会うきかきも少なくこのままでは親子、孫とのつながりも、情うすきものなってゆくようでさみしい。いずれ村に帰る時、子供達がたずねて葛尾村に来てくれるか不安。住宅も古く建て直す費用の事など考えると気が重い。(60代)

【自宅の現状（被害状況）について】

- 持ち家について、2年間20km内で家へ出入できなかったため、動物（ハクビシンなど）に入られ、フンなどネズミのフン、地震など雨漏り、タタミ不用、土かべ、まきプロ、かべのひびわれなど、地震の損壊、フロがまも壊れている。屋内も放射線高いため、持ち家を壊し新しい家を作った時、戻りたいが何年かかるかわからない。放射能は年間1ミリシーベルト近くになってから戻りたい。三春町の復興住宅をさがしています。村でも考えて下さい、お願いします。山の物をとってたべられるようになってから、畑や田んぼの物が食べられるようになってから、浜通りへ通られるようになってから、葛尾村は不便だから、水の安全性、自治体について悪化しています。人と人の話し、悪口などがきこえる。(60代)

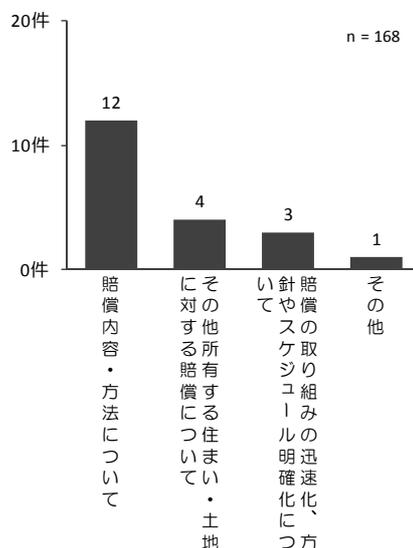
【所有する住まい・土地の買取りについて】

- 私は絶対にこの事故を許しません。私は何もわるい事をしていないのに私の住処を奪った。ほんとうに悔しいです。放射能をなくすのは無理です。そうすると私も何年もまてません。年を取り皆さんに迷惑をかけます。若いうちは村の役にたちたいと考えた事も有りました。でも今は水の泡に消えました。家の事ですが、住宅を東電又は国に買ってもらうのが一番いいと思います。だまっけては死んでしまいます。だめなんてあきらめてはいけません。生きているうちに解決して下さい。皆さんも良くがんばっています。感謝しています。よろしくおねがい致します。(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が12件と最も多く、次いで「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が4件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 将来（永久）生活賠償する事。（70代以上）
- 家屋賠償については、資産評価賠償ではなく再建費用の補償を考慮すべきと思う。賠償基準（土地、立木等含む）を早急に示すこと。（70代以上）
- 国へ要望。不動産はじめ、財物については、東電から再取得費用を基準にしない旨を示された。当方は、何の落ち度もなくすべてを失ったので、事故当時の時価で補償するというやり方には、到底承服しかねます。原子力政策を、国主導で、進めてきたのであるから、国として、国民の財産を守るべきであり、失われた物は、すべて補償されるべきである。（50代）
- 村の家の温水器が壊れていて、賠償してもらえるか不安。（60代）
- 現在の賠償金は避難年数の計算となっているが、放射線の建物被害が反映されてない。除染はあたりまえの事であるが、除染後村へ戻らないと決断した世帯には、すべての財物を国の公共事業として買い取るべきである。放射線の半減期は120年必要である。よって120年間賠償すべきである。帰還時には家族もばらばらになるため二重の支援が必要である。（60代）

[その他所有する住まい・土地に対する賠償について]

- 自宅は帰還困難区域。現在でも15~20 μ s v、屋内でも5 μ s v。除染の計画もなく、仮置場、焼却炉も放置され、戻れという言葉自体が問題外。新たな住宅再建のための完全賠償を求める。また、自治体職員は本気になって住民サービスを行うことを念頭において職務にあたって欲しい。（40代）
- このまま避難生活では展望がみえず、ストレスが蓄積するだけだ。早く除染をすすめ、帰村するんだという希望をもたせること。東電の賠償もまったく進まず、いらだつ。再建を計るためには、残在価値の賠償では不可能であり、全て再取得額で賠償すべきだ。しかも急いでやるべき。自治体も、これらについては強力に動いてほしい。村民の高齢化も進んでいる。早く帰村し、田畑を耕したり、安心させてやりたいものだ。復興のスピードを加速するよう、国、県に働きかけを願いたい。（50代）

Ⅲ 調査結果

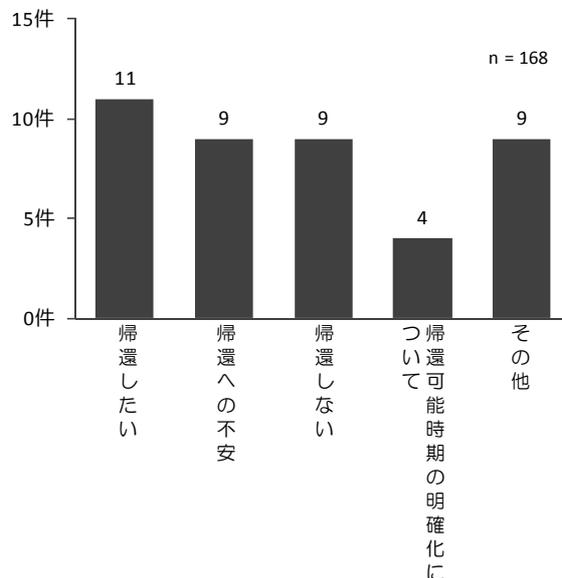
[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について]

- 東電の賠償について被災者の立場に立って敏速に進めていただきたい（財物等）。（70代以上）

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還したい」が11件と最も多く、次いで「帰還への不安」、「帰還しない」がともに9件などとなっている。

＜図表3-4-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還したい】

- 葛尾村に、早く帰れることだけを願っています。都会での暮らしは、合わないです。(70代以上)
- せまい仮設での生活は息苦しくて早く除染を進ませて頂いて1日も早く葛尾の我家に帰りたいです。(70代以上)
- 避難生活が解除された後、現時点では迷いがあるが出来る限り、戻りたいと思っている。長期間による避難で住宅は、大規模な修繕が必要となっている。帰村しても継続的な賠償をしてもらいたい。震災により飲料水等、住宅内の水道が止まっている。お盆、正月等、特例宿泊があっても泊まる事が出来ないでいる。早くポーリング等をしてもらい、安心して使用出来る水を確保して頂きたい。(50代)

【帰還への不安】

- 本当に帰って、村でもとの生活はできるのでしょうか？これを考えた時、とっても不安になります。一方では、早く、落ち着いてのんびり、過ごしたいと言う気持ちもあります。(60代)
- 放射線量が事故前と同じ位に戻るのであれば、戻って生活したいと思います。現状では判断が付きません。(70代以上)

【帰還しない】

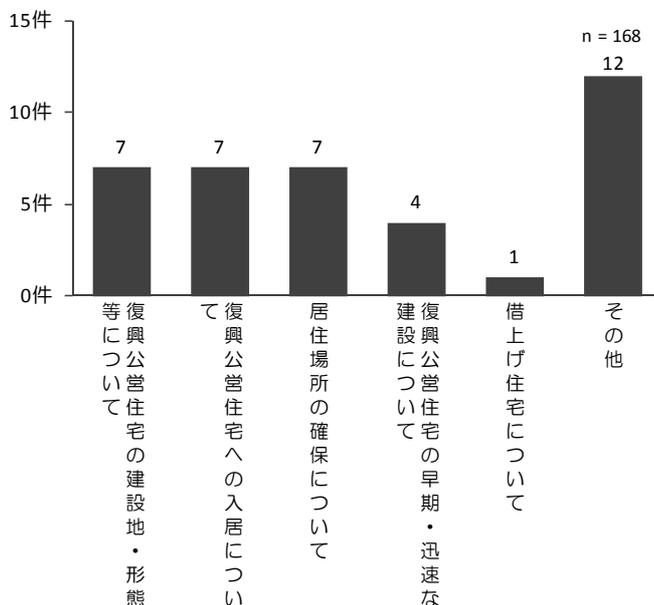
- 若い女性、男性、子どもたちの将来をきちんと考えているのであれば、戻る必要はない。また、戻ってはならない。(10代~20代)
- 今は放射線2~3、高いところは3~4くらいあるので帰るのになれない。山に入ると5~7はどこ歩いてもあるので除染してどのくらい下がるか？また家に帰ってもサルやイノシシで生活ができないと思う。今サルがときどき群れて40くらいきてます。こんな事では何をつくっても家を取る事がむずかしいと思う。あとはすこしこわれただけなので帰れたらすぐにでも帰りたい。放射線の事を考えると今は帰る気にならない。(70代以上)

III 調査結果

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」、「復興公営住宅への入居について」、「居住場所の確保について」がいずれも7件などとなっている。

＜図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅の建設地・形態について】

- ・復興住宅は入居者の要望を聞いて作っていただきたい。(60代)
- ・復興住宅を三春に建てる事は復興にならないと思う。子供達が戻る事が出来ないのであれば年寄りだけでは葛尾に戻ってもやっていけない。(70代以上)

【復興公営住宅への入居について】

- ・復興住宅には、帰還困難区域以外の住民は入居事が出来ないのだろうか。村に戻る事が大事だとは思いますが…(50代)
- ・これから出産を考えている世帯にも復興住宅に申し込める様にしてほしい。(30代)

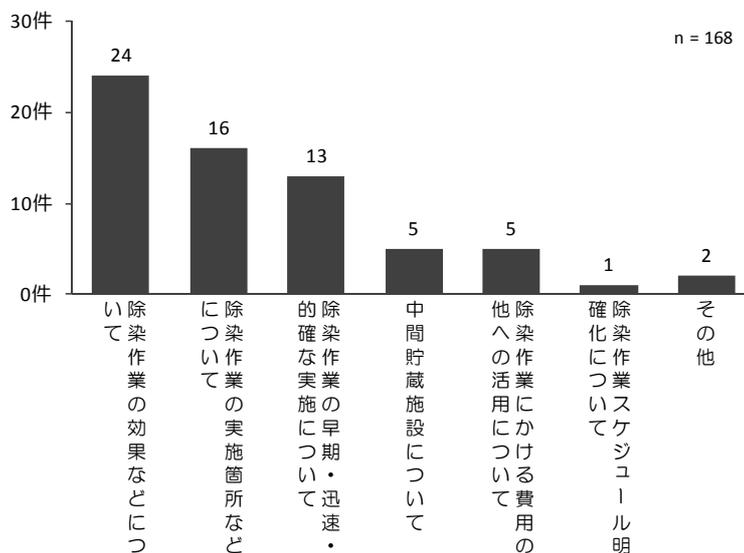
【居住場所の確保について】

- ・国、自治体でアパートの空き状況、一戸建の空き状況、売り物件などの情報を知らせて欲しい。本など見てもあまり情報がない。近隣の情報が知りたい。(30代)
- ・東電の事故収束が見えない。それどころかどんどん悪化している様に思える。そんな中、帰村してもまた避難しなければいけない状態になるのではないかと不安です。また除染の効果がわからない。本当に戻って大丈夫なのでしょうか？すぐ隣の部落には誰も住んでいない状況での帰村も考えられない。葛尾村で生活していきたいという気持はあるが、無理だと感じている。避難生活もつかれてきた。どこでも良いので落ちついて住める場所を葛尾村以外で考えはじめています。(10～20代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の効果などについて」が24件と最も多く、次いで「除染作業の実施箇所などについて」が16件、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が13件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の効果などについて】

- 葛尾村は森林が多い自治体なので、除染の効果が表れてくるのは、長い時期がかかると思います。完全な除染は、不可能なことではないかと思えます。帰村に向かって前進しているのはわかっていますが、将来のことを考えた場合、国全体がこの問題の解決に本腰を入れて行政活動をしないといけないのではないかと。(40代)
- 除染区域内の倒木等を除却しないのでは、線量はさがらないのではないかと。もっと、徹底した除染をしてほしい。(60代)
- 私達の近所では除染が終了しましたが、放射線が除染前と数値がほとんど変わらないのはなぜでしょうか。村内すべて除染されても同じだった場合にはどのような対策を考えていますか。(60代)

【除染作業の実施箇所などについて】

- 現在進行中の除染は、本格的な除染とはいえない！村内、山、林が多い為に山林の除染をしなければいけない。(60代)
- 建屋周辺の除草では除染にならない。完全に表土を撤去する事（他地域作業）。建屋屋根のふき取りは除染とはならない。表面を洗いながさないと除染率は下がらない（洗剤にて手洗いの事）。現状工法では汚染物のうわぬりである。建屋周辺及び、田畑のみの除草及びふき取りでは線量は下らない。全域の除染（完全な）必要。全域の完全な除染が出来なければ除染しないエリアから除染完了地域への汚染水の移動がある。除染後に田、畑、を利用して自営作物が出来なければ帰省は不可能では。線量計を配布しても周辺環境の線量は下らない。(60代)
- 住民の意向にそった除染を実行してほしい。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

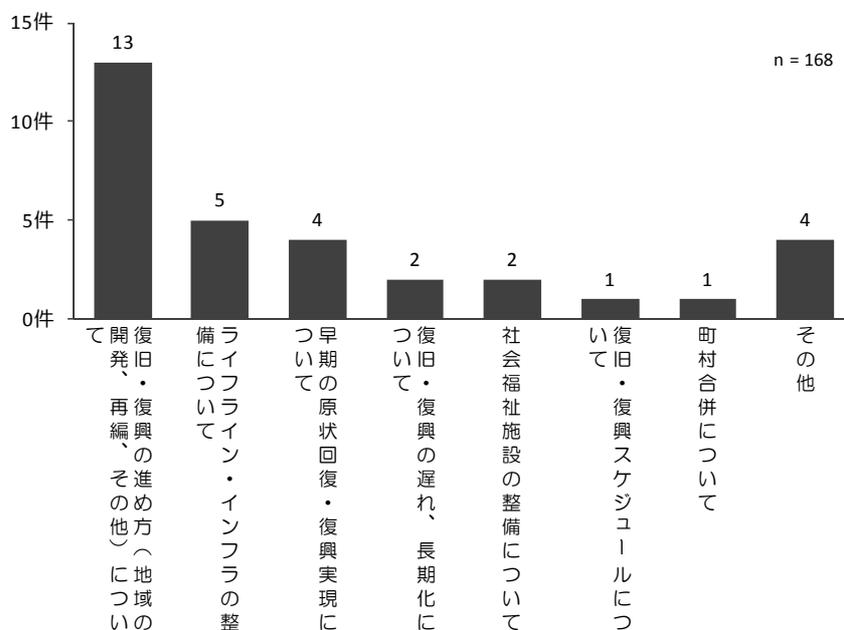
【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 帰村する為に井戸水の確保、リフォームなど、除染後に始めようと思っているので早く除染をお願いしたい。(60代)
- 徹底した除染をお願いしたいし、下がらなければ何回でも作業してほしい。若者が定住出来、高齢者が安心して住める環境づくりを最優先すべきだと思います。(60代)
- 除染をしっかりやってほしい。中途半端では困る。東電事故の収束。事故によって放出された放射性物質は国・東電によってすべて回収すべき。(その義務を果たす姿が見えない。) 今後の生活に不安がある。(収入の減少) 東電事故以前の状況に一日も早く戻してほしい。(40代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが13件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が5件、「早期の原状回復・復興実現について」が4件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 村の復旧、復興というなら第一に村の職員がもどって村民の世話をしないと何も始まらないと思います。村の議員、農業委員、区長など先に立ってやっていた人たちがもどって村民をひっぱっていかないと何も出来ないと思います。（60代）
- 双葉郡内各町村の考え、復興計画では、本当に復興に向っていかないと。双葉地方全体を一つとして考え、国レベルで原発被災地方の『モデル都市』みたいなものを町村の垣根を取り外し構築して欲しい！そうすれば、郡民、県民の他の人々が双葉地方に住みたくなるかも？（40代）
- 葛尾村の復興には復興住宅は線量の低い村間に建て働く場所へ先に支援する様な体制を作る事で村全員の帰還でなければ村の存続は有りえないと思う。葛尾村は農業中心の村なので農業できる農地の完全に除染をし再開されるよう国・県・村に要望します。農業という仕事は年齢を考えても従事出来る仕事です。（60代）

【ライフライン・インフラの整備について】

- 生活水の確保。インフラの整備。（70代以上）
- 早期なインフラ整備を進めること。帰還を考えている人達の帰った場合十分な対策をしてほしい。（60代）

【早期の原状回復・復興実現について】

- これまで豊かな自然と共に生き、森林や農地を除染しなければ帰還は難しい、帰る事が出来ない。復興の道のりは長い、だがそれで事故が収束し復興が早く進む事を祈るだけ国も力を入れてほしい。古里は近い近い村なのに、月よりも遠い村になった。早い復興を願うだけです。（70代以上）

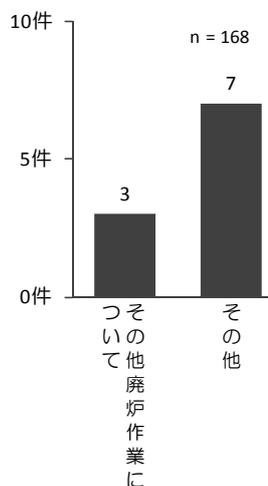
Ⅲ 調査結果

- 長期化の避難生活は普通の生活とは違い、目には見えないストレスを全ての住民が少なからず受けています。月日の移り変わりと同じく精神的ストレスにも変化があり、知らず知らずのうちに、身体に悪い影響を及ぼしています。あきらめ半分の様に生活されているのが現実です。線量よりも恐ろしい、心のストレス、家がそこにあるのに戻れない情けない感情。自立は今後できるのでしょうか。それがとても不安です。仮設住民の高齢化、村民に希望はあるのでしょうか。ただ普通の日常の生活を強く希望したいと思います。村民である子供達を平等に育てていただきたい。この子供達が葛尾の将来をひらいて行くのだと思います。村を忘れないでいて欲しいと願っています。今は子供で小さな力ですが、何年後かに葛尾を背負う子供達です。子供の親世代を大切にすることで、村の成長もあるのではないのでしょうか。一日も早い仮設からの復興を願います。(40代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性について、「その他廃炉作業について」が3件となっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[その他廃炉作業について]

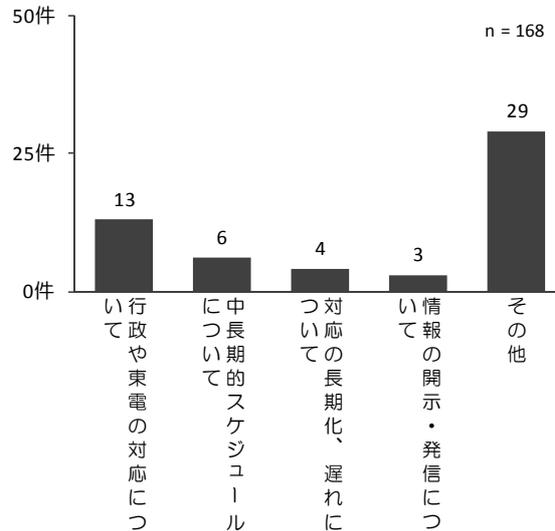
- 本来なら10年は帰れないのに早く帰そうとする意味が分からない。福島第一原発がまだおさまっていないのに安全だと言っている意味も分からないし、もっと東電や国に今の状況を説明させるべきだと思います。福島第一原発がおさまっていないのに除染しても意味がないですよ。(40代)
- 福島原発は全部廃炉にすること。(60代)

III 調査結果

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が13件と最も多く、次いで「中長期的スケジュールについて」が6件、「対応の長期化、遅れについて」が4件となっている。

＜図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 葛尾村は復興計画も無し、生活環境の整備もなく帰って生活ができませんか。国は避難地域の農業振興のなんの明示もない、これでは農業は成立しません。(70代以上)
- 今回の原発事故は加害者と被害者が明確であるのに加害責任者が大手を振って歩き、被害(損害)が無かったかごとき言動は許すことができない。今回教訓として思い知らされたのは、「行政」は「住民」に対して何の役にも立たないこと。双葉郡はまとまりがなく、国や東電の思う壺である。マイナス要因があまりにも多く、現時点で復興は思い浮かばず。(60代)
- 県内(福島市)に身内が以前住んでいた家を補修して入居したが、かかった費用は認められなかった。避難中、村役場から近況等調査がなかった。県に苦情を言ったら、早速役場から連絡がきた。仮設住宅は、様々なフォローがあるようだが、それ以外の住宅には何もない。等しく住民サービスを受けていないと思う。電話でも良いので、近況等確認してほしい。役場に強く要望する。サービスを受けていないのに税を徴収するのはいかがなものか。役場職員に気配りしてほしい。厳しい目を向けていることを忘れないように。(70代以上)

【中長期的スケジュールについて】

- 住民に全ての事をつつみかくさず公表すべき。今後の方向性をきっちりとした形で伝えるべき。あやふやな情報は流すな。(70代以上)
- 汚染水の問題、除染された土壌の問題、中間貯蔵の施設、地下水対策、除染(山林)住宅の確保等々、国あげて1日も早い問題解決に取り組んでほしい。(70代以上)

【対応の長期化、遅れについて】

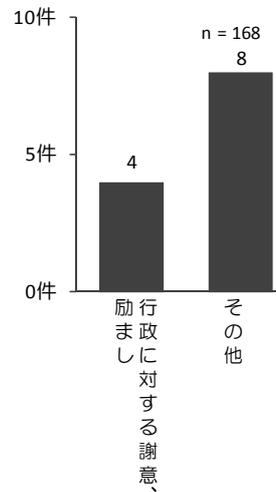
- 国、県にたよらず自治体自身進めていってはどうでしょうか 東電と同じく後手後手になっていると思います。(60代)
- すべてが後手であり、仮設に住んでる人も、ストレス等、留っていると思われる。(30代)

Ⅲ 調査結果

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が4件となっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 仮設に入居してまもなく6ヶ月の一人暮らし。80才にまもなくなる所でふりむけば何回と手術をし、週に何回となく病院通い。色々村の皆様方のお世話になり、本当にうれしく思い毎日一人ぐらしで、私なりに明日に向かって命あるかぎり生きてまいります。これからも色々お世話になり、また金困でして世界中の皆様におねがい申し上げます。感謝の気持ちでいっぱいです。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票



葛尾村 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※調査票は無記名でお願いします。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**9月10日(火)まで**に、次の方法でご提出ください。

【仮設住宅にお住まいの方】

同封の返信用封筒に入れ、仮設内に巡回訪問いたします支え合いセンター職員にお渡しください。

【仮設住宅以外にお住まいの方】

同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください(切手は不要です)。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-966-047

[設置期間: 8月29日(木)~9月17日(火) 10時~17時]
土・日・祝を除く

復興公営住宅について

福島県

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

企画調整部避難地域復興局

Tel: 024-521-8617

葛尾村に関することについて

葛尾村

〒963-7719 福島県田村郡三春町大字貝山字井堀田287-1

三春出張所 総務課復興対策係

Tel: 0247-61-2850

IV 参考資料

昨年も同様の質問にご回答いただいておりますが、集計上必要なためご協力お願いいたします。

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒問3へ |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒問3へ |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒問3へ |
| 5. 団体職員 | 11. その他 [具体的に |
| 6. 公務員 |] |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 [具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |] |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を、以下から教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|-------|---------|
| 1. 上野川 | 5. 落合 | 9. 岩角 |
| 2. 野川 | 6. 夏湯 | 10. 広谷地 |
| 3. 上葛尾 | 7. 大放 | 11. 野行 |
| 4. 下葛尾 | 8. 大笹 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 当時世帯主だった | 2. 当時世帯主ではなかった |
|-------------|----------------|

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者 | 7. 学生 ⇒問 6 へ |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 8. 無職(職を探していなかった) ⇒問 6 へ |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していた) ⇒問 6 へ |
| 4. 団体職員 | 10. その他 (具体的に |
| 5. 公務員 |) |
| 6. パート・アルバイト | |

【仕事に就いていた方(問 5 (1) で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 (具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) |

【仕事に就いていた方(問 5 (1) で「1」から「6」、「10」と回答した方)にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他〔具体的に |
| 5. 公営住宅 | 〕 |

▼【問 6 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 6-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 修理すれば住める状況 |
| 3. 特に損傷はない ⇒問 7 へ |
| 4. わからない ⇒問 7 へ |

▼【問 6-1 で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問 6-2 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある | 5. カビが多く発生している |
| 2. 火災被害を受けている | 6. 屋内の放射線量が高い |
| 3. 動物等が侵入した跡があり荒れている | 7. その他〔具体的に |
| 4. 雨漏りの形跡がみられる | 〕 |

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 7 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 新地町

【 会 津 】

18. 会津若松市
19. 喜多方市
20. 会津美里町

【 中 通 り 】

5. 福島市
6. 郡山市
7. 白河市
8. 須賀川市
9. 二本松市
10. 田村市
11. 伊達市
12. 本宮市
13. 桑折町
14. 川俣町
15. 大玉村
16. 西郷村
17. 三春町

21. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)

→ (市・町・村)

22. 福島県外(具体的にご記入ください。)

→ (都・道・府・県) (市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在と震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(2) 震災発生当時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(3) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む) | 3. 合計3か所に分散 |
| 2. 合計2か所に分散 | 4. 合計4か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 民間住宅・公営住宅などの借り上げ住宅(無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在、自動車は何台保有していますか。(○は1つ)

- | |
|------------|
| 1. 1台 |
| 2. 2台 |
| 3. 3台以上 |
| 4. 保有していない |

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 犬を飼っている |) |
| 2. 猫を飼っている | |
| 3. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に | |
| 4. ペットは飼っていない | |

将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12 今後の職業についてどのように考えていますか。(○は1つ)

【震災時の職業が農林業・自営業・会社経営者の方は、下記にご回答ください。】	【震災時の職業が農林業・自営業・会社経営者以外の方は、下記にご回答ください。】												
<p>1. 現在仕事をしており、今後も続けたい</p> <p>2. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が<u>元の場所</u>で見通しが立っている</p> <p>3. 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が<u>元の場所以外</u>で見通しが立っている</p> <p>→ 具体的にご記入ください</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(都・道・府・県)</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(市・町・村・区)</td> </tr> </table> <p>4. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、<u>元の場所</u>で再開させたい</p> <p>5. 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、<u>元の場所以外</u>で再開させたい</p> <p>→ 具体的にご記入ください</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(都・道・府・県)</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(市・町・村・区)</td> </tr> </table> <p>6. 今後、仕事をする予定はない</p> <p>7. その他 (具体的に)</p>		(都・道・府・県)		(市・町・村・区)		(都・道・府・県)		(市・町・村・区)	<p>1. 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい</p> <p>2. 震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい</p> <p>3. 今後、震災発生当時に勤めていた<u>職場付近</u>で職場が用意されるなら、そこで働きたい</p> <p>4. 今後、震災発生当時に勤めていた<u>職場付近以外</u>の職場で働きたい</p> <p>→ 希望地があれば、具体的にご記入ください</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(都・道・府・県)</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%; height: 20px;"></td> <td style="width: 20%;">(市・町・村・区)</td> </tr> </table> <p>5. 今後、働く予定はない</p> <p>6. その他 (具体的に)</p>		(都・道・府・県)		(市・町・村・区)
	(都・道・府・県)												
	(市・町・村・区)												
	(都・道・府・県)												
	(市・町・村・区)												
	(都・道・府・県)												
	(市・町・村・区)												

【問 12 で「3. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近で職場が用意されるなら、そこで働きたい」「4. 今後、震災発生当時に勤めていた職場付近以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 職場を選ぶ際に、重要視することは何ですか。(○は3つまで)

1. 職場までの通勤時間	6. 雇用形態
2. 勤務地(通勤時間を除く)	7. 社会保険の有無
3. 職種・業種	8. 所定労働時間
4. 給料	9. その他 (具体的に)
5. 職場の規模	

【すべての方にかがいます。】

問 13 将来、葛尾村の避難指示が解除された後の葛尾村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(〇は1つ)

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 現時点で戻りたいと考えている
⇒問 13-3 へ | 2. 現時点でまだ判断がつかない
⇒問 13-1 へ | 3. 現時点で戻らないと決めている
⇒問 13-7 へ |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|

【問 13 で「2. 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にかがいます。】

問 13-1 葛尾村へ戻ることを判断する上で必要と思う情報等について、あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

1. 避難解除となる時期の目安に関する情報
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 水道水などの生活用水の安全性
9. 働く場の確保の目途
10. 受領する賠償額の確定
11. その他(具体的に)
12. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない ⇒問 14 へ

【問 13-1 で「1」から「11」と回答した方にかがいます。】

問 13-2 上記(問 13-1)で選んだ情報等のうち、重視したいものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。

そして、その情報等について、どのような条件であれば戻りたいと考えますか。
具体的な条件の内容をお書きください。

選択肢番号	具 体 的 な 内 容
(例) 2	元の人口の半分でも戻ってくるのであれば

➡ 問 14 へお進みください

【問 13 で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にかがいます。】

問 13-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む) | 5. 親戚・知人宅 |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | 6. その他 (具体的に) |
| 3. 公営住宅 | 7. 現時点では判断できない |
| 4. 家族のどなたかのお住まい・実家 | |

「1.元の持ち家(自宅)(建替える場合を含む)」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 13-4 へお進みください

「2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」から
「6.その他」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 13-5 へお進みください

「7.現時点では判断できない」を選んだ方 ⇒ 次ページ 問 13-6 へお進みください

IV 参考資料

【問 13-3 で「1. 元の持ち家（自宅）（建替える場合を含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 13-4 元の持ち家に戻る場合、ご自宅に対してどのような修繕などが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 1. 震災で壊れた部分の修繕 | 7. 解体し建替え |
| 2. 住宅外壁の修繕 | 8. その他（具体的に） |
| 3. 屋根などの修繕 | |
| 4. 住宅内部のリフォーム | 9. 修繕の必要はない |
| 5. 家財などの買換え | 10. 帰還時期がわからないためどの程度の修繕が必要かわからない |
| 6. 住宅の清掃・消毒 | |

【問 13-3 で「2」から「6」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 へお進みください

問 13-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから | 5. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | 6. その他（具体的に） |
| 3. 元の持ち家(自宅)周辺が帰還困難区域、居住制限区域に指定されているから | |
| 4. 葛尾村内の新たな場所で生活を開始したいから | |

【問 13 で「1. 現時点で戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 戻る場合に行政にどのような支援を望みますか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 住宅再建、確保の支援 | 9. 放射線に関する説明会などの実施 |
| 2. 継続的な健康管理の支援 | 10. きめ細かいモニタリングとその継続(空間線量率、水、食料品等) |
| 3. 雇用確保や事業再開の支援 | 11. 地域自治会等のコミュニティ活動への支援 |
| 4. 役場からの継続的な情報提供 | 12. イノシシ・ネズミ等の駆除 |
| 5. 商店の再開 | 13. その他（具体的に） |
| 6. バス等の公共交通機関の運行 | |
| 7. 医療機関・介護・福祉サービスの再開 | |
| 8. 学校や教育施設の再開 | |

問 14 へお進みください

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 【帰還の前提・健康に関わるもの】 | 【今後の生活に関わるもの】 |
| 1. 放射線量が低下せず不安だから | 14. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから |
| 2. 原子力発電所の安全性に不安があるから | 15. 他の住民も戻りそうにないから |
| 3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから | 16. 浜通りの生活関連サービスが戻らないから |
| 【村内の復旧状況に関わるもの】 | 17. 帰還までに時間がかかるから |
| 4. 葛尾村に戻っても仕事がなさそうだから | 18. 避難先で仕事を見つけているから |
| 5. 葛尾村での事業の再開が難しいから | 19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから |
| 6. 営農などができそうにないから | 20. 避難先の方が生活利便性が高いから |
| 7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから | 21. その他（具体的に） |
| 8. 葛尾村外への移動交通が不便だから | |
| 9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから | |
| 10. 医療環境に不安があるから | |
| 11. 介護・福祉サービスに不安があるから | |
| 12. 教育環境に不安があるから | |
| 13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから | |

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。

(1) 現在のお住まいの自治体にそのまま居住されるご予定ですか。(○は1つ)

1. 現在住んでいる自治体に住むつもり	} ⇒問 13-9 へ
2. 現状ではどうするか決まってない	
3. 別の自治体に転居したい	

【問 13-8(1) で「3. 別の自治体に転居したい」と回答した方にうかがいます。】

(2) 転居を希望される自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】		【 会 津 】	
1. いわき市		21. 会津若松市	
2. 相馬市		22. 喜多方市	
3. 南相馬市		23. 会津美里町	
4. 広野町			
5. 楡葉町		24. 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)	
6. 川内村		→ <input type="text"/> (市・町・村)	
7. 新地町			
【 中 通 り 】		25. 福島県外(具体的にご記入ください。)	
8. 福島市		→ <input type="text"/> (都・道・府・県)	<input type="text"/> (市・町・村・区)
9. 郡山市			
10. 白河市			
11. 須賀川市			
12. 二本松市			
13. 田村市			
14. 伊達市			
15. 本宮市			
16. 桑折町			
17. 川俣町			
18. 大玉村			
19. 西郷村			
20. 三春町			

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-9 今後のお住まいとして希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)	
2. 持ち家(集合住宅)	
3. 民間賃貸住宅(一戸建)	
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)	
5. 公営住宅	
6. 給与住宅(社宅など)	
7. 家族のどなたかのお住まい・実家	
8. 親戚・知人宅	
9. その他(具体的に)
10. 現時点では判断できない	

IV 参考資料

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-10 今後居住される予定のお住まいを確保されていますか。(○は1つ)

1. 今後住むための家を確保している(もしくは確保する予定)
2. まだどうするか決めていない
3. その他(具体的に

)

【問 13 で「3. 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-11 震災時に居住されていた葛尾村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 住宅の確保の支援
2. 継続的な健康管理の支援
3. 雇用確保の支援
4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
5. 役場からの継続的な情報提供
6. 一時帰宅支援
7. その他(具体的に

)

これまでに参加した説明会についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 14 これまでに葛尾村で開催した住民懇談会や放射線に関する説明会にどれくらい参加していますか。

(○はいくつでも)

1. 平成 23 年度 行政懇談会
2. 平成 24 年度 葛尾村住民説明会
3. 平成 24 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会
4. 放射線とその影響を知ろう
5. 平成 24 年度 第 2 回葛尾村住民懇談会
6. 放射線の基礎知識と身の回りの放射線と人体影響について
7. 平成 24 年度 第 3 回葛尾村住民懇談会
8. 平成 24 年度 第 4 回葛尾村住民懇談会
9. 平成 25 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会
10. 復興公営住宅に係る説明会(第 1 回)
11. 参加したことがない

※(参考) 葛尾村で開催した住民懇談会、放射線に関する説明会一覧

選択肢 番号	名 称	対 象	開催日
1	平成 23 年度 行政懇談会 (除染、放射線について)	全行政区	平成 24 年 1 月 14 日～22 日
2	平成 24 年度 葛尾村住民説明会 (除染、区域見直し、賠償について)	全行政区	平成 24 年 8 月 5 日
3	平成 24 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会 (区域見直しについて)	全行政区	平成 24 年 8 月 25 日～31 日
4	放射線とその影響を知ろう	寿学級	平成 24 年 10 月 3 日
5	平成 24 年度 第 2 回葛尾村住民懇談会 (区域見直しについて)	野行・広谷地・ 岩角	平成 24 年 12 月 24 日
6	放射線の基礎知識と身の回りの放射線と人体 影響について	女性学級	平成 25 年 1 月 22 日
7	平成 24 年度 第 3 回葛尾村住民懇談会 (バリケードの設置について)	野行	平成 25 年 3 月 9 日
8	平成 24 年度 第 4 回葛尾村住民懇談会 (復興計画、区域見直し、除染、賠償について)	全行政区	平成 25 年 3 月 17 日
9	平成 25 年度 第 1 回葛尾村住民懇談会 (復興計画の進捗、まちづくりについて)	全行政区	平成 25 年 7 月 6 日～12 日
10	復興公営住宅に係る説明会(第 1 回)	野行・かげ広谷 地・子育て世帯	平成 25 年 7 月 28 日

【すべての方にうかがいます。】

問 15 葛尾村の開催以外で、放射線に関する説明会に参加されたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 福島県内の説明会に参加したことがある
2. 福島県外の説明会に参加したことがある
3. 参加したことがない

IV 参考資料

【問 15 で「1. 福島県内の説明会に参加したことがある」もしくは「2. 福島県外の説明会に参加したことがある」と回答した方にうかがいます。】

問 15-1 参加した説明会の名称と主催を教えてください。

選択肢番号	名 称	主 催
(例) 1	食品と放射線に関する説明会	福島県

【すべての方にうかがいます。】

問 16 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ち、避難生活で困っていることなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

9月10日（火）までに、次の方法でご提出ください。

【仮設住宅にお住まいの方】

同封の返信用封筒に入れ、仮設内に巡回訪問いたします支え合いセンター職員にお渡しください。

【仮設住宅以外にお住まいの方】

同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

**葛尾村 住民意向調査
報告書**

**平成26年3月
復興庁**

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター